

宮 崎 県 総 合 博 物 館

年 報

令和 2 年度

No. 50

はじめに

本館は、昭和 26 年に開館した県立博物館を前身とし、昭和 46 年 3 月に自然、歴史、民俗部門を併せ持つ総合博物館として開館し、令和 3 年 3 月 7 日に開館 50 周年という大きな節目を迎えることができました。開館以来、郷土に根ざした文化の向上に貢献する開かれた博物館を基本理念として、来館者に驚きと感動を与える多彩な特別展の開催や多様な教育普及活動を展開して参りました。この間、博物館の活動に御支援、御協力を賜りました県民の皆様並びに関係各位に、心から感謝を申し上げます。

令和 2 年度は、前年度から感染拡大が続いている新型コロナウイルスの感染拡大により、4 月 21 日から 5 月 10 日まで臨時休館となり、7 月から予定していた特別展「モンスター水族館」や多くの博物館講座を中止するなど、県民の皆様にお迷惑をお掛けすることになりました。

一方で、館内における万全のコロナ感染対策を講じながら、春には、今回 40 回目の節目を迎えた特別展「第 40 回 SSP 展～自然を楽しむ科学の眼～」を開催し、秋には特別展「みやぎきの神楽」を開催することができました。特に「みやぎきの神楽」展は、本県を代表する文化である神楽をテーマとした初の展覧会であり、過去 5 年間で開催した秋の特別展の中で、最高の入場者数を記録しました。

また、開館 50 周年の記念事業については、11 月から 50 周年を記念した「みやはく検定」などのイベントや「県立博物館から総合博物館 50 年のあゆみ」プレ展示等を実施しました。また、3 月 6 日、7 日で開館記念の感謝祭を開催し、6 日には、名古屋大学博物館長の吉田英一教授による不思議な球状の石「コンクリーション」をテーマにした記念講演会、民家園での昔のあそび・くらしの体験、神楽公演などの「民家園みやはく 50 感謝祭」を開催しました。7 日には、来賓の県議会議長をはじめ博物館関係者約 60 名が出席した記念式典を開催し、これまで長年にわたり博物館に貢献のあった団体への感謝状の贈呈を行いました。

記念事業以外では、コロナ禍の中での新たな取組として、館のホームページ上に自宅で子どもから大人まで楽しめる動画や当館オリジナルのぬり絵、クイズコーナー等のコンテンツを集めた「おうちでみやはく」や 360 度カメラで館内をめぐるコンテンツ「バーチャルみやはく」を開設し、コロナ禍で自宅で過ごす県民へのサービス向上に取り組みました。

開館 50 周年を迎えた本館は、今後とも総合博物館としての重要性を認識しながら、本県文化振興の拠点として、更に一層尽力して参りたいと考えておりますので、なお、一層の御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和 3 年 4 月 1 日

宮崎県総合博物館

館長 川口 泰夫

《 目 次 》

はじめに

I	基本理念と活動方針	1
1	基本理念	1
2	活動の基本方針	1
II	本館の概要	2
1	本館のあゆみ	2
2	組織・予算・施設	3
(1)	組織	3
(2)	予算	3
(3)	施設	4
3	第3期中期運営ビジョン（令和2年度～令和6年度）	6
III	事業の実施状況	13
1	調査研究	13
(1)	調査研究の基本的な考え方と目標	13
(2)	個別テーマ調査研究	13
(3)	水系別総合調査研究	15
(4)	調査研究報告会	15
(5)	基礎研修	16
2	資料の収集・保存	17
(1)	資料の収集	17
(2)	資料の整理・登録	20
(3)	資料の保存	21
(4)	資料の修復	21
3	展示	22
(1)	常設展示	22
(2)	特別展示	27
(3)	エントランス展示・ロビー展示	31
(4)	民家園	33
(5)	利用状況	34
4	教育普及	42
(1)	学校教育支援	42
(2)	展示解説員による普及活動	45
(3)	博物館講座	48
(4)	「どこでも博物館」事業	51

(5) 民家園を活用した普及事業	5 2
(6) 関係機関との連携	5 4
(7) 福祉施設との連携	5 9
(8) レファレンス対応	5 9
(9) 博物館友の会の活動支援	6 0
(10) 研修室の利用	6 1
(11) 情報室の利用	6 3
5 開館 50 周年記念事業	6 4
(1) プレイイベント	6 4
(2) 民家園みやはく 50 感謝祭	6 4
(3) 記念講演会	6 4
(4) 記念式典	6 5
(5) 招待演奏	6 5
(6) 前庭イベント	6 5
(7) その他イベント	6 5
IV 情報発信及び経営	6 6
1 情報発信	6 6
(1) 広報推進委員会	6 6
(2) 博物館だより「森の通信」の発行	6 6
(3) ホームページ等による情報発信	6 7
(4) 博物館カレンダーの作成	6 7
(5) 県広報紙等への掲載	6 8
(6) その他の広報及びイベント	7 2
2 経営	7 4
(1) 来館者のアンケート調査	7 4
(2) 職員の資質向上	7 6
(3) 危機管理	7 7
(4) 県内にある博物館等との連携	7 9
V 宮崎県博物館協議会	8 0

[参考資料]

1 令和 2 年度 日誌抄	8 2
2 博物館の沿革	8 4
3 第 2 期中期運営ビジョン評価表（令和元年度分）	9 1
4 県総合博物館関係法規	9 9
(1) 宮崎県総合博物館条例	9 9
(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例（抄）	9 9
(3) 宮崎県博物館協議会条例	1 0 0
(4) 宮崎県総合博物館管理運営規則	1 0 1
(5) 宮崎県総合博物館処務規程	1 1 0
(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱	1 1 0
(7) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱の運用	1 1 3

I 基本理念と活動方針

1 基本理念

(1) 郷土に根ざした文化の向上に貢献する博物館

宮崎の自然史、歴史の資料を展示し、本県の教育や文化の発展に寄与する。

(2) 魅力ある開かれた博物館

県民のだれもが参加でき、楽しく学び、豊かな心を育てる。

(3) 研究を大切にする博物館

学術的な調査研究や積極的な資料収集を通して、新しい展示と情報の提供をする。

(4) 文化財や自然の保護に寄与する博物館

宮崎の自然史や歴史の資料を保管するとともに、本県の貴重な文化財や自然の保護に関する意識の醸成に努める。

2 活動の基本方針

(1) 調査研究

宮崎の自然史や歴史について、長期的展望にたつて調査研究をすすめ、その成果は研究紀要や調査報告書にまとめ、展示や普及活動に生かすとともに、他の博物館、教育機関、研究機関と連絡を密にして情報の交換を行う。

(2) 収集保存

宮崎の自然史や歴史について、一次資料に限らず二次資料を含め、計画的かつ長期的な視野にたつて収集する。収集した資料は、必要に応じて科学的な保存処理を行い、分類整理して保存するとともに、データベース化して収蔵資料に関する情報を提供する。

(3) 展 示

常設展示室では「宮崎の自然と歴史」をテーマに、実物資料・レプリカ・模型などで新鮮で分かりやすい展示を行い、県民の幅広い層に対応できる学習の場となるよう工夫する。特別展示室では、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を開催するほか、他の関係機関と共催で行う企画展や国内外からの巡回展も計画する。

(4) 教育普及

学校や他の教育機関等と連携を保ちながら、児童・生徒をはじめ県民の幅広い層に向けて講演会・見学会・各種講座等を開催し、学習や研究の場を提供する。

Ⅱ 本館の概要

1 本館のあゆみ

宮崎県総合博物館は、昭和 26 年に設立された「宮崎県立博物館」を前身とし、昭和 46 年に明治百年記念事業に伴う整備事業により、考古・歴史・民俗部門に自然と美術部門を併せ持ち、県民文化ホールを併設した総合博物館として現在の地で開館した。

また、昭和 47 年から昭和 53 年にかけて、本館東側に、県内に残っていたその地域独特の建築様式を持ち文化的価値の高い民家 4 棟を移築復元して「民家園」として整備しており、これにより現在運営している敷地内の施設レイアウトが概ね完成した。

それから四半世紀が経過し、常設展示内容の一新の必要性、生涯学習の場としての教育普及施設としての位置づけ、さらに美術部門の分離独立構想などにより再編整備の必要性が出てきたことから、平成 5 年から見直しに着手し、常設展示室を中心とする大幅なリニューアル工事を施した後、平成 10 年 5 月に、21 世紀に向けた文化施設にふさわしく、また楽しく開かれた体験型の博物館としてリニューアルオープンした。

この間、平成 7 年 10 月に、置県百年事業である県総合文化公園建設の一環として「県立美術館」が建設されたのを受けて、本館から美術部門が分離独立し、平成 8 年 4 月に、大規模開発に対応する発掘調査の拡大の中で、「県埋蔵文化財センター」が本館から分離独立した。また、本館の構成施設であった「西都原資料館」が平成 15 年 9 月末に閉館し、平成 16 年 4 月開館の「西都原考古博物館」に吸収されるとともに、本館構成施設の「西都原古代生活体験館」も同博物館に移管されるなどの組織改編が行われた。

その後、平成 17 年 4 月からの常設展の無料化や、平成 19 年 3 月の県民文化ホールの閉館を経て、平成 21 年度に、多様化する県民ニーズを踏まえ博物館事業を効率的かつ効果的に展開していく観点から、今後 5 カ年間の運営指針となる「中期運営ビジョン (H22-H26)」を策定し、そのビジョンに基づき、平成 22 年度から本県の特徴ある自然や歴史・民俗についての調査研究や、その成果を広く展示や多彩な教育普及活動に活かすなど各種事業を総合的かつ計画的に展開しており、現在は 3 期目の運営ビジョン (R2-R6) に基づき事業展開を図っている。



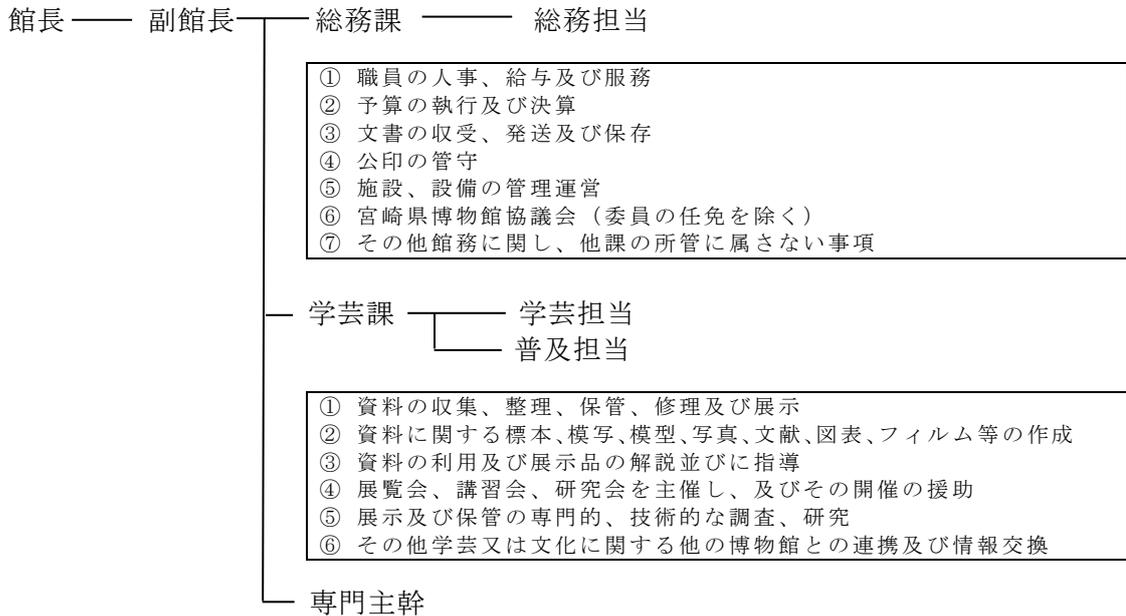
本館



民家園

2 組織・予算・施設

(1) 組織



【令和2年度職員】

職名	氏名	職名	氏名
館長	黒木 義博	学芸課 課長	福松 東一
副館長	長友 由美子	学芸担当リーダ	野添 和洋
専門主幹	長峯 勝志	主査	中山 貴義
		主査	外山 真樹
総務課 課長	片伯部 真一	主査	濱田 真理
総務担当リーダ	吉留 幸二	普及担当リーダ	黒木 秀一
主査	篠田 利香	主査	平松 憲太郎
主査	高橋 由紀子	主査	永田 文昭
		主査	竹下 隼人

(2) 予算

【令和2年度当初予算：223,170千円】

ア 博物館費：

199,108千円

- ・博物館協議会費（177千円）
- ・学芸員養成研修（233千円）
- ・インバウンド対応事業（2,750千円）
- ・管理運営費（135,948千円）
- ・老朽化対策事業（60,000千円）

イ 博物館教育普及費： 18,957千円

- ・特別展費（18,039千円）
- ・博物館講座等（918千円）

ウ 博物館資料整備費： 3,874千円

- ・調査研究費（1,035千円）
- ・資料収集費（2,839千円）

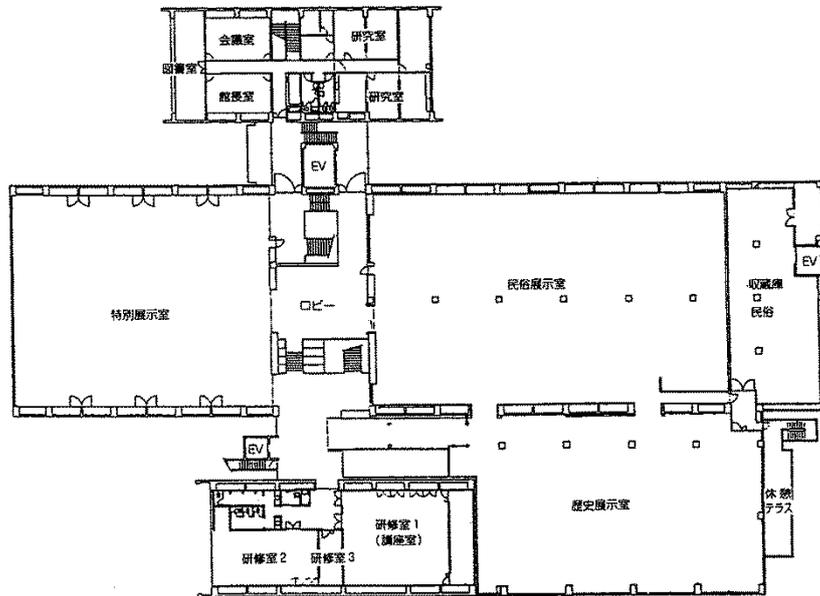
エ 文化財保護顕彰費： 1,231千円

- ・神楽のユネスコ無形文化遺産！県民応援事業（237千円）
- ・博物館がやってくる！文化財活用推進事業「どこでも博物館充実事業」（994千円）

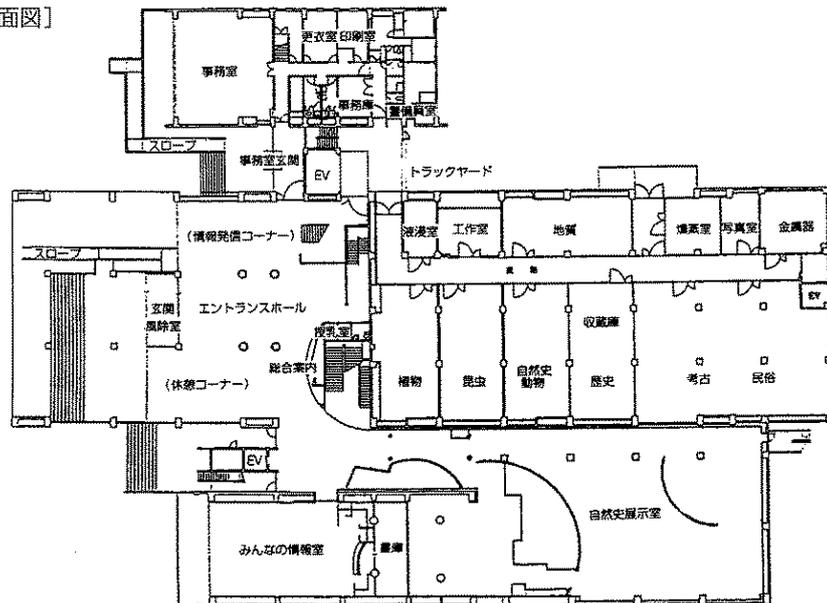
(3) 施設

① 本館	
○ 構造	鉄筋コンクリート2階建
○ 規模	建築面積 4,122.29 m ²
	延床面積 7,366.74 m ²
施設	常設展示室 2,645.80 m ²
	(自然史展示室 : 844.20 m ²)
	(歴史展示室 : 767.70 m ²)
	(民俗展示室 : 1,033.90 m ²)
	特別展示室 751.68 m ²
	その他(収蔵庫・事務室等) 3,969.26 m ²

[2階平面図]

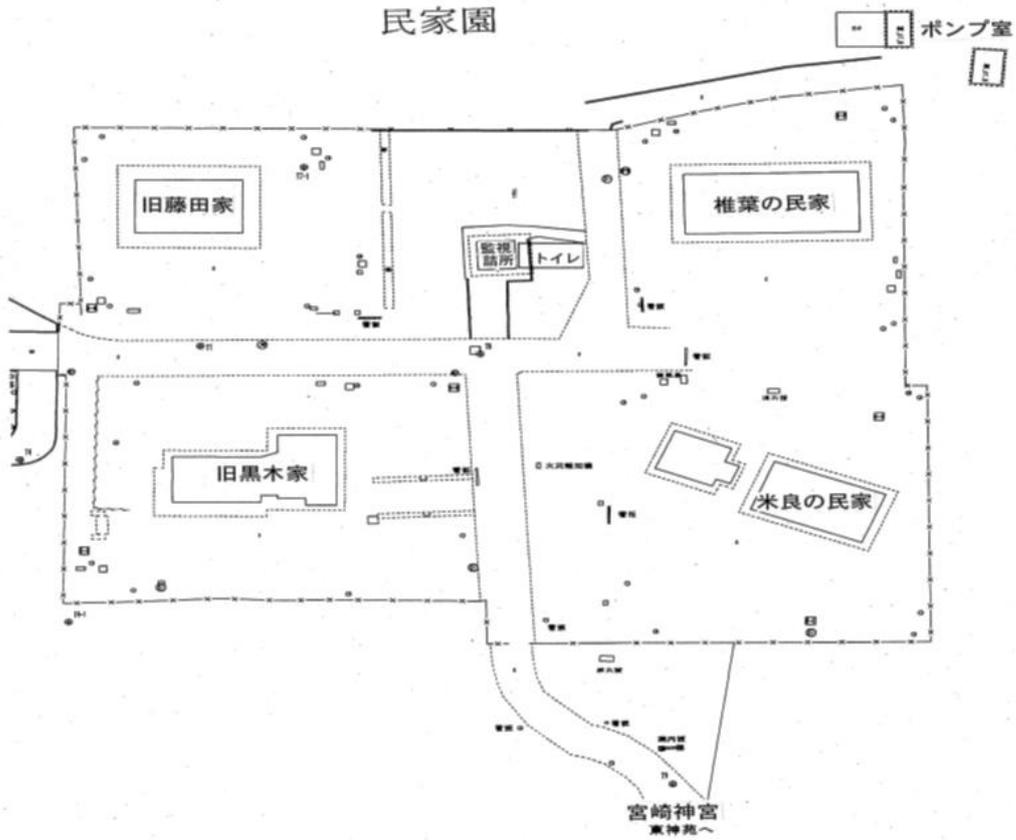


[1階平面図]



② 民家園	
○ 構造	木造平屋建寄棟造 茅葺 (4棟)
【国指定重要文化財】	
① 旧藤田家住宅	90.44 m ²
② 旧黒木家住宅	131.88 m ²
【県指定文化財】	
③ 米良の民家	110.13 m ²
(本屋: 78.37 m ²)	
(馬屋: 31.76 m ²)	
④ 椎葉の民家	137.97 m ²
③ その他	
○ 屋外トイレ	70.19 m ²
○ ポンプ室	24.78 m ²
○ 詰所	13.25 m ²

(出典: 「公有財産台帳」)



第3期中期運営ビジョン（令和2年度～令和6年度）

(1) ビジョン策定の目的

宮崎県総合博物館は、昭和26年4月1日に設置された宮崎県立博物館を前身として、昭和46年3月に自然史及び人文系の総合博物館として開館した。その後、平成10年にはリニューアルを行い、広く本県の教育、文化の向上に寄与するため、資料収集・保存、調査研究、展示及び教育普及活動を展開し、学校、各種団体との連携を深めるとともに、展示解説員の配置、常設展示の無料化などを通じて、利用促進に取り組んでいる。

このような中、平成22年度から平成26年度までを第1期、平成27年度から平成31年度（令和元年度）までを第2期とした宮崎県総合博物館中期運営ビジョンを策定し、目標達成に向けて事業を展開してきた。今後とも、県内博物館の中核施設としての機能や教育機関としての機能を発揮し、宮崎県の自然や歴史に対する生涯学習や学校教育の多様なニーズにこたえる博物館であるために、また、事業の総合的・計画的な推進を図る運営指針とするため、新たに第3期宮崎県総合博物館中期運営ビジョンを策定するものである。

(2) ビジョンの期間

ビジョンの期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間とする。

(3) ビジョンの基本的考え方

県民とともにある博物館を目指すために、次の4項目をビジョンの基本的考え方とする。

- ① 郷土の調査研究を大切にする博物館
- ② 魅力ある開かれた博物館
- ③ 郷土に根ざした文化の向上に貢献する博物館
- ④ 文化財や自然の保護に寄与する博物館

(4) 博物館運営の基本方針

ビジョンの基本的考え方の下、次の4項目を博物館運営の基本方針とする。

- ① 調査研究
宮崎県の自然、歴史、民俗について、フィールドワークを重視し、総合的・広域的な視野に立って、他の博物館、教育機関、研究機関等と連携を密にして情報交換を行いながら、調査研究を進め、その成果を研究紀要や調査報告書にまとめ展示等の情報発信や普及活動に生かす。
- ② 収集・保存
宮崎県の自然、歴史、民俗に関して、一次資料（実物資料）に限らず二次資料（複製物等）を含め、地域の人々の参加と協力の下で、体系的・継続的に収集する。
収集した資料及び未整理資料については、必要に応じて科学的な保存処理を行い、分類整理して保存するとともに、データベース化して収蔵資料に関する情報を提供する。
- ③ 展示
常設展示室では「宮崎の自然と歴史」を主題に、幅広い層の県民に対して興味と学習意欲を喚起するため、収蔵資料の展示替えを積極的に行いながら、実物資料、レプリカ、模型などを活かした分かりやすい展示を行う。
特別展示室では、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を開催するほか、他の関係機関と共催で行う企画展や国内外からの巡回展も積極的に開催する。
- ④ 教育普及
児童生徒をはじめ、県民の幅広い層の学校教育や生涯学習の場として、楽しく自由に学べる講演会・見学会・各種講座等を開催する。また、本県の貴重な文化財や自然の保護に関する意識の醸成に努める。

(5) 実施方針

(4)の基本方針を踏まえて、事務事業を推進するにあたっての方針は次のとおりとする。

- ① 調査研究
 - ・ 調査研究は、博物館事業の根幹をなす重要な活動であることから、調査研究を行う環境を整備し、重点的に取り組む。
 - ・ 資料の内容に関する学術的な調査研究のみならず、技術的な研究も実施する。
 - ・ 県内外の研究機関や研究者と積極的に交流を行うとともに、県民に対して成果を公表する。

1) 調査研究成果の公表

研究成果については、展示や教育普及活動等に生かすとともに広く県民に公表する。

研究紀要の発刊	年 1回
調査研究報告会の実施	年 1回

② 収集・保存

資料の収集・保存は博物館の最も基本的な業務である。県民共有の貴重な資料を次世代に伝えるため、宮崎県の自然や歴史に関する資料を広く収集し、整理・保存の上、館内外の活動への活用を図る。

1) 収集・管理

- ・ 資料は、基本方針に基づき短期的・長期的展望にたつて、寄贈、寄託、購入、採集、委託、提供等、各部門にふさわしい方法で積極的な収集に努める。ただし、寄贈等については、館内の資料受入委員会の審議を経て収集する。
- ・ 資料は、展示、調査研究、教育普及の博物館活動の充実を図る観点から、分野のバランスを考慮し継続的に収集する。
- ・ 関連書籍や文献、デジタルデータ等を収集し、調査研究機関としての機能充実を図る。
- ・ 収集資料（未整理資料を含む）の整理・登録を行い、データベース化を進めるとともに、デジタルミュージアム等を通じて公開する。

資料の収集	2,500点（5年間の合計）
図書・文献の収集	5,000点（5年間の合計）
収集資料の整理・登録	5,000点（5年間の合計）

2) 保存

定期的な収蔵庫・展示室を点検し、虫菌害の発生を防ぐ。また、虫菌害の発生を発見した場合は、速やかに適切な処置を施す。

トラップ調査	年 12回（月1回）
I PMウオッチング	年 12回（月1回）

③ 展示

展示は、見る人に興味を持たせ、発見・驚き・感動を与えたり、豊かな感性を育んだり、自ら学ぶ意欲を育てるなど、博物館を最も特徴づけるものである。県民の幅広い年代の要求に対応するとともに、展示物が身近に感じられるよう利用者の立場に立った展示に配慮する。さらに、新たな活用法や積極的な広報活動を行うために、福祉や観光等の関係機関との連携を図りながら利用者の増加に努める。

また、民家園4棟（国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟）の活用を進め、入園者増を図る。

本館入館者数及び民家園入園者数	年 17万人
-----------------	--------

1) 常設展

常設展示は、宮崎県に関する情報発信の場として、自然、歴史、民俗の3展示室構成とする。展示資料については適宜見直しを検討し、部分的な展示替えやコーナー展示を行う。

展示替等回数	年 15回
--------	-------

2) 特別展

特別展示は、調査研究の成果を活かした独自の企画展を実施するとともに、県民のニーズを参考に学術的意義を踏まえながら国内外の巡回展を開催する。

実施回数	年 3回
------	------

3) エントランス・ロビー展

本館エントランスと2階ロビーを活用し、時機を得た多様な展示やトピック展示、関係機関によるテーマ展示等を行い、県民の知的欲求に対応した情報提供に努める。

実施回数	年 15回
------	-------

④ 教育普及

宮崎県の自然や歴史、更に伝統文化に対する理解を深めるために、展示活動に加えて学習機会を提供する。また、学校や教育機関等との連携を図り、博物館機能の充実及び利用促進に努める。

1) 学校教育支援

2020年4月から改正される学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が改訂のポイントの一つとなっており、その実現に向けた授業改善の方法として「地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること」が重視されている。博物館に求められる学校教育に対する役割を果たす観点から、学校教育を積極的に支援する。そのため、学校への資料貸出しや授業支援を積極的に行うとともに、生徒の職場体験活動や教職員研修の受入れを図り、学校教育を補完する場として活用を図る。

授業支援 教員支援 学校への資料貸出し 職場体験学習の受入れ 博物館実習生の受入れ など	年 30回
--	-------

2) 展示解説

利用者の理解を深めるために、展示室に「展示解説員」を配置し、時代背景等分かりやすく関心を持たせるよう資料の解説を行う。

また、専門的知識を持つ学芸員は、学術的な解説を行う。更に、より深く学習を望む利用者には、関係機関の情報を提供するなど学習意欲を喚起させる。

なお、解説に際しては、個人、団体を問わず、資料提供地域に重点をおいた解説に考慮するなど、利用者の興味や関心を引き出すよう配慮する。

実施人数	年 10,000人
------	-----------

3) 博物館講座等

普及講座や特別展開連講座などを開催し、自然や歴史・文化に関する多様な体験・学習の機会を提供する。また、本館所在地から離れた地域に出向くアウトリーチ活動を継続的に実施するなど、多くの県民に対して学習の機会を提供する。

博物館講座等（アウトリーチ活動含む）	年 35回（アウトリーチ活動10回）
--------------------	--------------------

4) 民家園の活用

民家園の利活用を推進するため、特性を生かしたサービス活動を充実させる。また、民家園の理解促進を図る観点からボランティアの活動の充実を図る。

民家園事業の実施	年 25回
----------	-------

5) 県内外の関係機関・研究者との連携

宮崎県の中核博物館として、県内外の博物館や資料館、研究機関、研究者との連携を図るため、職員の派遣・招聘、資料の貸し借り、研究会への参画、共催事業の開催など積極的に対応する。

職員の派遣 他機関等からの職員等の招聘 他機関等の視察や調査の受入れ 本館資料の館内利用、貸出し、出版物等への掲載 本館が他機関等から資料を借用 他機関への調査や視察 共催事業の実施	年 120件
---	--------

6) 博物館と福祉施設との連携

「博物館で思い出を語ろう」事業などの取組みを通して、社会福祉施設等との連携を図る。

福祉施設との事業実施	年 80回
------------	-------

7) レファレンス対応

日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも相談にのれる博物館」として来館及び電話・メール等での相談に応じ、県民の知的要求に応える。

8) 研究発表会の開催

自然や歴史に関する調査研究の中核施設として、研究団体や研究者の研究活動の支援を行うとともに、県民に学習の機会を提供し、自然や歴史の関心を高めるための研究発表会を開催する。

研究発表会の実施	年 1回
----------	------

⑤ 情報発信

博物館の利活用を促進し、博物館活動を充実させるため、館内の「広報推進会議」において広報効果の検証や検討を行いながら、報道関係機関やインターネットを利用した情報発信機能を強化する。

1) メディアを通じた情報発信

博物館の展示会や講座等のみならず、博物館に関するあらゆる情報を、広報紙をはじめ様々なメディアを通じて積極的に発信する。

広報紙発行	年 4回
報道処理件数	年 50件

2) インターネットによる情報発信

ホームページやSNSを利用した適時の情報提供に努める。

ホームページ更新回数	年 60回
ホームページアクセス数	年 500,000件
SNS投稿回数	年 300回

⑥ 経営

博物館は教育機関であるとともに、サービス機関であることを念頭に置き、全職員が「おもてなしの心」を持って利用者に対応するとともに、研修の充実等により職員の資質向上を図る。

1) 博物館協議会や県民の意見の尊重

博物館の運営に関し内部評価を実施し、宮崎県博物館協議会から意見を聴取する。また、来館者のアンケートや利用者の電話等による様々な意見を真摯に受け止め、より良いサービスが提供できるよう努める。

アンケート収集件数	年 2,000件
集中アンケート実施回数 及び期間中満足度	年 4回 (80%)
全体満足度	80%

2) 職員の資質向上

職員が博物館の社会的役割を自覚し、宮崎県の「自然や歴史に関する唯一の総合博物館」としての機能の充実・向上を図るために、研修機会の確保に努める。

研修の実施と参加	年 20回
----------	-------

3) 危機管理体制の強化

地震等の自然災害や火災・病人発生等の危機に対して迅速に対応するため、防災訓練を実施するなど危機管理体制の強化を図る。

防災訓練	年 2回
------	------

4) 外部運営資金の獲得

公的資金や企業等の外部資金に応募し資金の獲得に館全体で取り組むことにより、博物館事業を円滑に進めるとともに事業の充実を図る。

外部運営資金への応募件数	年 2件
--------------	------

⑦ その他

1) ビジョンの見直し

本ビジョンは本県財政計画の変更や組織改編などの財源や定数等に変更が生じた場合には、必要に応じて見直すものとする。

【宮崎県総合博物館第3期中期運営ビジョン内部評価基準表】

評価の基準
 4: 指標を大きく上回った(120%以上) 3: 指標を達成できた(120%未満～100%)
 2: 指標をやや下回った(100%未満～80%) 1: 指標を大きく下回った(80%未満)

方針	項目	評価指標		評価基準				評価				総合
				4	3	2	1					
(1) 調査研究	調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	研究紀要や報告書を年2回以上刊行できた。	研究紀要を年1回刊行でき、対象職員全員が執筆できた。	研究紀要を年1回刊行したが、対象職員のうち10割未満～8割以上の職員の執筆であった。	研究紀要を年1回刊行したが、対象職員のうち8割未満の執筆にとどまった。または、研究紀要を刊行できなかった。	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
		調査研究報告会	年1回	年2回以上実施し、対象職員全員が報告できた。	年1回実施し、対象職員全員が報告できた。	年1回実施したが、対象職員のうち、10割未満～8割以上の職員の報告にとどまった。	年1回実施したが、対象職員のうち、8割未満の職員の報告にとどまった。または、実施しなかった。	4	3	2	1	
(2) 収集・保存	①収集・管理	資料の収集	2,500点 (5年間合計)	<最終年度に評価> 資料を3,000点以上収集できた。	<最終年度に評価> 資料を3,000点未満～2,500点以上収集できた。	<最終年度に評価> 資料を2,500点未満～2,000点以上収集できた。	<最終年度に評価> 資料を2,000点未満しか収集できなかった。	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
		図書・文献の収集	5,000点 (5年間合計)	<最終年度に評価> 図書・文献を6,000点以上収集できた。	<最終年度に評価> 図書・文献を6,000点未満～5,000点以上収集できた。	<最終年度に評価> 図書・文献を5,000点未満～4,000点以上収集した。	<最終年度に評価> 図書・文献を4,000点未満しか収集できなかった。	4	3	2	1	
		収集資料の整理・登録	5,000点 (5年間合計)	<最終年度に評価> 収集資料の整理・登録を6,000点以上行うことができた。	<最終年度に評価> 収集資料の整理・登録を6,000点未満～5,000点以上行うことができた。	<最終年度に評価> 収集資料の整理・登録を5,000点未満～4,000点以上行った。	<最終年度に評価> 収集資料の整理・登録を4,000点未満しか行うことができなかった。	4	3	2	1	
	②保存	トラップ調査	年12回	トラップ調査を年15回以上実施できた。	トラップ調査を年15回未満～12回以上実施できた。	トラップ調査を年12回未満～10回以上実施した。	トラップ調査を年10回未満しか実施できず、虫菌害発生の危険性を抑制できなかった。	4	3	2	1	
		IPMウォッチング	年12回	IPMウォッチングを年15回以上実施できた。	IPMウォッチングを年15回未満～12回以上実施できた。	IPMウォッチングを年12回未満～10回以上実施した。	IPMウォッチング年10回未満しか実施できなかった。					
(3) 展示	①入館者数	本館入館者数及び民家園入園者数	17万人	20万4,000人以上	17万人以上	17万人未満 ～13万6,000人以上	13万6,000人未満	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
	②常設展	展示替等回数	年15回	年18回の展示替えを実施できた。	年18回未満～15回以上の展示替えを実施できた。	年15回未満～12回以上の展示替えを実施した。	年間の展示計画を実現できず、年12回未満の展示替えにとどまった。	4	3	2	1	
	③特別展	実施回数(主催事業)	年3回	主催事業の特別展を年4回以上実施できた。	主催事業の特別展を年3回実施できた。	主催事業の特別展を年2回実施した。	主催事業の特別展を年1回しか実施できなかった。または、全くできなかった。	4	3	2	1	
	④エントランス・ロビー展	実施回数	年15回	年間の展示計画を策定し、展示を16回以上実施できた。	年間の展示計画を策定し、展示を15回未満～12回以上実施できた。	展示を12回未満～12回以上行った。	展示を12回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	
(4) 教育普及	①学校教育支援	授業支援、教員支援、資料貸出 職場体験学習受入れ 博物館実習生の受入れなど	年30回	学校教育支援を年36回以上実施できた。	学校教育支援を年36回未満～30回以上実施できた。	学校教育支援を年30回未満～24回以上実施した。	学校教育支援を年24回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	平均値 (小数)
	②展示解説	実施人数	年10,000人	学芸課職員及び展示解説員による展示解説を12,000人以上が受けた。	学芸課職員及び展示解説員による展示解説を12,000人未満～10,000人以上が受けた。	学芸課職員及び展示解説員による展示解説を10,000人未満～8,000人以上が受けた。	学芸課職員及び展示解説員による展示解説を8,000人未満しか受けなかった。	4	3	2	1	
	③博物館講座等	博物館講座等 (アウトリーチ活動含む) ※博物館講座等は普及講座・特別展開連講座・民家園講座・「どこでも博物館」	年35回 (アウトリーチ活動10回)	博物館講座等を年42回以上(アウトリーチ活動12回以上含む)実施した。	博物館講座等を年42回未満～35回以上(アウトリーチ活動12回未満10回以上含む)実施した。	博物館講座等を年35回未満～28回以上(アウトリーチ活動10回未満8回以上含む)実施した。	博物館講座等を年28回未満(アウトリーチ活動8回未満)しか実施できなかった。	4	3	2	1	
	④民家園の活用	民家園事業の実施	年25回	民家園での各種事業を年30回以上実施できた。	民家園での各種事業を年30回未満～25回以上実施できた。	民家園での各種事業を年25回未満～20回以上実施した。	民家園での各種事業を年20回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	

(4) 教育普及	⑤関係機関との連携	職員の派遣 他機関等からの職員等の招聘 他機関等の視察や調査の受入れ 本館資料の館内利用、貸出し、出版物等への掲載 本館が他機関等から資料を借用 他機関への調査や視察 共催事業の実施 など	年120件	関係機関と年144件以上連携の機会を得ることができた。	関係機関と年144件未満～120回以上連携の機会を得ることができた。	関係機関と年120件未満～96回以上連携の機会があった。	関係機関と年96件未満しか連携の機会がなかった。	4	3	2	1	点第一位まで表記)
	⑥博物館と福祉施設との連携	福祉施設との事業実施	年80回	「博物館で思い出を語ろう事業」などを年96回以上実施できた。	「博物館で思い出を語ろう事業」などを年96回未満～80回以上実施することができた。	「博物館で思い出を語ろう事業」などを年80回未満～64回以上実施した。	「博物館で思い出を語ろう事業」などを年64回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	
	⑦レファレンス対応											
	⑧研究発表会の開催	研究発表会の実施	年1回	研究会・団体と連携し、研究発表会を年2回以上実施できた。	研究会・団体と連携し、研究発表会を年1回実施できた。		実施できなかった。	4	3	2	1	
(5) 情報発信	①情報発信の充実	広報紙発行	年4回	広報紙を年5回以上発行できた。	広報紙を年4回発行できた。	広報紙を年3回発行した。	広報紙を年2回以下しか発行できなかった。	4	3	2	1	平均値(小数点第一位まで表記)
		報道処理件数	年50件	報道処理を年60件以上行うことができた。	報道処理を年60件未満～50件以上行うことができた。	報道処理を年50件未満～40件以上行った。	報道処理を年40件未満しか行えなかった。	4	3	2	1	
	②ホームページの充実	ホームページ更新回数	年60回	ホームページの更新を年72回以上実施できた。	ホームページの更新を年72回未満～60回以上実施できた。	ホームページの更新を年60回未満～48回以上実施した。	ホームページの更新を年48回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	
		ホームページアクセス数	年500,000件	年600,000件以上	年600,000件未満～500,000件	年500,000件未満～400,000件	年400,000件未満	4	3	2	1	
	SNS投稿回数 ※Facebook、ツイッター、Instagram	年300回	SNSに年360回投稿できた。	SNSに年360回未満～300回以上投稿できた。	SNSに年300回未満～240回以上投稿した。	SNSに年240回未満しか投稿できなかった。	4	3	2	1		
(6) 経営	①博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	年2,400件以上	年2,400件未満～2,000件以上	年2,000件未満～1,600件以上	年1,600件未満	4	3	2	1	平均値(小数点第一位まで表記)
		集中アンケート実施回数及び満足度	年4回(80%)	集中アンケートを年5回以上実施でき、満足度96%以上となった。	集中アンケートを年4回実施でき、満足度80%以上となった。	集中アンケートを年3回実施し、満足度は80%未満～64%以上となった。	集中アンケートを年2回以下しか実施できず、満足度も64%未満であった。	4	3	2	1	
		全体満足度	80%	アンケート全体の満足度(よかつた以上の割合)が96%以上となった。	アンケート全体の満足度(よかつた以上の割合)が96%未満～80%以上となった。	アンケート全体の満足度(よかつた以上の割合)が80%未満～64%以上となった。	アンケート全体の満足度(よかつた以上の割合)が64%未満となった。	4	3	2	1	
	②職員の資質向上	研修の実施と参加	年20回	職員の研修の機会を年24回以上確保できた。	職員の研修の機会を年24回未満～20回以上確保できた。	職員の研修の機会を年20回未満～16回以上確保した。	職員の研修の機会を年16回未満しか確保できなかった。	4	3	2	1	
③危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	防災訓練(避難訓練・消火訓練等)を年3回以上実施できた。	防災訓練(避難訓練・消火訓練等)を年2回実施できた。	防災訓練(避難訓練・消火訓練等)を年1回実施した。	防災訓練(避難訓練・消火訓練等)を実施できなかった。	4	3	2	1		
④外部運営資金の獲得	外部運営資金への応募件数 ※県基金、公共機関助成金・補助金、民間の助成金・補助金等	年2件	外部運営資金の獲得について年3件以上応募できた。	外部運営資金の獲得について年2件応募できた。	外部運営資金の獲得について年1件応募した。	外部運営資金への応募ができなかった。	4	3	2	1		

Ⅲ 事業の実施状況

1 調査研究

(1) 調査研究の基本的な考え方と目標

① 調査研究の基本的な考え方

当博物館の基本理念及び活動の基本方針に基づき、特に次の点に留意している。

- ア 県民に還元できるものであること。
- イ 本館の設立目標に沿ったものであること。
- ウ 将来展示等に活かされるものであること。
- エ 科学的・客観的なものであること。

② 調査研究の目標

ア 館共通

宮崎の自然史と歴史に関する調査研究を行う。

イ 分野別

自然史分野：宮崎の自然に関する基礎研究を行う。

歴史分野：歴史・民俗を通してみる郷土の伝統と地域性の研究を行う。

(2) 個別テーマ調査研究

各部門の担当職員が、研究テーマを年度当初に設定し、単年度又は複数年度で計画的に調査研究を進めている。その成果については、研究紀要で報告するとともに、展覧会に反映させるなど、広く公開している。

① 令和2年度の個別研究テーマ

担当者	部門	研究テーマ	内容	期間
外山真樹	動物	宮崎県内における淡水産貝類の生息分布について②	県内の用水路・河川をフィールドとして、特にイシガイ目の分布状況を中心に、淡水産貝類について調査する。	5年
竹下隼人	動物	各遷移段階におけるササラダニ類の群集組成について	ササラダニ類の環境指標生物としての有効性が確認できたので、各遷移段階におけるササラダニ類の群集組成を調べる。	3年
福松東一	植物	アスター属（キク科）の県内分布について	①コヨメナ、②ミヤマヨメナ、③オオバヨメナの標本等によるこれまでのデータ収集、採集標本の種の同定及び分布調査を行う。	3年
黒木秀一	植物	青島の発光きのこ「エナシラシタケ」について	青島のピロウ林の発光きのこ「エナシラシタケ」の発生調査を行い、本県における菌類多様性の解明を進める。	1年
中山貴義	地質	入戸火砕流堆積物の分布について	宮崎市清武町の入戸火砕流堆積物の分布を調査し、流入の様子を考察する。	1年

濱田真理	地質	日之影町オシガハエ産水晶(MGM785)の含有物	当該標本(MGM785)の化学組成の分析により包含物の鉱物種を同定し、結晶を作る流体に含まれていた成分の一部を明らかにする。	1年
長津宗重	考古	五ヶ瀬川・北川流域における石庖丁の展開	五ヶ瀬川・北川流域の発掘調査で出土した石庖丁の集成を行い、石器組成・鉄器出土状況を踏まえて時期的な変遷・展開を明らかにする。	1年
平松憲太郎	歴史	都城島津家の影響力について	近世の日向国は小藩分立で、都城島津領は本家薩摩藩の私領として独立的な政治を行っていた。都城島津家の支配力や伝統について調査することで、新たな都城島津家の魅力を考察する。	3年
野添和洋	民俗	宮崎県の神楽に関する研究	神楽の神事や演目等に焦点を当てて、県内全域の神楽の特色を分布的に明らかにする。「みやざきの神楽展」の開催を通して、これまでの調査の成果を広く県内外に公開する。	3年
永田文昭	民俗	宮崎県の伝統芸能に関する研究—芸能の特色と芸能で用いられる道具の種類や特徴について—	延岡における能楽を具体的に調査していく中で、延岡藩主の交代により引き継がれる神事の特色や能面など伝統芸能に用いられる道具の種類や特徴について明らかにしていく。	2年

② 令和2年度調査研究の報告書

本館では、調査研究の成果をとりまとめ広く公表するため、昭和47年度から研究紀要を発行している。令和2年度は第41輯^{しゅう}を発行した。

【宮崎県総合博物館研究紀要 第41輯】

著者	部門	題目
外山真樹・黒木健介	動物	宮崎県におけるメイタイシガキフグの記録
竹下隼人	動物	宮崎県宮崎市におけるタイワシダマキモドキの記録
竹下隼人	動物	各遷移段階におけるササラダニ類の比較
福松東一	植物	宮崎県内におけるキク科ヨメナ類の形態的観察の一考察
黒木秀一	植物	宮崎県産「エナシラッシタケ」について
山本好和・黒木秀一・松本美津・八木真紀子	植物	宮崎県宮崎市平和台公園の地衣類
山本好和・黒木秀一・松本美津・八木真紀子	植物	宮崎県串間市福島川河畔および大平川河畔の地衣類
中山貴義	協議会	宮崎県博物館等協議会 災害時相互協力に向けた取組みについて
濱田真理	地質	【資料紹介】日之影町オシガハエ産水晶の含有物
長津宗重	考古	五ヶ瀬川上流域における遺跡の動態～弥生時代から古墳時代前期

平松憲太郎	博福	博物館における福祉との連携事業（博福連携）
野添和洋	民俗	【報告】 特別展「みやざきの神楽—神々への感謝と祈り—」

(3) 水系別総合調査研究

近年の開発や社会生活の変化などにより、私たちを取り巻く自然や人々の生活習慣が失われてきていることから、これらの貴重な自然や歴史に関する資料を記録に残すため、県内のエリアを設定して、動物・植物・地質・考古・歴史・民俗の6部門において、総合的かつ横断的な調査研究を行っている。自然環境の形成や人の営みの基本となる水系に着目して、平成27年度から県内の一級河川を対象にした総合的な調査研究を実施しており、平成27年度から令和元年度は小丸川水系に着目した調査研究を進め、調査報告書（研究紀要等）により、一定の成果を出すことができた。なお調査報告書は研究紀要第40輯と合本した。令和元年度からは県北地区の「五ヶ瀬川・北川水系」の調査研究に着手し、調査研究で得られた結果は調査研究報告会における発表や研究紀要により地域や本県全体に広く周知していく予定である。

① 【五ヶ瀬川・北川系総合調査（令和元年度～5年度）】

部門	研究テーマ	内 容
動物	五ヶ瀬川水系の動物相について	五ヶ瀬川水系の上流に複数のポイントを設置し、生息する動物の生息状況・分布等を把握する。
植物	五ヶ瀬川源流部の白岩山周辺の植物相	白岩山の植物調査は1955年の報告において444種確認されたが、その後まとまった報告がないため、標本収集と分布を記録することで現段階での白岩山周辺の植物相を明らかにする。
地質	五ヶ瀬地域の秩父帯にみられる古生物相	五ヶ瀬地域の秩父帯からは様々な古生物化石が産出しており、この地域の中生代浅海性堆積層に注目し、古生物化石の見られる地層の分布と生物相について特徴を見出す。
考古	五ヶ瀬川・北川流域の弥生時代から古墳時代の遺跡の動態	五ヶ瀬川・北川流域の弥生時代から古墳時代前期の遺跡の報告書を集成し、集落と墓地から時期ごとの様相を明らかにする。
歴史	五ヶ瀬川・北川流域における治水・活用の歴史	五ヶ瀬川・北川水系流域を実際にフィールド調査するとともに、石碑の碑文、藩政資料・行政資料等をもとに用水開発の歴史を明らかにする。
民俗	川の道～五ヶ瀬川・北川を通して見た人々の暮らし～	五ヶ瀬川・北川が人々の生活にどのような影響を与えていたのか、交易・交通、川漁・食、年中行事・信仰等の習俗について、五ヶ瀬川・北川に関わる用具や画像等の資料調査、関係者への聞き取り調査、文献調査をもとに明らかにする。

(4) 調査研究報告会

毎年度、総合調査研究や個別テーマ調査研究などの状況報告と、学芸課職員の専門性の向上を図る目的で、調査研究報告会を実施している。令和2年度は、学芸課職員及び館長が調査研究の成果や中間報告、教育普及について報告した。当館職員の他、博物館協議会委員、文化



財課の職員などが出席した。

実施日時：令和3年3月16日(火)

10:40～15:10

実施場所：本館 研修室1

参加者：27人

【報告者・発表題目一覧】

報告者	部門	発表題目
永田文昭	民俗	宮崎県の伝統芸能について
野添和洋	民俗	宮崎県の神楽面についての一考察 ～特別展「みやざきの神楽—神々への感謝と祈り」を通して～
外山真樹	動物	小丸川流域における哺乳類の確認状況 ～水系別総合調査 小丸川水系調査報告より～
竹下隼人	動物	各遷移段階の森林におけるササラダニ類の比較
福松東一	植物	宮崎県内におけるキク科ヨメナ類の形態的観察の一考察
黒木秀一	植物	2020年度における青島の発光菌類の発生状況
中山貴義	地質	次年度特別展で展示予定の標本資料説明
濱田真理	地質	日之影町オシガハエ産水晶の含有物
長津宗重	考古	五ヶ瀬川上流域における遺跡の動態 ～弥生時代から古墳時代前期～
平松憲太郎	博福連携	博物館における福祉との連携事業（博福連携）
黒木義博	展示・ 教育普及	宮崎県総合博物館における外国人向けサービスの取組について

(5) 基礎研修

学芸課の職員は、着任すると同時に専門的な業務や問い合わせ等に対応するとともに、調査研究を行わなければならない。そのため、総合博物館では、自然史・歴史の各部門（植物・動物・地質考古・歴史・民俗）の担当者として必要な基礎的な知識や技術を習得し、写真撮影技術などの基礎力を高める基礎的な研修（基礎研修）を行う機会を設けている。

基礎研修は、学芸課の職員がそれぞれ計画し、個人あるいは複数の職員で、部門を超えて協力しながら実施する。そして、標本の採集、資料の収集、史蹟調査、写真撮影、研究会への参加などを行い、成果を報告するとともに、収集した資料や写真データを保存している。

2 資料の収集・保存

県民のかけがえのない財産である文化財等の資料を、適切に収集・研究して本県の真の姿を明らかにするとともに、未来に向けて恒久的な保存を図ることは博物館の基本的な業務である。このため、本館では、宮崎の自然史や歴史に関する資料を、計画的かつ長期的な視野に立って収集するとともに、これらの収集資料を、分類整理・登録を行った上で、適切な保存に努めている。

(1) 資料の収集

各部門の収集方針を設定し、その方針に沿って、採集、購入、寄贈、交換、寄託、製作、提供、移管などの方法により収集作業を行っている。特に、寄贈や寄託による資料の受入れに際しては、受入れの可否等を慎重に検討する観点から、関係職員で構成する「資料受入委員会」で審査することとしている。

① 令和2年度に収集した資料 収集数計 513 点

ア 動物

資料名	点数 (点)	収集方法
スジウミバラ属標本	1	寄贈
ノコギリクワガタ (雌雄モザイク)	1	提供・製作
アカイセエビ液浸標本	1	寄贈
スイジガイ標本	2	寄贈
タヌキ骨格標本 (頭骨)	1	提供・製作
外国産甲虫乾燥標本	2	提供
スイジガイ標本	2	提供
アカウミガメ剥製標本	1	提供
計	11	

イ 植物

資料名	点数 (点)	収集方法
植物さく葉標本	349	採集
カブタケレプリカ	1	購入
計	350	

ウ 地質

資料名	点数 (点)	収集方法
アメリカ産哺乳類化石標本	2	購入
中生代哺乳類生体復元画	1	購入
宮崎層群高鍋層ボーリングコア資料	78	寄贈
一般岩石標本 100 種	1	移管
天然資源標本 50 種	1	移管
県内産軟体動物化石標本	14	採集※
県内産植物化石標本	1	採集※
県内産生痕化石標本	31	採集※
県内産岩石標本	7	採集※
県内産鉱物標本	10	採集※
計	146	

※過年度採集標本 (未登録分) を含む。

エ 歴史

資料名	点数（点）	収集方法
本田家資料	3	寄贈
計	3	

オ 民俗

資料名	点数（点）	収集方法
能衣装	1	寄贈
古文書	2	寄贈
計	3	

※主な新収蔵資料

【動物部門】

○スイジガイ

本資料は、平成30年に日南海岸の海域で採集されたものである。日本貝類学会員の西邦雄氏によるとスイジガイの記録は昭和10年に作成された「天覧目録」を最後に記録がなく、宮崎県で83年ぶりの再発見となった。

「スイジガイ」という名前は、その形状が漢字の「水」の字に似ている事に由来しており、沖縄などでは火災などの災害から家を守る魔除けとされている。

貴重な記録となった個体の標本であり、状態も良く希少性の高い資料である。



スイジガイ標本

【植物部門】

○カブタケ（ホウキタケの一種）

「カブタケ」は、秋に照葉樹林に発生するきのこの方言名である。県内では宮崎市田野、高岡、都城市山之口などで採取され、煮物や混ぜご飯などにして、古くから食用として利用されてきた。塩漬けにし、貯蔵食にも使われていた。本県に伝わるきのこの食文化の代表的な種類であるが、古老によると都城市山之口では馬を山に引き、籠いっぱい採れるほど大量に発生していたが、現在は発生量が減少している。



カブタケ（レプリカ）

【地質部門】

○中生代有袋類「ディデルフォドン」下顎骨化石

本資料は、アメリカ・ワイオミング州産のディデルフォドンの下顎骨の化石である。

哺乳類は中生代に真獣類、有袋類、単孔類と、その他に進化し分かれた。有袋類は中生代末の大量絶滅を逃れ、現在も生息している。ディデルフォドンの体長等は現存のオポッサムに近いと考えられている。

中生代の哺乳類化石は未所蔵であり、初期の有袋類として、恐竜時代の古生物の姿を紹介する際に活用できる資料である。



ディデルフォドン下顎骨実物化石

【歴史部門】

○本田家資料「紺糸威二枚胴具足」「陣笠」

当該資料は、1967年9月22日に本館に寄託された資料である。その後、寄託更新を数回行い、令和2年度に当該資料を本館へ寄贈していただいた。

本田家は、薩摩藩（旧高岡町）出身の郷土の家柄であり、江戸時代の薩摩藩（旧高岡町）の中では、裕福な郷土家系であった。西南戦争にも従軍し、2番大将として活躍した。「紺糸威二枚胴具足」「陣笠」ともに本田家の先祖から代々受け継がれ、大切に保管されてきた。

薩摩藩の郷土家系に伝わる資料で、家臣団の甲冑・笠としては、大変貴重なものである。



紺糸威二枚胴具足

【民俗部門】

○鳳凰文様肩裾縫箔小袖

令和2年8月27日（木）に宮崎市在住の長友敏郎さんから能衣装と古文書2通を寄贈していただいた。能衣装は、木箱に収納されており、その中に能衣装と古文書2通、当時の新聞記事が納められていた。能衣装の名称は、「ほうおうもんようかたすそほうはくこそで鳳凰文様肩裾縫箔小袖」とよばれ、縫い糸は抜かれて解体されているものの一片の布の紛失もなく、揃っており、縫合仕立てを行えば、元の小袖衣装に完全に復元可能な状態で保存されていた。アシの穂に使用された糸は、白と紫の撚糸で、いずれも桃山時代の技法が使われている。



鳳凰文様肩裾縫箔小袖

古文書については、大安寺（西都市鹿野田）の僧、如意珠日が書いた古文書であり、天正11年（1583年）に生まれた欽勘なる人物が、慶長9年（1604年）に如意珠日から占いを施されたことが書かれている。

② その他の資料

ア 図書・文献等の収集

本館では、調査研究、展示、教育普及などの諸活動に必要な関連図書や文献、雑誌の収集を行っており、その大半は全国の博物館等施設や研究機関及び研究者等からの寄贈により受け入れている。令和2年度は1,091点を収集した。

イ デジタルデータの収集

本館では、調査研究等を行う際にデジタルカメラにより撮影した写真や、本館が所蔵する資料を学芸課職員又は業者の撮影により得られた写真・動画を、デジタルデータとして収集し、調査研究、資料リストの作成・登録、デジタルミュージアムへの掲載、他施設への提供などの際に使用している。令和2年度は1,673点を収集した。

(2) 資料の整理・登録

① 資料の登録数

収集した資料は、保存と活用を目的に分類・整理し登録を行っている。令和2年度は740点の登録を行った結果、これまでに登録まで完了した資料は14万8,504点となった。

(令和3年3月31日)

分野・部門		資料数 令和2年度登録資料数(点)	登録資料数 (点)	内訳		
				実物	標本	模型(複写)
自然史	動物	238	63,613	0	238	0
	植物	350	58,485	0	349	1
	地質	146	6,333	0	145	1
	計	734	128,432	0	732	2
歴史	考古	0	1,689	0	0	0
	歴史	3	5,337	3	0	0
	民俗	3	12,930	3	0	0
	計	6	19,956	6	0	0
美術*	古美術(刀剣類など)	0	107	0	0	0
	近代美術(彫刻屋外展示など)	0	9	0	0	0
	計	0	116	0	0	0
総計		740	148,504	6	732	2

*美術品は本館に美術部門があった時から収集している資料。平成7年の県立美術館設置の際、刀剣類と屋外に展示している彫刻は移管されずに、そのまま本館の資料となった。

*内訳は統計法に基づく博物館調査票の項目

② デジタルミュージアムへのデータ登録

県教育庁文化財課が平成14年度から運営するサイト「みやぎデジタルミュージアム」は、県内の文化や歴史に関する情報をデジタル化し、一元的なデータ整理・管理を行うとともに、インターネットにより広く地域や時間に偏りなく情報を提供することにより、郷土の文化に誇りを持つ人材の育成や観光振興、国際交流の促進に資することを目的に構築されたもので、本館をはじめ、県立美術館、県埋蔵文化財センター、県立西都原考古博物館が収蔵する資料の情報とデジタルデータを掲載している。本館は、令和2年度に208件の登録を行った。

(3) 資料の保存

資料の恒久的な保存を図るため、本館では、全職員で定期的な点検と清掃を行うことにより文化財に悪影響を及ぼす虫菌害を未然に防ぐ I P M活動を基本としながら、薬剤による管理を補完的に行っている。

① I P Mウオッチング

虫菌害の発生の有無を調べ、資料保存に適した環境に改善するために、全職員による定期的な点検を行うとともに、点検結果を回覧し、情報の共有化を図った。

- ・点検場所…展示室・収蔵庫・エントランス・研修室・管理棟など
- ・実施回数…年12回

② モニタリング（トラップ調査）

害虫の侵入及び発生状況を把握するため、粘着トラップを設置するとともに、捕獲した害虫の同定及び分析したものを報告書にて職員に周知した。

- ・設置場所…展示室・収蔵庫・エントランス（計80か所）
- ・実施回数…年12回

③ 収蔵庫内の目視・清掃

I P M活動の一環として、収蔵庫内の環境を適切に保ち、資料の状態を確認することを目的に、毎月1回計画的に学芸課職員による目視・清掃を実施した。

- ・実施回数…年12回

④ 薬剤による管理

収蔵資料を虫菌害から守るために、収蔵庫のガス燻蒸を9月に実施した。

(4) 資料の修復

資料の劣化等が確認され修復が必要になった場合には、館内においてその都度修復作業を行うほか、特別な技術や知識を必要とする場合は、専門機関に委託して修復作業を行っている。

【動物部門】

平成28年8月に宮崎市小内海海岸にデッドストランディングしたアカボウクジラを平成30年に骨格標本として収蔵した。本標本の頭部は上顎および頭部は比較的損傷は少なかったものの、下顎は骨が薄いため部位がいくつか切断された状態であった。また、亀裂が見られる部分もいくつかあった。そこで、切断部位の接着と亀裂の補修ならびに専用展示台に固定する大規模な修復を行った。



アカボウクジラ骨格標本（頭部）

3 展示

本館の展示活動は、常設展示室で恒常的に資料展示を行う「常設展示」、特別展示室で特別なテーマを設定し、会期を限って開催する「特別展示」、本館の1階エントランスホールや2階民俗展示室前のロビーを活用して行う「ロビー展示」、県内各地に残っていた独特の建築様式を持つ民家4棟を移築復元し展示に供している「民家園」から成っており、県民の幅広い層にとって学習の場となるよう工夫している。

(1) 常設展示

常設展示室は自然史、歴史及び民俗の3フロアからなり、宮崎の自然と歴史について、実物を中心に約8,000点の資料を使って分かりやすく紹介するとともに、解説等を行う展示解説員の配置や随時の資料入替えを行うことによりサービスの充実を図っている。

① 自然史展示室

本館1階にある自然史の常設展示は、「宮崎の森」「宮崎の水辺」「宮崎の大地」「宮崎の生物」「ふるさとの自然」の5つのコーナーから成り、学校教育はもちろんのこと生涯学習の場になるように、できる限り宮崎県の実物資料を中心に構築するとともに、生きものの生態などについては、ジオラマやレプリカ、模型等を使ったり、体験的装置や情報機器を導入することによって、来館者が肌で実感し、より親しめるよう工夫している。

また、屋外では、本館入口の北側に、串間市で発掘された縄文から弥生時代のクスノキや日之影町で採取された二枚貝のメガロドン石灰岩を展示している。

【宮崎の森】のコーナー

本県の自然の象徴である照葉樹の森やブナの森を実物やレプリカを通して表現するとともに、「森におい」「地表潜望鏡」「木の中の音」「フィールドスコープ」等の体験装置を設置している。また、一般に知られていない土壌中の生きものや身近なキノコ類の展示も行っている。さらに、「照葉樹林シアター」を備え、照葉樹林の一日を実感できる大人向けと子ども向けのプログラムを交互に上映している。



照葉樹林のジオラマとニホンジカ

【宮崎の水辺】のコーナー

河口や沿岸で見られる「干潟の自然」、川南町や高鍋町の大地に見られる「湿原の自然」、日南市と串間市にまたがる「サンゴの海」をジオラマで紹介している。また、磯の潮間帯の生きものや川の生きもの、本県と高知県でしか見られないアカメなど多くの標本を展示している。



干潟の自然のジオラマ

【宮崎の大地】のコーナー

本県の大地の生い立ちを解説するため、化石、鉱物、岩石標本を多数展示するとともに、随所で顕微鏡観察や触察ができるような工夫を行っている。

生物の進化のエリアでは、ティラノサウルスやヨロイ竜サイカニア、ナウマンゾウの全身骨格など各時代の化石を展示したり、地層や火山のエリアではビデオ映像による説明を行っている。また「地球シアター」では、地球と宮崎の大地の成り立ちや県内の地質について紹介している。



生物の進化のエリア

【宮崎の生物】のコーナー

本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれたことと、地史的な背景との絡みもあって、寒冷地から亜熱帯性の生きもの、さらに固有の生きものが生息している。これらの多様な生きもの世界の成り立ちやその生物の営み、宮崎に生息する植物の世界と動物の世界について、県内で収集した標本やその関連資料を用い、観覧者がより身近に感じることができるよう、多角的な視点から紹介している。



「宮崎の植物」のエリア

【ふるさとの自然】のコーナー

私たちの身の回りに見られるふるさとの代表的な自然の様子、その自然の中での人びとのくらしと変貌する生きもの世界、自然の保護と創出、大いに自然に触れる野外体験の勧めについて紹介し、今後の自然との共存や自然保護について考える機会を提供している。



「ふるさとの自然」のコーナー

② 歴史展示室

本館2階にある歴史の常設展示は、自然史展示室の照葉樹林ジオラマと関連づけた導入部と、通史的に構成する「日向のあけぼのに生きる」「古代から近世を生きる」「発展しつづける宮崎」の3つのコーナーから成り、人々の生活史を大きな柱として、現在の宮崎地域の約2万年前の旧石器時代から現代にいたる歴史の流れを紹介している。

【日向のあけぼのに生きる】のコーナー

旧石器時代から古墳時代までを、打製石器・磨製石器・縄文土器・弥生土器・須恵器などの各時代の発掘資料、花びら形住居や地下式横穴墓などの原寸大模型を使って紹介している。

また、本県で出土した金銅製馬具類（国宝、五島美術館蔵）、子持家形埴輪（重要文化財、東京国立博物館蔵）などの重要資料については、レプリカを製作し、展示している。



花びら形住居のジオラマ

【古代から近世を生きる】のコーナー

古代から近世までを、文書資料や発掘資料、実際に使用していた道具などを展示し、当時のできごとや人々の暮らしを紹介している。

特に日向国凶田帳（東京大学史料編纂所蔵）、土持文書（県指定有形文化財、当館寄託）、宗麟原供養塔（国指定史跡）、錦の御旗など、この時代を代表する重要な資料はレプリカを製作し、展示している。また、江戸時代の延岡藩の庄屋資料である福良家資料（当館寄託）など、当時の人々の日常生活を読み取ることができる資料も展示している。



宗麟原供養塔と耳川合戦図屏風

【発展しつつける宮崎】のコーナー

明治時代以降の歴史について、実物資料や模型を展示し、当時のできごとや人々の暮らし、文化を紹介している。特に、「宮崎の近代化」のコーナーで写真や、「戦争と人々の暮らし」の灯火管制下の住宅内部の復元によって、当時の人々の暮らしをわかりやすく紹介している。

また、戦後の宮崎では、移築と一部復元を行った原寸大の昭和30年代文化住宅と時代のひろばが、歴史展示室の人気コーナーになっており、紙芝居やむかしの遊びなどの催しに利用している。



時代のひろばと文化住宅

③ 民俗展示室

本館2階の歴史展示室に隣接する民俗の常設展示は、「山にくらす」「里にくらす」「海にくらす」「いのりとまつり」の4つのコーナーから成り、国指定重要有形民俗文化財の「日向の山村生産用具」をはじめとする実物資料を中心に、原寸大の模型や映像、パソコン検索等を多用して、観覧者が実体験しながら楽しめる展示としている。

また、導入部に配置した「民俗へのいざない」では、炭焼き小屋のジオラマを展示し、宮崎の豊かな風土と人々の営みを表現し、中央に配置した「こころのロード」では、映像と音声により県内の代表的な年中行事と人々の精神世界を紹介している。

【山にくらす】のコーナー

山の恵みを生活に活かすための知恵や工夫、願いや感謝など山間部に見られる人々の暮らしを紹介し、映像や写真、人形等を用いて、現在では使われなくなった民具をどのように使用していたのかを観覧者が実感できるようにしている。また、焼き畑作業場兼住まいとして西米良村の山の中腹近くに建てられていた作小屋を原寸大で復元している。



山で使用する衣服等

【里にくらす】のコーナー

長い年月の間に受け継がれてきた主に農業の知恵と技術、豊作への願いや感謝など、日向灘に注ぐ川沿いに広がる盆地や平野に見られる人々の生活を紹介している。小学校の社会科の授業でよく利用されるため、児童が学習しやすいように、スキやセンバなどの使用方法を示した図を設置している。



里の農業で使用する農具

【海にくらす】のコーナー

カツオの一本釣りやマグロの延縄漁の道具、ブリ大敷網や大謀網の模型などを展示し、海の幸を生活の糧とするための様々な知恵と技術を紹介するとともに、大漁旗や船霊さまなどから大漁と航海の安全への願いを、カンカン部隊の道具から市場や行商を通じた人々の生き生きとした経済活動と心のつながりを紹介している。



海の漁で使用する漁具

【いのりとまつり】のコーナー

山・里・海に生きる人々の安らかなくらし、豊作や大漁への祈りをこめた季節の祭や年中行事を紹介している。また、「神楽シアター」では、高千穂の浅ヶ部神楽をモデルに、神庭と外注連を再現するとともに、映像として、子ども向けの「神楽ってなあに？」と大人向けの「宮崎の神楽」を交互に上映して県内の神楽を疑似体験できるように工夫している。



神楽を紹介した写真パネル

④ 常設展示資料数

常設展示室に常時展示している資料数は、令和2年3月末日現在で7,689点である。また、収蔵庫の資料を活用して年19回34点の展示替えを実施し、展示内容の充実を図った。このうち歴史展示室と民俗展示室の接続部分に設置しているロビーケースでは歴史部門による展示替えを5回実施し、館蔵の資料などを紹介した。

(単位：点)

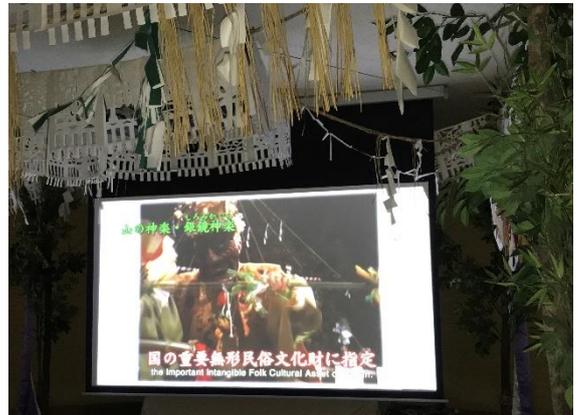
展示室	部門	実物資料	レプリカ	模型	ジオラマ	計
①自然史 展示室	動物	3,627	54	10	6	3,697
	植物	57	386	1		444
	地質	428	21	7		456
②歴史 展示室	考古	559	59	72	0	690
	歴史	1,179	83	8		1,270
③民俗 展示室	民俗	1,081	21	33	0	1,135
計		6,930	623	130	6	7,689

⑤ 常設展示室のシアター英語字幕化

日本文化に親しむ機会を外国人にも提供するため、昨年度の多言語音声ガイドシステム「音えんぴつ」の導入に続き、シアター映像の英語字幕化を行った。

当館の常設展示室では自然史展示室において「照葉樹林シアター」「地球シアター」、民俗展示室において「神楽シアター」の3つのシアターが常時鑑賞可能となっている。各シアターは一般向けプログラムと幼児向けプログラムの2つのプログラムで構成されており、今回、照葉樹林シアターで1プログラム、地球シアター、神楽シアターそれぞれで2プログラム、合計5プログラムのシアター映像に英語字幕を挿入した。

コロナ禍において、来日外国人の減少は大変苦しい状況ではあるものの、本県在住外国人に対する宮崎の自然、民俗に関する理解を深める一助となること、また、英語教育の一環としての利活用へとつながることを期待している。



神楽シアターの一場面

(2) 特別展示

本館2階にある特別展示室において、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を、他の関係機関から資料を借用するなど連携して開催した。また、巡回展を開催し、国内外の自然を幅広く紹介した。

① 「第40回SSP展 ～自然を楽しむ科学の眼～」

ア 会期：令和2年5月21日（木）～6月28日（日） 開催日数：34日間

イ 主催：宮崎県総合博物館、日本自然科学写真協会

ウ 展示内容

当館でのSSP展開催は今回で16回目となった。写真部門135点、動画部門11点の作品を展示した。また、本館収蔵資料の中から作品に登場する動物の剥製標本や乾燥標本（約120点）、植物・菌類のレプリカや乾燥標本（6点）及び、岩石標本（2点）、霧島ジオラマ（1点）を展示したほか、ニホンヤモリの生体展示も行った。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止策として、マスク着用、手指消毒、互いの距離をあけての静かな観覧を入場者に求めた。

エ 関連行事

○ガイドツアー（計7回）参加者：80人

5月23日に1回実施予定であったものを原則毎週日曜午後に変更し実施した。SSP展委員と学芸課職員が、写真作品や関連展示している標本に関する解説を行った。各回10人前後であったため特に人数制限は行わなかった。

5月23日（土）11:00～11:45、13:30～14:15 担当者：東木場、福島、濱田

5月24日（日）15:00～15:45 担当者：東木場、黒木、濱田

5月31日（日）15:00～15:45 担当者：東木場、竹下、中山

6月7日（日）15:00～15:45 担当者：東木場、濱田

6月28日（日）11:00～11:45、15:00～15:45 担当者：東木場、中山

○関連講座「プロに学ぶ！写真撮影講座」（計2回）参加者：32人

講師：東木場昭裕氏（自然写真家・SSP展委員）、福島英樹氏（SSP展委員）

当初1回実施予定であったものを2回に変更し、定員を30人から20人に減員して実施した。午前を室内講座とし、「構図を知る」をテーマに豊富な作例を交えながら講師が解説した。カメラの基礎知識や便利な機能などの解説もあり、初心者からベテランの方まで役立つ講座となった。午後は民家園にて撮影会を行った。

6月14日（日）午前の部10:00～12:00、午後の部／13:30～15:00

6月21日（日）午前の部10:00～12:00、午後の部／13:30～15:00

○来場4000人目セレモニー

該当者には長友副館長よりSSP展写真図録と博物館ミニガイドブック、オリジナルグッズを贈呈した。SSPからは東木場氏が記念品を贈呈した。

日時：6月20日（土）11:30～11:45

○中止した行事等

新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館や国の緊急事態宣言発出により、予定していた以下の行事等を中止した。

5月3日（日）プレ講座「こども生きもの写真教室」

5月23日（土）一日博物館長

5月30日（土）特別講演会「生きものの写真で伝えたいこと」

オ 観覧者数：5,070人



会場の様子



標本展示の例



エントランス関連展示



ガイドツアー



写真教室



来場 4000 人目セレモニー

② 「記念物 100 年展～守り受け継ぐため」

ア 期間：令和 2 年 7 月 23 日（土）～8 月 23 日（日）

イ 主催：宮崎県総合博物館（文化庁「記念物 100 年展」参加事業）

ウ 展示内容

記念物を保護するため文化財保護法の前身である「史跡名勝天然記念物保存法」が制定され、2019 年で 100 年を迎えた。本県には記念物（史跡名勝天然記念物）に指定・登録された文化財が約 420 件ある。本展示では全国を巡回した文化庁主催「記念物 100 年展」のパネル掲示とあわせて、本館が所蔵する記念物に関する資料や写真を展示することで、来館者に県内外の記念物への関心や文化財を後世に伝えていく意識を高めてもらうことを目的として開催した。

エ 展示資料

【パネル】記念物 100 年展パネル 11 枚、県内の国・県・市町村指定記念物一覧

【植物部門】オニバス、キレンゲショウマ、ノカイドウ、ヤッコソウ、ナガバノイシモチソウ、エヒメアヤメ、オオヨドカワゴロモ、イワギク、シコクシモツケソウ、写真資料（クマガイソウ自生地、都井岬ソテツ自生地、福瀬神社のハナガガシ林、権現崎の照葉樹林、青島亜熱帯性植物群落、川南湿原植物群落、虚空蔵島の亜熱帯林、石波の海岸樹林）

【動物部門】ニホンカモシカ、ミサキウマ、イヌワシ、カンムリウミスズメ、カラスバト、ルリカケス、タンチョウ、ニホンヤマネ、オオサンショウウオ

【地質部門】猪崎鼻関連資料（生痕化石、流痕）

【考古部門】綾式土器、画文帯神獣鏡、獣文八鈴鏡

オ 観覧者数：2,826 人



天然記念物（動物）の展示



天然記念物（地質鉱物）の展示

③ 特別展「みやざきの神楽—神々への感謝と祈り—」

ア 会期：令和2年10月17日（土）～令和2年11月29日（日）開館日数：38日間

イ 主催：宮崎県総合博物館

ウ 展示内容

今回の展示会は、宮崎県内に伝わる様々な神楽の歴史と特色について紹介し、神楽の場（御神屋）や外注連、天蓋、神楽面、採物、楽器、唱教や神楽歌の記録などによって、県内の神楽の具体的な姿を一堂に会して見ることができる展示とした。また、神楽と深い結びつきをもつ記紀神話、陰陽道、修験道、生産・生業文化に関する資料についても展示した。あわせて神楽の映像や公演によって神楽への理解を深め、県内各地の神楽の魅力を認識してもらうことにより、宮崎県の神楽を未来に継承していく気運を醸成した。

エ 関連行事

【総合博物館主催】

○「ギャラリートーク特別版」 参加者：37名

日時：令和2年10月17日（土）14：00～14：50

講師：小川直之氏（國學院大学教授、みやざきの神楽魅力発信委員会委員長）

○「神楽面制作実演見学会」 参加者：計145名（①68名、②77名）

a 日時：令和2年10月24日（土）13：30～16：30

講師：工藤浩章氏（高千穂町・宮崎県伝統工芸士）

b 日時：令和2年11月14日（土）13：30～16：30

講師：古川三鶴亀氏（椎葉村・宮崎県伝統工芸士）

○「ギャラリートーク」

参加者：計7回159名（①計3回84名、②計2回39名、③計2回36名）

a 日時：令和2年10月18日（日）、11月8日（日）・29日（日）14：00～14：30

担当：野添和洋（宮崎県総合博物館 民俗担当）

b 日時：令和2年10月25日（日）、11月15日（日）14：00～14：30

担当：清水聡氏（宮崎民俗学会会員）

c 日時：令和2年11月1日（日）・22日（日）14：00～14：30

担当：那賀教史氏（宮崎民俗学会副会長）

【県文化財課主催・総合博物館共催】

○「椎葉（嶽之枝尾）神楽公演」 参加者：115名 ※特展室は2グループに分けて実施

日時：令和2年10月31日（日）13：30～16：30

場所：民家園（椎葉の民家）、特別展示室

出演団体：嶽之枝尾神楽保存会（椎葉村）

○「みやざきの神楽フォーラム」 参加者：67名

日時：令和2年11月22日（日）10：00～12：30

場所：宮崎県企業局 県電ホール

内容：①講演「みやざきの神楽を考える」 講師：小川直之氏（國學院大学教授）

②パネルディスカッション「神楽を伝える『こころ』」

コーディネーター：小川直之氏（國學院大学教授）

パネラー：甲斐晃一郎氏（高千穂：浅ヶ部神楽保存会会長）

尾前秀久氏（椎葉神楽保存連合会会長、尾前神楽保存会会長）

瀨砂武久氏（銀鏡神楽保存会会長）

西川嘉宏氏（高原：祓川神楽保存会会長）

○「特別展関連講演」 参加者：51名

日時：令和2年11月28日（日）13：30～15：00

場所：宮崎県企業局 県電ホール

内容：講演「高千穂の神楽歌について」

講師：大館真晴氏（宮崎県立看護大学教授）

【記紀編さん室主催・総合博物館共催】

○「子ども神楽大会」 参加者：128名

日時：令和2年11月21日（土）13：00～16：30

場所：宮崎県総合博物館 前庭

出演団体：市振神楽保存会（延岡市）、銀鏡神楽保存会（西都市）

船引神楽保存会（宮崎市）、古城神楽保存会（宮崎市）

オ 観覧者 13,695人



開会行事



ギャラリートーク



椎葉（嶽之枝尾）神楽公演



1万人セレモニー



神楽面制作実演見学会



みやざきの神楽フォーラム

【本館主催の特別展示のチラシ】

第40回 SSP展 Society of Scientific Photography 「自然を楽しむ科学の眼」

2020年5月21日(木) ▶ 6月28日(日) 観覧無料

関連行事

- SSP展プレ展覧「子ども生きもの写真教室」 5月3日(日)前 13:30～16:00
- ガイドツアー 5月23日(土) 11:00～11:30
- SSP展記念特別講演会「生きものから学ぶ自然の恵み」 5月30日(土) 18:00～19:00
- 写真教室「プロに学ぶ！写真撮影講座」 6月14日(日) 10:00～12:00

二日子ども博物館長募集!!

5月23日(土) 小学生3名

申込期間 4月15日(水)～4月26日(日)

宮崎県総合博物館 2階特別展示室

観覧時間 9:00～17:00(入館は16:30まで) 休館日:毎週火曜日

宮崎県総合博物館 特別展

みやざきの神楽 神への感謝と祈り

2020年 10.17(土)～11.29(日) 観覧無料

会場 宮崎県総合博物館 2階特別展示室

神楽お面(お化け)プレゼント 5種類のなかから1つ選べるよ!

先着 5000名

神楽お面(お化け)プレゼント

5種類のなかから1つ選べるよ!

- アサギ(アサギ)
- オウゴン(オウゴン)
- オウゴン(オウゴン)
- アサギ(アサギ)
- アサギ(アサギ)

(3) エントランス展示・ロビー展示

本館1階のエントランスホール（エントランスケース、展示スペース、情報コーナー）や2階民俗展示室前のロビーにおいては、1年を通じてトピックや季節ごとにテーマを設定した展示を行っている。令和2年度は21回の展示を実施した。

① 展示一覧

タイトル ＜展示場所＞	期 間	担当者	内 容
THE よろい・かぶと ＜1階エントランス南側＞	3月27日 ～5月5日	平松	常設展示室に展示していない鎧・冑を展示し、収蔵資料を紹介した。
南極 ＜2階ロビー＞	4月15日 ～5月15日	中山	今年度の科学技術週間の「南極」に合わせて、収蔵資料の南極の石やパネルの展示を行った。
宮崎の光るキノコ ＜1階エントランス南側＞	5月8日 ～5月31日	黒木	「青島のエナシラッシタケ」をクローズアップし、本県で見られる9種類を標本、写真等で紹介した。
宮崎在住SSP会員の作品展示 ＜1階エントランス北側＞	5月17日 ～6月28日	濱田	県内在住のSSP会員6名の写真作品12点を展示し、「第40回SSP展」の関連展示とした。
楽しく学ぼう！海の自由研究展 ＜1階エントランス南側＞	7月3日 ～9月6日	竹下	夏休みの自由研究を切り口に、貝の標本、剥製の展示から宮崎の海に興味を抱く展示を行った。
恐竜博士になろう！ ＜2階ロビー＞	7月8日～30日 8月19日～30日	中山	子ども達に人気の恐竜をテーマにしたパネルを掲示し、古生物に興味を抱ける展示を行った。
愛鳥作品コンクール作品展示 ＜1階エントランス北側＞	7月6日 ～7月31日	中山	令和元年度愛鳥作品コンクールの絵画と習字を展示した。（中部農林振興局による企画）
宮崎の伝統工芸品 ＜1階エントランス北側＞	8月1日 ～8月31日	永田	宮崎県内の伝統的工芸品を展示し、振興を図る機会とした。（オールみやざき営業課による企画）
宮崎地域資源ブランドフォトコンテスト受賞作品展示＜2階ロビー＞	8月1日 ～8月16日	中山	地域資源ブランドの魅力を伝えるフォトコンテスト受賞作品の展示を行った。（中山間・地域施策課による企画）
みやざきの神楽-神々への祈り- ＜1階エントランス南側＞	9月19日 ～11月29日	野添	特別展に関連し、西米良(村所)神楽や新田神楽等の資料を展示して県民の神楽への関心を高めた。
遺跡発掘成果展 2020 ＜1階エントランス北側＞	9月19日 ～10月12日	長津	県内各地の発掘調査結果の展示を遺跡毎に遺物とパネルで紹介した。（埋蔵文化財センターとの共催企画）
博物館実習生による成果発表 ＜2階ロビー＞	9月19日 ～10月30日	濱田	博物館実習生2名それぞれが、課題として取り組んだ企画展示を公開した。
「今月の動物・植物」まるごと1年分 ＜2階ロビー＞	9月19日 ～10月30日	濱田	月替わりの「今月の動物・植物」の令和元年1年分を掲示し、自然への興味を喚起する機会とした。
ウミユリってなあに？ ＜2階ロビー＞	10月7日 ～12月27日	中山	博物館講座の講師に、大路樹生教授を招くにあたり、研究対象のウミユリの標本と解説を展示した。
博物館こどもDAY ＜1階エントランス北側＞	11月3日	学芸課	6部門それぞれから、子ども達が興味を抱く大型の収蔵資料や標本を展示した。
おかえり！「はやぶさ2」 ＜1階エントランス南側＞	12月2日 ～1月17日	中山	小惑星探査機「はやぶさ2」の搭載カプセルの地球帰還に合わせ、紹介パネルと、隕石の展示をした。
MSEC探究活動ポスター展 ＜1階エントランス北側＞	12月20日 ～1月17日	濱田	県内の高校生の自然科学系探究活動の成果をポスター展示した。（出品 県立高校10校のポスター24件）
2021干支「丑」づくし ＜2階ロビー＞	1月6日 ～1月17日	外山	令和3年の干支・丑に合わせて、所蔵する「ウシ」に関する資料を展示した。（資料協力：宮崎大学農学部）
県立博物館から総合博物館へ ～開館50年のあゆみ～ ＜1階エントランス南側・北側＞	1月27日 ～3月22日	福松	開館50周年に合わせ、当館の変遷をまとめ、開館当時の館内展示資料、県民文化ホール関連資料、姉妹締結したメキシコ博物館の資料等を展示した。
宮崎県文化賞パネル展 ＜1階エントランス北側＞	1月27日 ～2月14日	中山	宮崎県文化賞受賞者の写真、経歴、業績等をパネルで展示し紹介した。（文化振興課による企画）
博物館で雛祭り ＜1階展示スペース・2階ロビー＞	2月5日 ～3月3日	永田	春の節句の雰囲気を来館者に感じてもらうため、博物館に寄贈された雛人形を展示した。

② 主な展示

ア 宮崎の光るきのこ

- a 展示期間：令和2年5月8日（金）から
5月31日（日）まで
- b 展示場所：本館1階エントランスホール南側
- c 展示内容：宮崎県は多様な発光菌を観察できる県で、これまで発光性のきのこが12種類確認されている。近年、注目されている「青島のエナシラッシタケ」を中心に、現在県内で見られる9種類を実物標本やレプリカ、写真及び映像等で紹介した。本県の自然を支える分解者の菌類への興味や関心を高める機会となった。



「宮崎の光るきのこ」展示の様子

イ 楽しく学ぼう！海の自由研究展

- a 展示期間：令和2年7月3日（金）から
9月6日（日）まで
- b 展示場所：本館1階エントランスホール南側
- c 展示内容：夏休みの自由研究を切り口に、宮崎の海に興味をもったり、砂浜で見られる貝殻等の観察へのきっかけとなる展示を行った。豊富な貝殻の標本の展示や、アカナマダやアオザメ及びカメ類の剥製の展示、魚の顔のイラストパネルの掲示など充実した資料展示となった。また、貝殻を使ったフォトフレームや、魚類の浮き袋の仕組みの解説と浮沈子の工作など、子ども達の夏休みの自由研究に参考となる、展示の工夫があった。



貝殻関係の展示の様子

ウ ウミユリってなあに？

- a 展示期間：令和2年10月7日（水）から
12月27日（日）まで
- b 展示場所：本館2階ロビー
- c 展示内容：日本古生物学会の制定する「化石の日」に関連し、名古屋大学博物館の大路樹生教授の講演会を開催した。これに際し、大路教授が研究対象とする「ウミユリ」を紹介する展示を行った。五ヶ瀬町で採集されたウミユリの化石の他、現生のウミユリの「トリノアシ」の液浸標本を展示し、多様な姿の生物に興味や関心を抱く機会とした。



ウミユリ化石等の展示の様子

③ 関係機関と連携した展示

博物館施設の展示空間の有効活用として、関係機関が企画する展示を行っている。今年度は、6つの関係機関の企画及び共催企画を行った。

(4) 民家園

民家園は、本館の東側に位置し、県内に残っていたその地方独特の建築様式を持つ民家を昭和47年から昭和53年にかけて移築復元した4棟の民家から成る。これらのうち「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」は国の重要文化財に、「米良の民家」と「椎葉の民家」は宮崎県の有形文化財に指定されている。

また、民家の内部には、実際に使用されていた踏み臼のほか、唐箕や機織り機といった生業道具、釜や甕などの生活用具を展示するとともに、屋外には石風呂などを展示し、来園者が民家の雰囲気を感じ取れるようにしている。

なお、4棟とも経年劣化や耐震上の問題があったことから、平成26～27年度に「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」の保存修理を実施し、引き続き平成28～29年度に「米良の民家」と「椎葉の民家」の保存修理を実施した。

【旧藤田家住宅】

九州山地中央部に残る民家の古い形式を伝える数少ない建物で、五ヶ瀬町から移築復元した。県内で確認された民家では最も古く、間仕切柱の刻銘から天明7年(1787)に建てられたことが明らかとなっている。間取りは、オモテ(客間)、ヘンヤ(居間)の2つからなる。



旧藤田家住宅

【旧黒木家住宅】

高原町にあった郷士の建物を移築復元したものである。この民家は、県南西部に分布する分棟型農家の典型で、平入のオモテ(主屋)と妻入のナカエ(釜屋)の2棟からなる。発見された墨書によって、天保5年(1834)から2年間かけて建てられたことが明らかになっている。



旧黒木家住宅

【米良の民家】

西米良村にあった建物を移築復元したもので、山間の3段石積みの上に建てられ、外観や間取りなどに古い西米良の農家のかたちが残されている。また、太い材を用いた馬屋が隣接している。口伝により、文政4年(1821)頃に建てられたとされている。



米良の民家

【椎葉の民家】

椎葉村にあった建物を移築復元したもので、県北西部に分布する並列型農家の典型で、間取りは、3つの部屋と1つの土間が横一列に並び、その手前に板縁がとおっている。解体中に発見された墨書によって、元治元年(1864)に建てられたことが明らかになっている。



椎葉の民家

(*民家園を活用した普及事業については、52～53頁を参照)

(5) 利用状況

① 令和2年度の利用状況

ア 利用状況一覧

(単位：人)

施設、講座等		入館・入園者数
1 本館入館者数		56,194
① 特別展観覧者 ※		18,765
② 常設展示室の展示解説（定時解説及び通常解説）		(4,610)
③ 紙芝居		(2,371)
④ むかしのあそび体験広場		(1,361)
⑤ クイズラリー（通常版）		(539)
⑥ みどりの日クイズラリー（特別版）		(中止)
⑦ 文化の日クイズラリー（特別版）		(85)
2 民家園入園者数		50,539
① 伝統文化体験講座		
ア 正月飾り製作体験		(中止)
イ 正月準備体験		
② 神楽公演（嶽之枝尾神楽）		(中止)
③ 民家園みやはく50感謝祭		(566)
④ みやざきの昔話公演 ※6回実施(4回中止)		(115)
⑤ 民家園利用事業		(68)
⑥ 昔のくらし体験		(37)
合 計		106,733

※ 伝統文化体験講座、神楽公演は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止。

イ 本館入館者の状況（月別）

(単位：人)

月	個人 (人)	団体(人)				総入館者数 (人)	開館日数 (日)	1日 平均 (人)
		大人	高校生 大学生	小学生 中学生	未就学児			
4	1,030	5	0	0	0	1,035	18	58
5	2,928	11	7	20	5	2,971	18	165
6	4,396	160	41	37	107	4,741	24	198
7	5,504	128	47	50	174	5,903	24	246
8	4,322	12	40	27	0	4,401	28	157
9	2,345	60	0	125	53	2,583	14	185
10	6,086	318	44	2,382	188	9,018	27	334
11	6,357	284	101	2,351	185	9,278	26	357
12	2,952	69	17	310	0	3,348	23	146
1	1,405	0	0	0	0	1,405	16	88
2	4,735	51	0	184	80	5,050	24	210
3	5,814	128	14	259	246	6,461	26	249
計	47,874	1,226	311	5,745	1,038	56,194	268	199

※ 9/7～9/18は、燻蒸期間のため、休館。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4/21～5/10は臨時休館。

ウ 利用団体内訳

(単位：団体)

	小学校	中学校、高校 特別支援学校	幼稚園、 保育園等	福祉施設	放課後児童 クラブ	旅行団体 等	合計
団体数	82	12	46	42	30	21	233

※小・中・高校・特別支援学校の内訳は 37・38 頁、その他の団体の内訳は 39～41 頁を参照

エ 特別展示入館状況

a 無料の特別展示

展示会名	会期 (日)	日数 (日)	個人 (人)	団 体 (人)				合計 (人)	1日 平均 (人)
				大人	高 大 学 生	小 中 学 生	未 就 学 児		
第 40 回 S S P 展	令和 2 年 5月21日 ～6月28日	34	4,777	108	48	37	100	5,070	150
みやぎきの神楽 ～神々への感謝 と祈り～	令和 2 年 10月17日 ～11月29日	38	9,251	435	144	3,590	275	13,695	361

b 有料の特別展示

展示会名	会期	日数	入場者数 (人)			合計 (人)	1日平 均(人)
			有料		無料		
実施なし			大 人 小中学生		未就学児 招待者 身障者他		

※ 7/23～8/30 開催予定であった「モンスター水族館」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止。

オ 民家園入園者の状況 (月別)

月	入園者数 (人)	開園日数 (日)	1日平均 (人)
4	4,686	30	156
5	4,659	31	150
6	2,999	30	100
7	2,674	31	86
8	2,551	31	82
9	2,494	※ 25	100
10	5,018	31	162
11	5,280	30	176
12	4,280	31	138
1	4,947	31	160
2	5,298	28	189
3	5,653	31	182
計	50,539	360	140

※ 9/10～14 は燻蒸期間のため、民家園入園禁止。

② 過去 10 年間の利用状況の推移

ア 本館入館者数

年 度	個 人 (人)	団 体 別 (人)				合 計 (人)	開館 日数 (日)	1日 平均 (人)	特別展 観覧者数 (人)
		大 人	高大学生	小中学生	未就学児				
23	97,754	5,063	495	10,262	3,186	116,760	297	393	73,940
24	91,374	5,156	636	8,752	1,835	107,753	298	362	69,680
25	113,438	5,481	756	9,003	2,504	131,182	299	439	95,611
26	91,050	5,310	127	8,620	2,361	107,468	292	368	73,621
27	112,909	5,976	429	9,356	1,892	130,562	289	452	91,901
28	92,342	4,673	343	8,380	1,982	107,720	284	379	64,973
29	93,867	5,576	498	8,766	2,265	110,972	285	389	61,552
30	117,772	5,697	1,390	8,881	2,394	136,134	285	478	92,797
R1	68,369	4,292	845	7,924	2,173	83,603	267	313	34,833
R2	47,874	1,226	311	5,745	1,038	56,194	268	199	18,765

イ 本館の利用団体内訳

(単位：団体)

年 度	小学校	中学・高校・特 別支援学校	幼稚園、 保育園等	福祉施設	放課後児童 クラブ	旅行団体 等	合計
23	129	22	132	133	47	124	587
24	113	19	78	153	19	139	521
25	116	36	114	156	46	132	600
26	109	10	89	186	39	137	570
27	113	22	78	233	48	168	662
28	98	11	66	286	37	86	584
29	112	19	94	321	69	94	709
30	100	24	105	260	58	138	685
R1	101	19	83	166	85	88	542
R2	82	12	46	42	30	21	233

ウ 民家園入園者数の推移

年度	入園者数 (人)	開園日数 (日)	1日平均 (人)
23	43,857	361	121
24	44,889	359	125
25	47,810	359	133
26	44,718	358	125
27	36,267	361	100
28	46,648	358	130
29	50,461	357	141
30	50,714	359	141
R1	48,372	361	134
R2	50,539	360	140

【参考】学校団体(小・中・高・特別支援学校)の利用状況

月	日	曜	学校名	教科	総合	遠足・学校行事	学年	市町村名	人数
6	18	木	宮崎県立宮崎大宮高等学校	○			3	宮崎市	38
7	16	木	笛水小中学校		○		その他	都城市	21
8	29	土	宮崎県立宮崎北高等学校	○			1	宮崎市	42
9	24	木	上南方小学校	○		○	6	延岡市	34
9	24	木	延岡市立旭小学校	○		○	6	延岡市	97
10	1	木	祝吉小学校	○		○	6	都城市	66
10	1	木	東海小学校	○		○	5	延岡市	79
10	2	金	清武小学校			○	3	宮崎市	134
10	2	金	祝吉小学校			○	4	都城市	155
10	2	金	上長飯小学校			○	4	宮崎市	121
10	2	金	大久保小学校	○		○	3・4	宮崎市	46
10	8	木	日知屋小学校	○		○	6	日向市	41
10	8	木	明和小学校			○	4	都城市	85
10	9	金	延岡しろやま支援学校	○		○	3	延岡市	20
10	14	水	不土野小学校(稚葉村連合)	○		○	6	稚葉村	20
10	16	木	有明小学校	○		○	その他	串間市	35
10	15	木	沖水小学校			○	4	都城市	161
10	16	金	都於郡小学校	○		○	3	西都市	20
10	16	金	川南小学校			○	4	川南町	76
10	16	金	恒富小学校		○	○	4	延岡市	38
10	16	金	北川小学校	○		○	3・4	延岡市	33
10	17	土	宮崎北高等学校SSH	○				宮崎市	38
10	21	水	大東小学校、大平小学校	○		○	6	串間市	21
10	23	金	木城小学校	○	○	○	4	木城町	56
10	23	金	東大宮小学校 4館ツア一			○	4	宮崎市	151
10	23	金	都城市立南小学校			○	4	都城市	82
10	23	金	宮崎学園高等学校	○			2	宮崎市	7
10	29	木	南方小学校	○		○	6	延岡市	111
10	29	木	都農小学校			○	5	都農町	38
10	29	木	妻南小学校			○	2	西都市	84
10	29	木	岡富小学校	○		○	6	延岡市	72
10	29	木	丸野小学校	○		○	6	都城市	16
10	29	木	北方・秋山・市木小学校	○		○	6	串間市	20
10	30	金	石山小学校	○		○	6	都城市	17
10	30	金	妻北小学校	○		○	3	西都市	75
10	30	金	塩見小学校			○	4	日向市	24
10	30	金	都城西小学校			○	4	都城市	156
10	30	金	石山小学校			○	その他	都城市	38
10	30	金	加納小学校①	○		○	3	宮崎市	83
10	30	金	黒岩小学校	○		○	6	延岡市	15
10	30	金	加納小学校②	○		○	3	宮崎市	84
10	30	金	広瀬北小学校			○	3	宮崎市	109
10	30	金	広瀬北小学校			○	5	宮崎市	111
11	2	月	生目小学校			○	3	宮崎市	103
11	5	木	宮崎市立西小学校	○		○	6	宮崎市	57
11	5	木	広瀬小学校			○	3	宮崎市	111
11	5	木	木花小学校			○	3	宮崎市	39
11	5	木	檉北小学校			○	3	宮崎市	106
11	6	金	三ヶ所・鞍岡・坂本小学校	○		○	6	五ヶ瀬町	28
11	6	金	倉岡小学校			○	3・4	宮崎市	72
11	6	金	生目台西小学校			○	3	宮崎市	30
11	6	金	加久藤小学校	○		○	6	えびの市	54
11	11	水	安久小学校			○	5	都城市	56
11	12	木	本庄小学校	○		○	6	国富町	61
11	13	金	三財小学校	○		○	3	西都市	31
11	13	金	生目台東小学校			○	3	宮崎市	45
11	13	金	五十鈴小学校			○	4	門川町	57
11	13	金	本庄小学校	○		○	3	国富町	62
11	13	金	油津小学校	○		○	4	日南市	45
11	13	金	木脇小学校	○		○	3	国富町	54
11	18	水	油津小学校			○	6	日南市	46
11	18	水	緑ヶ丘小学校	○			6	延岡市	50
11	18	水	宮崎西高等学校附属中学校		○	○	2	宮崎市	84
11	19	木	綾小学校			○	3	綾町	88
11	19	木	名水小学校			○	その他	延岡市	17
11	19	木	日知屋東小学校	○		○	6	日向市	114
11	20	金	穆佐小学校			○	3・4	宮崎市	50

11	20	金	勝岡小学校			○	3	三股町	78
11	20	金	吾田東小学校			○	4	日南市	86
11	20	金	江南小学校			○	3	宮崎市	106
11	20	金	吾田小学校			○	3	えびの市	80
11	20	金	高原小学校			○	4	高原町	57
11	20	金	宮崎西小学校	○		○	3	宮崎市	26
11	20	金	国富小学校	○		○	3	宮崎市	111
11	25	水	高岡小学校	○			3	宮崎市	76
11	26	木	志和池小学校	○		○	6	都城市	55
11	26	木	森永小学校	○		○	6	国富町	25
11	27	金	山之口3校合同小学校	○		○	6	都城市	61
11	27	金	広瀬西小学校			○	3	宮崎市	58
11	27	金	本郷小学校			○	3	宮崎市	145
11	30	月	土々呂小学校	○		○	6	延岡市	61
12	7	月	大宮小学校6年生理科学習①	○			6	宮崎市	67
12	9	水	大宮小学校6年生理科学習②	○			6	宮崎市	73
12	9	水	延岡しろやま支援学校中学部			○	3	延岡市	10
12	10	木	飢肥小学校	○		○	6	日南市	79
12	11	金	有明小学校	○		○	6	串間市	15
12	11	木	妻南小学校	○		○	6	西都市	99
2	10	水	西池小学校	○		○	3	宮崎市	175
3	5	金	明豊中学校	○		○	2	県外	63
3	11	木	高鍋西小学校	○		○	6	高鍋町	78
3	12	金	宮崎大宮高等学校	○			2	宮崎市	9
3	18	木	大宮小学校	○		○	1~6	宮崎市	25
3	18	木	朝倉市立秋月中学校	○		○	2	県外	24
3	24	水	美々津中学校	○		○	2	日向市	29

【参考】その他の団体の利用状況

月	日	曜	団体名	市町村名	人数
4	1	水	医)永和工	県外	5
5	16	土	スポーツパークBASIS	宮崎市	17
5	18	月	タンポポ保育園	宮崎市	7
5	28	木	宮崎大学工学部 地盤工学研究室	宮崎市	8
5	30	土	放課後等デイサービス さくら	宮崎市	11
6	3	水	タンポポ保育園	宮崎市	11
6	3	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
6	6	土	タンポポ保育園	宮崎市	15
6	6	土	Happy works 宮崎校	宮崎市	6
6	6	土	放課後等デイサービス Good Jobs	宮崎市	12
6	6	土	放課後等デイサービス アシスト プラザ	都城市	6
6	10	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
6	11	木	三和こども学舎	宮崎市	32
6	11	木	タンポポ保育園	宮崎市	18
6	11	木	ふれあいの里	小林市	10
6	12	金	宮崎情報ビジネス医療専門学校	宮崎市	26
6	12	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	10
6	13	土	友愛園	木城町	12
6	14	日	カリタスの園 竹の寮	宮崎市	12
6	15	月	チャレンジキャンパス くうねる遊ぶ	宮崎市	8
6	15	月	放課後等デイサービス にじいろホース	宮崎市	12
6	17	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
6	17	水	宮崎県立芸術劇場	宮崎市	8
6	18	木	ひなたインターナショナルプリスクール	宮崎市	17
6	19	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	13
6	24	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	11
6	25	木	のぞみ保育園	宮崎市	25
6	26	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	12
6	27	土	障がい児らいふさぽーと あうる	国富町	10
7	4	土	Happy works 宮崎校	宮崎市	7
7	4	土	Happy works 清武校	宮崎市	23
7	4	土	ピスティス みやざき	宮崎市	4
7	8	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
7	9	木	県 山村・木材振興課	宮崎市	3
7	10	金	社会福祉協議会 つくしえん	宮崎市	20
7	10	金	ハッピーコーポレーション	宮崎市	25
7	10	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	2
7	11	土	スタンザ	宮崎市	11
7	15	水	中央児童相談所	宮崎市	9
7	15	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	5
7	16	木	野の花幼稚園	宮崎市	44
7	17	金	野の花幼稚園	宮崎市	31
7	17	金	一万城幼稚園	都城市	18
7	17	金	三股幼稚園	三股町	34
7	17	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	2
7	18	土	木花こども園	宮崎市	43
7	18	土	宮崎大学教育学部大学教育入門セミナー理系	宮崎市	25
7	18	土	放課後等デイサービス GIFT	西都市	15
7	22	水	学校法人大宮学園 生目台幼稚園	宮崎市	22
7	25	土	T.Nクリーン	県外	8
7	26	日	4館ツアー 宮崎大学教育学部芸保生活系専修	宮崎市	22
8	7	金	チックタック大宮児童クラブ	宮崎市	14
8	21	金	ピスティス みやざき	宮崎市	5
8	26	水	放課後等デイサービス にじいろホース	宮崎市	18
9	2	水	タンポポ保育園	宮崎市	7
9	2	水	人の話くらぶ佐智	宮崎市	8

9	3	木	ちるぷれふおれすと	宮崎市	8
9	4	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	7
9	5	土	南こども園	宮崎市	26
9	24	木	高千穂幼稚園	宮崎市	22
9	25	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	7
9	27	日	ボーイスカウト4団	宮崎市	15
10	3	土	放課後等デイサービス れんと	都城市	11
10	9	金	平和が丘保育園子育て支援センター	宮崎市	9
10	10	土	宮崎市中央公民館「おもてなし」講座	宮崎市	41
10	12	月	福祉支援センター ふあみりあ	宮崎市	9
10	17	土	タンポポ保育園	宮崎市	21
10	17	土	放課後等デイサービス あさひがおか	三股町	18
10	17	土	人の話くらぶ佐智	宮崎市	6
10	17	土	放課後等デイサービス Good Jobs	宮崎市	11
10	19	月	タンポポ保育園	宮崎市	9
10	21	水	田野カトリック聖母幼稚園	宮崎市	15
10	22	木	みんせいかん	宮崎市	7
10	22	木	田野カトリック聖母幼稚園	宮崎市	14
10	22	木	野の花幼稚園	宮崎市	21
10	22	木	放課後等デイサービス みなみ	宮崎市	5
10	22	木	放課後等デイサービス ら・ぼるて	宮崎市	6
10	23	金	中央ヴィラ子ども園	宮崎市	24
10	23	金	タンポポ保育園	宮崎市	11
10	24	土	子どもプラス宮崎	宮崎市	11
10	26	月	太田北永寿会	宮崎市	14
10	28	水	田代保育学園・久峰保育学園	宮崎市	83
10	28	水	県立産業技術専門校 建築設備科1・2年生	宮崎市	34
10	29	木	田野カトリック聖母幼稚園	宮崎市	9
11	2	月	スマイルシード潮見町	都城市	3
11	2	月	タンポポ学童	宮崎市	8
11	6	金	宮崎ケーブルテレビファンの会	宮崎市	26
11	6	金	内海保育園	宮崎市	21
11	7	土	放課後等デイサービスBASIS	宮崎市	12
11	8	日	宮崎大学学芸員養成課程 博物館資料論	宮崎市	22
11	11	水	中央ヴィラこども園	宮崎市	27
11	11	水	福寿荘	宮崎市	13
11	12	木	石井記念明倫館保育園	高鍋町	41
11	13	金	大塚あけぼの幼稚園	宮崎市	66
11	16	月	細見クリニック	宮崎市	9
11	16	月	こどものしろ保育園	宮崎市	17
11	16	月	認定こども園 ソレイユ	宮崎市	32
11	18	水	福島保育所	宮崎市	23
11	19	木	南九州大学	都城市	27
11	21	土	ピースフルみらい	宮崎市	15
11	26	木	さくら富吉	宮崎市	7
11	29	日	宮崎大学博物館情報メディア論	宮崎市	44
11	29	日	九州保健福祉大学	延岡市	14
11	29	日	尾辻様	県外	11
12	4	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	8
12	11	金	鈴花	宮崎市	11
12	17	木	星空の都	都城市	9
12	18	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	2
12	20	日	宮崎大学学芸員養成課程「博物館資料論」	宮崎市	18
12	21	月	人の話くらぶ佐智	宮崎市	5
2	12	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	2
2	14	土	佐光 真美様	川南町	8
2	19	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	6
2	22	月	倉岡幼稚園	宮崎市	21
2	26	金	生目幼稚園	宮崎市	20

2	26	金	みなみこども園	宮崎市	44
2	26	金	タンポポ保育園	宮崎市	12
2	26	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	5
2	27	土	ひなたかれっじ	宮崎市	8
2	27	土	スタジオミント	宮崎市	7
3	1	月	あいいく幼稚園	西都市	34
3	1	月	タンポポ保育園	宮崎市	18
3	3	水	中央福祉子どもセンター	宮崎市	5
3	3	水	大空クリニック	宮崎市	11
3	4	木	わかば保育園	宮崎市	52
3	4	木	明星幼稚園	宮崎市	36
3	5	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	4
3	6	土	放課後等デイサービス Good Jobs	宮崎市	13
3	7	日	みどり学園	延岡市	19
3	12	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
3	15	月	生目幼稚園	宮崎市	50
3	19	金	加納ひまわり幼保園	宮崎市	31
3	19	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
3	22	月	ひかり幼稚園	宮崎市	55
3	25	木	スポーツパークBASIS	宮崎市	14
3	26	金	ピスティス みやざき	宮崎市	3
3	26	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
3	27	土	マーブルクラブ	新富町	15
3	29	月	加納ひまわり幼保園	宮崎市	23

4 教育普及

県民誰もが参加でき、本県の自然や歴史について楽しく学べるような学習機会を提供することを目的に、本館ではこれまで収集してきた資料や調査研究成果を積極的に活用しながら、学校や関係機関と連携して、学校教育に対する支援や展示解説員による普及活動、各種講座などを行っている。

(1) 学校教育支援

① 学校の受け入れ

学校団体が、遠足や授業などで本館を訪問する形での利用があり、令和2年度は、小学校83校、中学校4校、高等学校5校、特別支援学校2校、幼稚園・保育園・認定こども園46校の計140校を受け入れた。

② 教員研修等への支援

学校の部会や研修会等の講師として、担当の専門性を生かした指導・助言を行った。

ア 宮崎市立佐土原小学校職員研修

担当：野添和洋（民俗部門）

期日：令和2年11月14日（土）

場所：総合博物館 特別展示室

内容：宮崎市立佐土原小学校の学校職員に対し、特別展「みやざきの神楽—神々への感謝と祈り—」の展示概要や展示資料について解説した。

参加者：21人

イ 宮崎県高等学校教育研究会理科部会生物部会研修

担当：黒木秀一

期日：令和2年11月26日（木）

場所：宮崎市青島

内容：高等学校で生物科を担当する職員に対し、青島の亜熱帯性植物の特徴や植生、海浜植生、地衣類や菌類について解説を行った。

参加者：●人

③ 授業への支援

専門的な内容をテーマにした授業がある場合に、担当教員と事前の打ち合わせを十分行った上で、本館職員が直接生徒や学生に説明や指導を行っている。

ア 宮崎西高等学校附属中学校 「探究」の時間「青島亜熱帯植物観察会」への協力

担当：福松東一（植物部門）

期日：令和2年7月13日（月）

期日：令和2年7月22日（水）

場所：宮崎西高等学校附属中学校 視聴覚室(7/13)

場所：野島神社・青島

内容：宮崎西高等学校附属中学校1年生2クラスを対象として、7月13日（月）は事前研修として植物に関する基本的な知識と観察の視点、亜熱帯植物に関する説明を行った。また、7月22日（水）は、始めに野島神社の国指定の「内海のアコウ」の観察を行い、その後青島に移動し、島内の亜熱帯植物について観察を行った。

参加者：84人（1年生）

イ 宮崎北高等学校・宮崎県総合博物館連携事業「フィールドワーク」

担当：黒木秀一（植物）、濱田真理（地質）

期日：第1講 令和2年8月29日（土）9:00～12:00（場所：総合博物館）

第2講 令和2年9月12日（土）9:00～12:00（場所：宮崎市青島）

第3講 令和2年10月17日（土）9:00～12:00（場所：総合博物館）

第4講 令和2年10月24日（土）9:00～12:00（場所：宮崎市青島・野島）

第5講 令和2年11月7日（土）8:00～17:00

（場所：日之影町梁崎、延岡市北方町比叡山、日向市馬ヶ背・権現崎）

対象：宮崎北高等学校サイエンス科1年生（40名）

内容：これから探求活動に取り組むサイエンス科1年生に、フィールドワークの研究テーマや手法を知ってもらうことを目的として、宮崎の植生と地質を体系的に学ぶ一連の事業を行った。本館職員は博物館での事前学習及びフィールドワークでの講師を務め、生徒への指導・助言を行った。また、全体計画や教材作成に関して高校側担当者へ助言や資料提供を行った。



博物館での事前学習



フィールドワーク（青島）



フィールドワーク（権現崎）

ウ 延岡高等学校「普通科 SDGs フィールドワーク」への協力

担当：中山貴義・濱田真理（地質部門）

期日：令和2年11月6日（金）

場所：延岡市行滕山

内容：普通科1年生2クラスを対象にフィールドワークの支援を行った。行滕山登山口から滝見橋までの区間で生徒に地形・岩石・鉱物の観察、地形図の読図、科学的スケッチ等に取り組みせ、解説を行った。また、全体計画や教材作成に関して高校側担当者へ助言や資料提供を行った。



参加者：生徒80人・引率教諭4人

エ 五ヶ瀬町教育委員会の町内小学校第5学年宿泊研修（発掘体験）への協力

担当：中山貴義（地質部門）

期日：令和2年11月9日（月）

場所：五ヶ瀬町鞍岡

内容：体験学習で産出する化石の同定と説明を現地で行った。

参加者：30人（第5年学年児童）

オ 九州保健福祉大学学芸員養成課程施設見学への協力

担当：野添和洋・竹下隼人（学芸課）、川畑英美（展示解説員）

期日：令和2年11月29日(日)

場所：総合博物館 研修室1、自然史・歴史・民俗展示室、特別展示室、収蔵庫ほか

内容：博物館等で館園実習を受ける学生に対する事前指導の一環として、当館の事業内容や学芸課職員の業務内容の説明、常設展、特別展の解説などを行った。

参加者：14人

カ 宮崎市立大宮小学校への協力

担当：中山貴義・濱田真理（地質部門）

期日：令和2年12月7日(月)～9日(水)

場所：総合博物館 自然史展示室・研修室1

内容：地質に関する学習のまとめとして、博物館の資料を活用した授業に協力した。

宮崎県全体や学校周辺の地質の説明、県内で産出する化石の紹介を行った。

参加者：134人（6年生児童）

キ 宮崎市立佐土原小学校への協力

担当：中山貴義・濱田真理（地質部門）

期日：令和2年12月14日(月)

場所：宮崎市立佐土原小学校 理科教室

内容：地質に関する学習のまとめとして、博物館の映像資料を活用した授業に協力した。県内の河川等で採集した岩石を元に宮崎県の地質の特徴を解説した。

参加者：48人（6年生児童）

④ 学校への資料貸出し

本館では、学校支援の一環として、授業等で活用することの多い資料をセットにして、学校への貸出しを行っている。また、リスト以外の資料についても随時相談に応じている。

ア 主な貸出しセット（本館HPに掲載）

【動物】乾燥標本(トンボ、チョウ、ハチ等)、剥製標本(ほ乳類、鳥)、骨格標本(ほ乳類)

【植物】教科書掲載押し葉植物標本、コケ・シダ模型

【地質】鉱物・岩石標本、人類頭骨レプリカ、化石レプリカ

【歴史部門】蒙古襲来絵詞・西郷札・地券写真パネル、伊能図（複製）、防空ずきん

【民俗部門】むかしの道具等写真パネル、むかしの道具貸出しキット

イ 学校貸出し実績

学校名	期間	資料	点数
日向市立美々津中学校	5/25～6/1	アウストラロピテクス頭骨レプリカ1点、クロマニオン人頭骨レプリカ1点	2点
宮崎国際大学	6/14～6/28	岩石標本（7種）、化石標本1セット	8点
南九州大学	7/28	獣文縁獣帯鏡	1点
五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校	10/11～10/24	剥製標本（イノシシ、キツネ、骨格標本（イノシシ、ニホンカモシカ）	4点
宮崎県立宮崎南高等学校	11/23	発光きのこ写真	11点

⑤ 職場体験学習・インターンシップの受入れ

中高生の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成を図るため、毎年度、学校教育一環として行われている中学校の職場体験学習と高等学校のインターンシップの受け入れを行っている。令和2年度は中学校3校から申し込みがあったが、新型コロナウイルスのため辞退の申し入れがあった。

⑥ 博物館実習生の受入れ

学芸員資格取得を希望する大学生に対して、博物館の概要や学芸員の業務等についての理解と、展示や普及活動の実習を通しての知識や技能の習得を目的として、本館での実習を行っている。令和2年度は、2大学2人の実習生を受け入れた。

期 間：令和2年8月21日(金)～8月31日(月)の8日間 (8/23(日)と8/25(火)と8/30(日)を除く)

実習生：在籍大学・学部、人数については次のとおり。

大学・学部等	人数
八州学園大学生涯学習学部	1人
鹿児島大学理学部	1人

(2) 展示解説員による普及活動

来館された方に対してきめ細やかなサービスを提供するため、平成12年度から展示解説員制度を本格スタートさせた。展示解説員は、学校やその他の団体の来館時対応や展示解説を担当するほか、来館者の案内や問い合わせの対応を行っている。また、常設展示室において、紙芝居・クイズラリーなどの催し物の運営を行っている。

【展示解説員が担当する催し物の参加者数】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定時解説及び 通常解説	0	0	58	203	21	87	1638	2150	20	0	295	138	4,610
紙芝居	0	0	289	314	21	213	242	379	182	0	263	468	2,371
むかしのあそび	0	0	0	252	0	0	391	115	0	0	136	467	1,361
クイズラリー	0	0	48	89	54	14	197	43	20	0	41	33	539

① 常設展示室の展示解説

常設展示室では、来館者が展示資料等に関する理解を深め、本県の自然や歴史に対する関心を持ってもらうため、展示解説員による展示解説を行っている。この展示解説には、あらかじめ日時と展示室を指定して定期的に行う「定時解説(ガイドツアー)」と、来館者の要望に応じて随時行う「通常解説」があり、申込みに応じて実施している。

まず、定時解説については、毎週土曜日、日曜日、祝日の午前と午後に、自然史、歴史、民俗の各展示室を指定して、30分程度の解説を行っている。また、通常解説には、個人解説と団体解説があり、時間、内容、展示室についての入館者の希望に可能な限り対応しており、特に、学校団体には、希望に応じて「むかしの道具」の解説マニュアルを使った解説を行ったり、視覚障害者向けには触察資料を紹介するマニュアルを用いた解説を行っている。

令和2年度に展示解説を受けた方の数は4,610人であった。

② 催し物の運営

展示解説員の企画運営により、次の催し物を行った。

ア 紙芝居

紙芝居を日曜日及び祝日に2回（午前11時30分～、午後2時30分～）実施した。紹介する紙芝居は、各回とも2話である。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、7月～9月は、研修室1において先着30名で実施し、その後は、密にならないようソーシャルディスタンスをとって2階エントランスロビーで実施した。紙芝居は、「時代のひろば」に設置している紙芝居舞台を用いた。

また、移動可能な紙芝居用自転車を利用して、3月6日（土）の開館50周年民家園春まつりでは紙芝居を行った。

令和2年度の紙芝居参加者は2,371人であった。

イ むかしのあそび体験ひろば

毎月第1・3・5土曜日（午前9時～午後3時）に、2階エントランスロビーにて、「むかしのあそび体験ひろば」を設けた。ソーシャルディスタンスをとって体験してもらうとともに手指消毒の徹底を行った。「あやとり」「おはじき」「はしごだるま」など遊び道具を用い遊び方については、展示解説員がアドバイスをした。

また、3月6日（土）の開館50周年民家園春まつりでは、「むかしのあそび拡大版」を実施した。この日は、通常の遊び道具に加え、「魚釣りゲーム」、「シャボン玉」、「けん玉」などを用意した。

令和2年度の体験者数は1,361人であった。

ウ クイズラリー

クイズラリーは、館内の展示資料を見ながら、用意された問題（クイズ）を解いていく催しで、定期的実施する通常版と、来館者の多い時期に実施する特別版がある。

通常版には、個人用と団体用があり、個人用の対象は小中高生及び大人で、毎月第2・4土曜日の午前9時から午後4時まで参加を受け付けて実施しており、参加者には参加賞を、設定した段階をクリアした正解者には賞品を贈呈することとしている。団体用は、低学年、高学年を対象とした問題の2種類用意しており、親子会や児童クラブ等のレクレーションや学級単位での利用があった。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、自己採点方式及び参加賞の自主選択方式を取り入れて対応した。

特別版では、文化の日に「文化の日クイズラリー」と題して、館内を巡って解く特別問題を作成した。

令和2年度は、通常版に539人（個人用386人、団体用1団体153人）、特別版は85人（11月3日85人）の参加があり、計624人の参加があった。

③ 地域回想法「博物館で思い出を語ろう！」事業の実施

本館では高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に「博物館で思い出を語ろう！」事業を実施しており、展示解説員が来館当日の団体対応をはじめ、福祉施設との連絡調整などを担当している。（活動の詳細は63頁参照）

※その他展示解説員が担当する業務

展示解説員は①～③を担当する他、本館の普及活動等に関わる次の業務も担当している。

- ゴールデンウィーク・夏休みイベント等の企画立案
- イベント運営（博物館こどもDAY、風車フェスタ）
- 展覧会の開会式における司会進行と介添え、誘導、監視
- 展覧会の準備補助、チラシ等発送業務
- 学芸課が行う講座などの補助
- 燻蒸期間やメンテナンス期間、特別整理期間における展示室・収蔵庫の整理・清掃

- IPM ウォッチング
- 広報推進委員会出会
- SNS による広報
- 50周年記念事業に係るイベント「スタンプ集めてバッチをゲット」「みやはく検定」「大きな花を咲かせよう」の企画準備
- ホームページ「おうちでみやはく」の映像作成

(3) 博物館講座等

博物館講座は、本館がこれまで収集した資料や調査研究の成果をもとに、県民に自然や歴史に関する多様な体験・学習の機会を提供することを目的に実施している。年間を通じて部門ごとに実施する普及講座のほか、特別展示に関連して実施する講座がある。特に、普及講座では、県内各地を会場として館外で実施するものを地域講座として位置づけ、地域バランスを考慮しながら、県下全域に講座会場を設定して実施している。

令和2年度は、野外講座を含む講座総数 29（地域講座 9 を含む）を設定。新型コロナウイルス感染拡大防止のため 14 講座が中止となり、15 講座（地域講座 9 を含む）を実施。受講者総数は 324 人であった。

【令和2年度の博物館講座参加者数一覧】

博物館講座参加者数	324 人
① 普及講座	266 人
② 特別展示関連講座	58 人

① 普及講座（※地は地域講座）

No	部門	講座名	外部講師	実施日	場所	参加者数 (人)
1	植物	地 集めよう！海のお宝貝がら	西 邦雄	4 月 25 日	崎田浜	中止
2	地質	地質の日関連特別講座「球状コンクリーションの謎にせまる」	吉田 英一	4 月 26 日(延期) 3 月 6 日	研修室 1	37
3	歴史	よろい・かぶと着用体験！		5 月 5 日	エントランス ホール	中止
4	民俗	地 鶴戸山の民俗を学ぼう	黒岩 昭彦	5 月 9 日	鶴戸神宮	中止
5	植物	地 家族と先生のための「コケ植物観察会」	片桐 和之	5 月 23 日	総合博物館	中止
6	歴史	宮崎の歴史を学ぶ 1	関 周一	6 月 13 日	研修室 1	20
7	植物	地 青島の光るきのご観察会		7 月 25 日	青島、亜熱帯植 物園	中止
8	植物	標本講座「夏休みの自由研究 押し葉標本をつくろう①」		8 月 1 日	研修室 2・神宮 の森	中止
9	地質	標本講座「化石レプリカをつくろう！」		8 月 2 日	研修室 2	中止
10	植物	標本講座「夏休みの自由研究 押し葉標本をつくろう②」		8 月 22 日	研修室 2	中止
11	自然史	採集作品の名前を調べる会		8 月 22 日	情報室	中止
12	地質	化石の日関連特別講座「化石から知る生物の栄枯盛衰」	大路 樹生	10 月 11 日	研修室 1	33
13	地質	地 大地のつくりを観察しよう（門川編）		10 月 18 日	庵川漁港周辺	23
14	植物	自然の色で染めてみよう	中武 享子	10 月 25 日	研修室 2	19
15	歴史	宮崎の歴史を学ぶ 2	増田 豪	10 月 31 日	研修室 1	16
16	植物	地 見立溪谷の秋の紅葉観察会		11 月 15 日	見立溪谷	19
17	考古	地 西都原古墳群の終末期古墳を中から観察しよう		11 月 22 日	西都原古墳群	24

18	地質	地火山灰の地層を観察しよう		11月29日	梅ヶ久保	22
19	民俗	佐土原人形絵付け体験	下西 美和	12月5日	研修室2	19
20	動物	調べよう！鳥の飛ぶしくみ		12月6日	研修室1	14
21	地質	火山灰の粒を観察しよう		12月12日	研修室2	12
22	考古	大淀川下流域の考古学～弥生時代のムラと墓～		1月17日	研修室1	中止
23	動物	森を守る「ササラダニ」を観察しよう！		2月13日	研修室2	8

① 特別展示関連講座 (※地は地域講座)

No	講座名	外部講師	実施日	場所	参加者数(人)
1	こども生きもの写真教室	東木場 昭裕	5月3日	エントランス・神宮の森	中止
2	地特別展示関連講座 無人島 お掃除大作戦！	鈴木 崇文	5月16日	幸島	中止
3	SSP展40回記念特別講演会「生きものの写真で伝えたいこと」	東木場 昭裕	5月30日	研修室1	中止
4	プロに学ぶ写真教室	東木場 昭裕	6月14日 6月21日	研修室1	32
5	特別展示関連講座「チリメンモンスターを探そう！」		8月3日	研修室2	中止
6	特別展示関連講座「みやぎきの神楽を学ぼう」	前田 博仁	11月7日	研修室1	26

【主な講座実施例】

ア 博物館講座「佐土原人形絵付け体験」

実施日：令和2年12月5日(土)

実施場所：研修室2

参加者：19人

内容：絵付け体験では、来年の干支にちなんだの「丑」の土鈴や置物など（3種類）の中から予め選んだものに、見本を参考にしながら絵の具で色つけを行った。

丑の胴体の模様や目など筆の穂先での細かい作業での絵付けは難しく、講師の助言を受けながら、丁寧に絵付けする姿が見られた。参加された皆さんは大変満足した様子であった。



絵付けの様子

イ 博物館講座「宮崎の歴史を学ぶ1」
実施日：令和2年6月13日（土）
実施場所：研修室1
参加者：20人（定員20名）

内容：講座では、「南北朝時代前期の日向国と伊東氏」をテーマに、絵図、古文書などの史料を読み解きながら伊東氏の動向を検討していった。本館寄託資料の「土持



講座の様子

文書」や様々な古文書を題材に、日向国内の在地武士である土持氏と伊東氏の関係、さらには南朝方の畠山直顕と在地武士との関係等について紹介された。

今回の講座は、今年度はじめての博物館講座であり、かつ、新型コロナウイルス感染拡大防止のために定員を40名から20名と限定したソーシャルディスタンス的対応をとった。また、来場者にはマスクの着用をお願いし、研修室1のドアを開放し、エアコンも使用した。9時から入場整理券を配布して入場時の混乱を防止できたが、定員20名を超える方々が来館し、入場をお断りした。（5・6名）広報は主にチラシの配布、HPを用いたが、講師の関先生の人気、テーマとした伊東氏への関心の高さがうかがえた。

(4) 「どこでも博物館」事業

本館が所在する宮崎市から離れ、訪れることが難しい地域の県民を対象に博物館が出向き、収蔵資料の展示紹介や体験講座を行う「どこでも博物館」事業を平成27年度から実施してきた。本年度は輸送手段に大型トラックを用いる「展示充実推進事業」の3年目にあたり、今回は、県内3か所で開催した。

① どこでも博物館 in 高千穂町立上野小・中学校

日時：令和2年7月9日（木） 午前9時～午後2時30分

会場：高千穂町立上野体育館

後援：高千穂町教育委員会

内容：自然史3部門と歴史・民俗部門の合計5部門と博物館活動紹介を合わせた6ブースを設定した。自然史部門からは高千穂町に関連のある資料を中心に、歴史・民俗部門は着用体験や実演を中心に展示紹介した。学年毎に設定した各事業の冒頭では、博物館活動と学校周辺の自然を3D映像で紹介し、グループ毎に各ブースを回ってくる児童達に解説を行った。

参加者：216人



② どこでも博物館 in 日南市生涯学習センター

日時：令和2年11月14日（土） 午前10時～午後3時

会場：日南市生涯学習センター

内容：日南市立図書館まつりでの開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、図書館まつりが中止になり、どこでも博物館がメインのイベントになった。自然史3部門と歴史・考古の5部門と開催中の特別展の紹介コーナーを設けた。観覧者のほとんどは親子連れであった。

参加者：245人



② どこでも博物館 in 県立都城さくら聴覚支援学校

日時：令和2年12月10日（木） 午前10時～午後2時15分

会場：県立都城さくら聴覚支援学校体育館

内容：特別支援学校での初開催であり、博物館職員は、自己紹介のために手話を披露した。自然史3部門、歴史・考古の5部門と博物館紹介・パズルができるブースを設置した。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、学校側から地域の関係施設や一般の方々を呼ぶことができないことをお願いされ、都城さくら聴覚支援学校の幼児と児童生徒、保護者、職員のみでの参加となった。各ブースに支援学校職員が通訳で協力していただき、スムーズに説明を伝えることができた。また、手話やホワイトボードにイラストを描いて筆談も交えながらの説明をされ、大変参考になった。

参加者：89人



(5) 民家園を活用した普及事業

国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟の計4棟の古民家からなる民家園の活用事業については、平成19年度の「民家園利活用構想報告書」をもとに、平成20～21年度は「民家園利活用促進事業」、平成22～23年度は「民家園環境整備事業」、平成24～25年度は「総合博物館民家園を活用した故郷の四季体験事業」として展開してきており、平成26年度から「民家園民俗文化体験事業」として、正月行事体験、伝統芸能（神楽公演）、民家園春まつりを実施している。これらその他、民家園ボランティアによる火入れ（毎週土曜日）や昔の道具体験、県内の語り部の会による宮崎の昔話公演、民家園の貸出しなどを行っている。また、令和元年度から伝統文化や民俗の伝承などを行いたい個人や団体に民家園を無料で貸し出す「民家園利用事業」を新たに実施している。令和元7月からは、営利目的の場合における有料の貸し出しも実施している。また、令和2年8月からは、更に利用拡大を図るため、民家園を利用する事業に対して、貸し出しを実施している。

① 火入れ

これまで、民家園ボランティアによる、民家の囲炉裏の火入れを毎週土曜日に実施してきたが、今年度は、年度当初から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、民家園ボランティア活動が中止となった。活動再開後も感染拡大防止のため、火入れの時間は午前中までとした。



火入れの様子

② 伝統文化体験講座

ア 県内の神楽公演

＜椎葉神楽公演＞

実施日：令和2年10月31日（日）

会 場：椎葉の民家・特別展示室

公演者：嶽之枝尾神楽保存会（椎葉村）

参加者：115人

内 容：せり歌の女性も含めて約30名に参加いただいた。民家園での「宮神楽」「大神神楽」「星指し」「手力」「入増神楽」に加えて、特別展示室での「注連引鬼神」の全6演目を披露した。激しい太鼓のリズムと躍動感溢れる舞、女性の元気なせり歌が好評であった。



椎葉神楽公演

③ 「みやざきの昔話」公演

実施日：令和2年6月20日、7月18日、9月19日、10月17日、11月21日、3月6日
（※ 4月、5月、8月、2月は新型コロナウイルス感染拡大の状況により中止）

会 場：民家園 椎葉の民家

講 師：「民家園語りの会」「神話語り部の会」会員

参加者：115人（6回の合計）

内 容：12月と1月を除く毎月第3土曜日に、毎回5～6話の県内各地で語り継がれてきた昔話を語ってもらった。7月は特別に怖い話を特集し、多くの参加があった。

3月は総合博物館50周年記念事業にあわせて昔話公演を実施した。



民家園語りの会

④ 昔のくらし体験

実施日：1回

令和2年11月5日(木) 内山子ども園

会場：椎葉の民家

講師：民家園ボランティア

参加者：37人

内容：民家園ボランティアが指導者となり、園児を対象に、脱穀機や唐箕などの昔の道具を使った脱穀体験や竹馬、竹どんぼ、しゃぼん玉等の昔のあそびを指導した。実際に道具を使った体験ができ、参加した園児には好評であった。



脱穀体験の様子

⑤ 民家園利用事業

実施日：6回（詳細を下に示す）

令和2年7月25日(土)	外国人の茶道体験	15人
令和2年8月31日(月)	県政番組撮影のロケ場所	7人
令和2年10月11日(日)	同人誌の編集会議	5人
令和2年10月24日(土)	宮崎公立大学茶道部の茶会	12人
令和3年3月27日(土)	宮崎県産茶の体験茶会	20人
令和3年3月29日(月)	県政番組撮影のロケ場所	9人

会場：椎葉の民家、米良の民家等

参加者：68人（6回の合計）

内容：今年度8月から、民家園利用事業の対象を「伝統文化や民俗の伝承を目的とする事業」から「民家園を利用する事業」へ拡大して、利用件数の増加を目指したが、新型コロナウイルス感染拡大により、利用の状況は厳しい状況であった。

（無料の実績5件、有料の実績1件）



外国人の茶道体験の様子

⑥ その他

ア レコードコンサート

実施日：令和2年10月18日(日)

会場：椎葉の民家

参加者：85人

内容：宮崎レコード音楽愛好会との共催事業として実施し、プロモーターJBL4320などの音響機器を用いて懐かしい音楽を流すレコードコンサートを行った。和製のフォーク&ポップスをはじめ、移り変わる時代の思い出の流行歌や映画音楽を流して、来場者を楽しんでいただいた。



レコードコンサートの様子

(6) 関係機関との連携

博物館活動を展開するにあたっては、関係機関との連携が不可欠であることから、他の博物館や研究機関、さらに教育関係機関と連携し、調査研究等のための職員派遣・招聘、展示等に伴う資料の貸出・借用、情報交換等を行っている。

① 職員の派遣

他の機関からの依頼に応じて、講師や委員会のメンバーとして、また企画展などの指導・助言者として、職員の派遣を行った。

年月日	依頼機関	依頼内容	派遣職員
令和2年7月18日	宮崎大学教育学部	「大学教育入門セミナー」 「学校教育活動における教育活動について」	福松東一
令和2年7月13日 7月22日	宮崎西高等学校附属中学校	中学1年「探究」の時間「青島亜熱帯植物観察会」事前学習 中学1年「探究」の時間「青島亜熱帯植物観察会」現地観察会	福松東一 福松東一
令和2年8月29日 9月12日 10月17日 10月24日 11月7日	宮崎県立宮崎北高等学校	プレ探究活動「宮崎の自然」講師 (博物館での事前学習 2講座) 探究活動「フィールドワーク」講師 (青島・野島・県北 3講座)	黒木秀一 濱田真理
令和2年10月5日	宮崎県青島青少年自然の家	干潟の観察について講話及び実地研修	外山真樹 竹下隼人
令和2年11月6日	宮崎県立延岡高等学校	「普通科SDGsフィールドワーク」行藤山の地質について	中山貴義 濱田真理
令和2年11月8日	宮崎県教育庁高校教育課	第10回「科学の甲子園」宮崎県予選答案の採点業務	濱田真理
令和2年11月9日	五ヶ瀬町教育委員会	町内小学校第5学年の宿泊研修の際の、化石発掘体験での古生物の説明と同定	中山貴義
令和2年11月26日	宮崎県高等学校教育研究会理科部会(生物中部地区会)	青島神宮周辺の植物観察研修講師	黒木秀一
令和2年12月14日	宮崎市立佐土原小学校	授業支援 (県内の地質の特徴について)	中山貴義 濱田真理
令和3年1月8日 1月14日	宮崎大学地域資源創成学部	宮崎県の地域資源についての講義	黒木義博 黒木秀一 野添和洋 平松憲太郎
令和3年2月5日	新採グループアドバイザー研修	総合博物館の施設及び業務内容について	福松東一
令和3年3月10日	宮崎西高等学校附属中学校	「探究」フィールドワークと校外活動	外山真樹 竹下隼人

計12件18回

- ② **研究者等の招聘** ※講座・展示・講演会・共同研究等 計16件18名
普及講座の外部講師として6件6名、特別展示関連講座の外部講師として9件11名で、調査研究で2件3名を招聘した。また、共同研究においては1件1名であった。

<普及講座>

前田博仁氏（宮崎民俗学会）、下西美和氏（佐土原人形製作所ますや）、関周一氏（宮崎大学教育学部）、増田豪氏（延岡市 内藤記念館）、大路樹生氏（名古屋大学博物館）、吉田英一氏（名古屋大学博物館※リモート）

<特別展関連>

東木場昭裕氏（写真家）、小川直之氏（國學院大学）、大館真晴氏（宮崎県立看護大学）、那賀教史氏・清水聡氏（宮崎民俗学会）、工藤浩章氏・古川三鶴亀氏（県伝統工芸士）、甲斐晃一郎氏（高千穂：浅ヶ部神楽保存会会長）、尾前秀久氏（椎葉：椎葉神楽保存連合会会長）、瀆砂武久氏（米良：銀鏡神楽保存会会長）、西川嘉宏氏（高原：祓川神楽保存会会長）

<水系別総合調査（五ヶ瀬川水系）>

福島英樹氏（宮崎市立田野中学校／鳥類・哺乳類）、那賀教史氏・地村光弘氏（宮崎民俗学会）

<共同研究等>

吉田英一氏（名古屋大学博物館）

- ③ **視察・調査等で来館された関係機関（順不同）** 計10機関

<県外>

名古屋大学博物館、奈良県立橿原考古学研究所、元興寺文化財研究所、鳥取県立博物館

<県内>

県立図書館、県立延岡高等学校、県立宮崎北高等学校、県衛生環境研究所、宮崎地質研究会、宮崎愛石同好会、

- ④ **資料の貸出し**

ア 館外資料貸出し

計12機関

	資料名	貸出先	期間	目的
動物	イノシシ剥製1点、イノシシ頭骨1点、キツネ剥製1点、ニホンカモシカ頭骨1点	西臼杵郡五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校	令和2年10月11日 ～10月24日	授業で教材として使用
	ワスレ貝類標本	大阪市立自然史博物館	令和2年9月4日 ～令和3年2月28日	分類学的研究に使用
植物	オオヨドカワゴロモ（レプリカ）1点・オオヨドカワゴロモ（拡大模型）1点	小林市教育委員会	令和3年1月29日 ～2月5日	小林市立三松小学校での出前授業で使用
	化石レプリカ標本（人類化石頭骨）	日向市立美々津中学校	令和2年5月25日 ～6月1日	授業で教材として使用
地質	岩石標本7種セット、教材用化石標本50個セット	宮崎国際大学	令和2年6月14日 ～6月28日	講義において教材研究に使用
	教材用化石標本50個セット（3セット）	宮崎市立住吉中学校	令和3年1月29日 ～2月5日	授業で教材として使用
	下北方13号墳出土形象埴輪計4点	宮崎県立西都原考古博物館	令和2年9月6日 ～9月30日	コレクションギャラリー展「みやざき埴輪ものがたり②」での展示

考古	母子手帳【昭和23年宮崎県発行】	個人	令和2年8月5日～	予防接種状況を確認するため
歴史	小村寿太郎関係資料	松山市坂の上の雲ミュージアム	令和2年2月上旬～令和3年3月上旬	第14回企画展テーマ展示「『坂の上の雲』のひとびと」において展示
	日向高橋秋月氏所領図（慶長日向国絵図）ポジフィルム	延岡市 内藤記念館	令和2年8月27日～12月25日	延岡市における新施設の展示の充実を図るため
	『北諸県郡石器時代地名表』	都城市教育委員会	令和2年10月15日～令和3年4月23日	都城市歴史資料館令和2年度企画展「都城の歴史と人物—明治・大正・昭和の歩み」において展示するため
	森永家資料『當用日記』自昭和十年至昭和十四年	個人	令和2年12月23日～令和3年3月31日	活字におこすため

イ 資料の館内利用

計9件

	資料名	点数
地質	ティラノサウルス他、恐竜類化石資料	1件
考古	持田24号墳出土鏡	1件
	曾井遺跡出土貨泉、青磁・白磁3点 計4点	1件
歴史	日講上人肖像画	1件
	奈良時代 西都市立妻北小学校出土木簡	1点
	奈良時代 平城宮跡出土木簡複製「日向国牛皮四枚」 奈良国立文化財研究所像	1点
	刀「表銘：日州古屋之住国廣 裏銘：天正五年十月吉日」	1件
	橋通りスケッチ『昭和絵巻—橋通から江平町—』	1点
	田辺家資料	1件

ウ 貸出した写真データが展示・出版物等に掲載・放映された資料

計20件

	資料名	出版社・機関
植物	ガイドブック「どんぐりとまつぼっくり」掲載写真データ	「宮崎県ひなもり台県民ふれあいの森・森林環境教育プログラム」におけるパンフレット等に掲載
地質	えびの市小牧産ナウマンゾウ下顎骨 五ヶ瀬町産アンモナイト	株式会社日本標準『宮崎県版理科テスト』付属プリントに掲載
	ティラノサウルス全身骨格 エオラプトル全身骨格 プロトケラトプス全身骨格	学研プラス『ティラノサウルス骨格ミュージアム』小冊子に掲載
	2011年新燃岳噴火記録映像	令和3年度宮崎県立図書館特別展「生命を守る ～語り継がれる災禍の記憶～」にて展示

歴史	『蒙古襲来絵詞（楽翁本）』	オフィスワイズメイツ合同会社『社会科テスト6年生』改訂版に掲載
	博物館外観、歴史展示室、日州古屋之住国廣（刀）	株式会社ホビージャパン『刀剣画報』に掲載
	歴史展示室、民家園、日州古屋之住国廣（刀）	株式会社ホビージャパン『刀剣聖地巡礼ガイド 西国かなた旅』に掲載
	西郷札、西南戦争錦絵「暴徒延岡籠城之図」「高千穂籠山」	宮崎日日新聞連載「令和風土記」第5部に掲載
	『西南戦闘日記』	西南戦争の研究に使用
	木造阿弥陀如来坐像（一軀）	宮崎駅前商店街振興組合主催の第三回あみだ祭りにおいて、チラシ・解説パネル等に使用
	地券（宮崎県発行）	株式会社日本標準『社会科資料集6年』に掲載
	地券（鹿児島県発行）	中央出版株式会社『ナビスタ！社会』に掲載
	『三国割拠図』画像データ「大永六年地図」「天正十四年地図」	第36回国民文化祭・第20回全国障害者芸術・文化祭の串間市実行委員会が主催する分野別フェスティバル事業「南浦文之とそれに関わる高僧・櫛間院龍源寺の国際フォーラム」において使用
	西都市立妻北小学校跡出土木簡	木簡学会会誌『木簡研究』の電子化およびインターネット公開
	「明治10年代の橋橋」	宮崎のお宝第3弾『懐かしき宮崎の橋』{小戸之橋、高松橋、橋橋（明治時代からさようなら橋橋、現在の橋橋）}に掲載
	短刀「表銘：旅泊七十五」、刀「表銘：日州之住実忠 裏銘：永禄三年二月吉日」	デアゴスティーニ社『週刊日本刀』94号に掲載
	松浦家文書「御論山之覚弓削次郎左衛門覚書」	三股町教育委員会『三股町の歴史と文化財』に掲載
	漫遊植物図譜、賀来飛霞先生写生之図、魚類写生図 日向アイカキ	大分県立先哲史料館の刊行事業『大分県先哲叢書賀来飛霞資料集』に掲載
	「黒木親慶文書」	宮崎県立図書館事業「黒木親慶文書」マイクロフィルムの電子化のため
その他	博物館外観	株式会社JTBパブリッシング『フィジカルディスタンスを保って楽しく歩こう！糖尿病患者さんの日本の歩き方』に掲載

⑤ 本館が資料を借用又は展覧会・調査研究等で協力を得た関係機関（順不同） 計 39 機関

< 県外 >

群馬県立自然史博物館、茨城県自然博物館、千葉県立中央博物館、国立科学博物館、名古屋大学博物館、熊本博物館、天草市立御所浦白亜紀資料館、鹿児島大学、霧島ジオパーク推進連絡協議会、日本自然科学写真協会

< 県内 >

県中部農林振興局、県オールみやざき営業課、県中山間地域施策課、県文化振興課、県工業技術センター、県立美術館、県埋蔵文化財センター、県立五ヶ瀬中等教育学校、県立延岡高等学校、

県立日向高等学校、県立都農高等学校、県立高鍋農業高等学校、県立宮崎北高等学校、県立宮崎大宮高等学校、県立宮崎南高等学校、県立都城泉ヶ丘高等学校、県立都城西高等学校、県立飯野高等学校、宮崎大学農学部、宮崎県総合博物館友の会、宮崎地質研究会、宮崎化石研友会、門川町観光協会、椎葉民俗芸能博物館、えびの市歴史民俗資料館、西都市歴史民俗資料館、西米良村歴史民俗資料館、高千穂町コミュニティセンター、若山牧水記念文学館

⑥ 宮崎大学との連携

宮崎大学地域創成学部は、「地域探究実習Ⅰ」のカリキュラムにおいて「令和時代の地域課題と市街地及び農村部・山間部の地域資源を活用したまちづくり」を実習テーマに掲げ、総合博物館で宮崎県の自然と歴史を学ぶ講義と見学を計画した。

当初は、学生が博物館に来館し、講義と館内の見学をする予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本館職員が宮崎大学に出向いて、リモートでの講義を行った。また、施設見学については中止となった。リモート講演は、令和3年1月8日（金）に博物館概論と宮崎県の自然史について講義を行い、同1月14日（木）に宮崎県の歴史と民俗について講義を行った。

(7) 福祉施設との連携

本館を利用する児童・生徒、高齢者、障がい者の福祉施設は、近年増加傾向にあり、令和2年度は延べ42団体・施設、335名が来館された。

このうち、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に、平成27年度から展示解説員がコーディネーター役となり、博物館にある「昔の道具」「おもちゃ」「映像」等を用いて、子どもの頃や若い頃に経験したことを楽しみながら語っていただくことによって脳を活性化させ、心を元気にする「博物館で思い出を語ろう！」事業（地域回想法を行っている。令和2年度は対象団体を公募し、計21回実施した(テーマ地域回想法:健幸くらぶ万智5回、祇園デイサービス16回、コース地域回想法:ふれあいの里1回)

さらに、福祉施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」などをパッケージにした「貸出しキット」を用意しており、令和2年度は2施設4回の利用があった。



テーマ地域回想法の様子



コース地域回想法の様子

(8) レファレンス対応

日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも何にでも相談にのれる博物館」を目指し、来館時の質問はもとより、電話やメールでのレファレンス対応に努めている。

令和2年度のレファレンス件数は664件であった。

① 問い合わせ件数

(単位:件)

	自然史			歴史			その他	合計
	動物	植物	地質	考古	歴史	民俗		
一般	96	112	59	1	68	88	13	437
学校	2	0	6	0	0	3	6	17
博物館等施設	3	0	0	0	9	3	5	20
マスコミ	34	14	14	0	42	25	21	150
公共機関	2	2	2	0	10	10	8	34
その他	0	0	3	0	0	1	2	6
合計	137	128	84	1	129	130	55	664

*1 その他は、主に館の沿革や館全体に関すること

*2 その他は、NPO法人等からの問合せ

② 問い合わせ内容

(単位:件)

	自然史			歴史			その他	合計
	動物	植物	地質	考古	歴史	民俗		
部門に関すること	123	126	69	1	107	62	3	491
展示会	3	1	3	0	13	57	23	100

講座	2	0	7	0	3	3	0	15
イベント	6	0	3	0	3	5	6	23
その他	3	1	2	0	3	3	23	35
合計	137	128	84	1	129	130	55	664

* 1 その他は、主に館の沿革や館全体に関すること

* 2 その他は、館の施設利用や撮影許可等の問合せ。

(9) 博物館友の会の活動支援

博物館友の会は、会員が自ら積極的に本県の自然や歴史を学ぶことによって自らの教養を豊かなものにするとともに、博物館が今後さらに充実発展することを願って、その活動を支援することを目的として、平成11年8月に設立された。令和2年の活動報告は以下のとおりである。

- ① 会員 個人会員 32 会員 家族会員 2 会員 賛助会員 1 団体
- ② 役員 会長 斎藤正美 副会長 八木真紀子
 理事 黒葛原由美 中島沙於史 下西美和 松本美津 辛島育代
 幹事 末吉豊文

③ 友の会事業

実施日	行事	参加者人数
5月17日(日)	南郷町大島探訪	中止
5月23日(土)	S S P 展開会式・ガイドツアー	中止
6月27日(土)	学芸員講座：市民の森のきのこ観察会	16名
7月4日(土)	役員会	中止
7月22日(水)	モンスター水族館開会式	中止
8月8日(土)	佐土原人形絵付け体験	中止
9月19日(土)	西都・児湯の天然記念物探訪	8名
10月3日(土)	役員会	5名
10月16日(金)	神楽展開会式	2名
10月17日(土)	秋の加江田溪谷散策	雨天中止
10月25日(日)	学習会：宮崎の神楽	7名
2月	はくとも写真展	中止
3月13日(土)	総会	6名

④ 博物館支援活動

「大地のつくりを観察しよう」(10/8、1名)、「西都原古墳群の観察(11/22、1名)」、「見立溪谷の秋の紅葉観察会」(11/15、2名)、「佐土原人形絵付け体験」(12/5、1名)

※コロナ感染症予防のため、本年度の活動は自粛しながら開催及び中止した。

刊行物

○会報「むーちゃんだより」104号～107号の発行

活動の様子



キノコ観察会



神楽展学習会



西都・児湯地区の歴史、天然記念物探訪

(10) 研修室の利用

本館には3つの研修室があり、主に本館の諸活動で使用しているが、外部団体から利用依頼があった場合、下記の利用条件を満たしていれば、本館活動に支障を来さない範囲で貸出しに応じている。

① 研修室の定員・設備等

室名	用途	定員	利用可能な機器類
研修室 1	会議室	60 人	放送設備、プロジェクター、スクリーン等
研修室 2	実験室	30 人	顕微鏡、実験道具等
研修室 3	会議室	15 人	なし

② 外部団体の利用条件

本館の研修室は、以下のいずれかに該当する場合に外部団体等の利用に供している。

ア 博物館事業に協力が期待できる団体が、会議・研修会等に利用する場合で、博物館が共催し、又は支援するもの

イ 県の機関が、会議・研修会等に利用する場合で、学校教育又は社会教育の充実に資すると考えられるもの

ウ 博物館活動に支障のない範囲内で博物館教育普及活動の充実に資すると館長が特に認めたもの

③ 令和 2 年度の外部団体等の利用状況

計 24 件 559 人

件数	期日	時間	団体名等	利用者数 (人)	会場
1	5月20日	9:30～12:00	第35回国民文化祭宮崎県実行委員会 第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会	20	研修室 1
2	6月20日	9:00～16:00	宮崎植物研究会	15	研修室 1
3	7月10日	12:30～16:30	宮崎県中学校教育研究会理科部会	20	研修室 1
4	7月12日	13:00～16:30	宮崎民俗学会	15	研修室 1
5	7月31日	11:00～17:00	宮崎県教育庁文化財課	20	研修室 1
6	8月2日	13:00～16:00	宮崎民俗学会	5	研修室 3
7	8月6日	11:00～16:30	宮崎県教育庁文化財課	20	研修室 1
8	8月28日	9:00～17:00	九州産業大学「博物館マゼンタ人材育成事業」実行委員会	30	研修室 1
9	10月4日	13:30～16:30	宮崎民俗学会	10	研修室 2
10	10月15日	11:00～17:00	宮崎県教育庁文化財課	20	研修室 1
11	10月28日	13:00～17:00	宮崎県教育庁文化財課	20	研修室 1
12	10月28日	14:00～15:30	宮崎県県土整備部営繕課	30	研修室 2
13	10月29日	9:00～12:00	宮崎県教育庁文化財課	20	研修室 1
14	11月8日	9:00～15:00	宮崎大学学芸員養成課程	20	研修室 1
15	11月15日	13:00～16:00	宮崎民俗学会	15	研修室 2
16	11月16日	12:30～16:45	宮崎県教育研修センター	58	研修室 1
17	11月30日	9:00～11:00	延岡市立土々呂小学校	61	研修室 1
18	12月4日	13:30～17:00	宮崎県音楽教育研究会	30	研修室 1
19	12月11日	14:00～15:45	宮崎県教育庁義務教育課	40	研修室 1
20	12月20日	9:00～11:00	宮崎大学学芸員養成課程	20	研修室 1
21	2月25日	13:30～17:00	宮崎県音楽教育研究会	20	研修室 1
22	2月26日	13:00～16:30	宮崎県中学校教育研究会理科部会	20	研修室 1
23	2月27日	9:00～12:00	宮崎植物研究会	10	研修室 2
24	3月14日	9:00～16:30	宮崎植物研究会	20	研修室 1

(11) 情報室の利用

① 目的

「みんなの情報室」には国内の主な博物館の図録や6部門の関係書籍の他、DVDを利用できるスペースや資料に直接触れたりすることができる標本など、体験できる資料が設置されている。

また、未就学児を含む親子などが楽しみながら学べるスペースとして、「むーちゃん広場」が情報室内に設置してある。



③ 蔵書等

49,990 冊

④ むーちゃん広場の運用拡大

親子で楽しむ「むーちゃん広場」は令和元年度 11 月から情報室内の机等の配置を一部変更し運用を始めた。展示資料を理解できるようなぬりえや折り紙、また、クイズや簡単パズルなどを配置し、親子での読み聞かせができるような絵本を設置した。

開始当初は、平日のみであったが、令和2年 12 月より、土・日・祝日の運用を始め、多くの利用者で賑わった。令和2年度の利用者は509組、子ども785名、保護者670名、計1,455名の利用があった。

5 開館50周年記念事業

(1) プレイベント

① 50周年のプレイベントは、解説員のアイデアから3つに絞り、記念式典3ヶ月前から取り組んだ。

ア イベント名 「スタンプ集めてバッチをゲット」

開催期間 令和2年11月7日（日）～令和3年3月7日（日）

内 容 博物館に来館し、カードにスタンプを3つ集めたら缶バッチをもらえるイベント。

参加者 2,099名（カード配布枚数）

イ イベント名 みやはく検定

開催期間 令和2年12月6日（日）～令和3年3月7日（日）

内 容 博物館の展示内容などを中心とした問題を作成し、3級からクリアしたら1級まで取り組む検定。

参加者 415名

ウ イベント名 博物館大きな花を咲かせよう

開催期間 令和2年12月6日（日）～令和3年3月7日（日）

内 容 来館者がさくらカードに博物館のこれまでの思い出を書き込み、サクラの木に見立てた模造紙に貼り、満開にする取組。

(2) 民家園みやはく50感謝祭

実施日時：令和3年3月6日（土）午後10時～午後3時

会 場：民家園

参加者数：609名

内 容

- ・旧藤田家住宅：昔のくらし体験（民家園ボランティア19名）
- ・旧黒木家住宅：昔の遊び体験及び紙芝居（展示解説員2名）
- ・米良の民家：みやざきの民謡公演（村上三絃道4名、宮崎民俗学会名誉会長：原田解氏）、琴演奏（箏曲生田流和奏会2名）
- ・椎葉の民家：みやざきの昔話公演（民家園語りの会8名、神話語り部の会3名）
椎葉神楽公演（大河内神楽保存会12名）

天候にも恵まれ、菜の花が咲きほころぶ中ですべての催しを実施することができた。午前・午後を通じて多くの参加があり、民謡公演や神楽公演は立ち見が出るほどの賑わいで、昔のくらしや遊び体験も親子連れが多く参加した。また、コロナの感染拡大防止のため、昔のくらしや遊びなど体験活動については手指消毒、民謡・昔話・紙芝居・神楽・琴については演者と観客とのソーシャルディスタンスを保って実施した。



昔のくらし体験の様子

(3) 記念講演会

① 記念講演会「球状コンクリーションの謎にせまる」

日時 令和3年3月6日（土）

午後1時30分～午後3時

会場 博物館2階特別展示室

講師 名古屋大学博物館長 吉田英一 教授

延岡市出身の吉田英一教授に球状コンクリーションについて講演いただいた。球状コンクリーションは火星



リモートによる講演の様子

でも確認されることや、その形成過程が、地下埋蔵施設に応用できるなど、参加者が深く興味をもてる内容であった。講演会は、4月に実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況から延期し、記念講演会として実施した。講師が来館を予定していたが、感染拡大状況により、名古屋大学博物館からのリモートとなった。講演会は、名古屋大学博物館との相互連携事業として実施した。

(4) 記念式典

実施日時：令和2年3月7日（日）午後1時30分～午後2時10分

会場：特別展示室 参加者数：60名

来賓：県議会議長、文教警察企業常任委員会委員長、宮崎県博物館協議会副会長及び宮崎神宮宮司

主催者：知事、教育長、総合博物館長

招待者：宮崎県博物館協議会委員、県立文化施設館長、歴代館長等

知事による主催者挨拶、県議会議長祝辞、「博物館友の会」「民家園ボランティア」「民家園語りの会」の三団体への感謝状贈呈、50周年のあゆみの映像などを行った。式典の後、三団体を囲んで記念撮影を実施した。



講演の様子

(5) 招待演奏

実施日時：令和2年3月7日（日）

午後2時20分～午後2時50分

会場：特別展示室

参加者数：46名

内容：ハープ奏者の会「リラの会」の3名の小・中学生によるハープ演奏会を実施し、素敵なハープのアンサンブル演奏を楽しんでいた。



招待演奏の様子

(6) 前庭イベント

①実施日時：令和3年3月6日（土）

午前10時～午後1時

会場：博物館本館前庭

内容：宮崎海洋高校生徒による缶詰販売

② 実施日時：令和3年3月7日（日）

午前10時～午後4時

会場：博物館本館軒下

参加人数：323名

内容：色えんぴつやお守りづくりなどの体験活動



色えんぴつづくりの様子

(7) その他イベント

実施日時：令和3年3月7日（日）

午後3時～午後4時

会場：博物館2階特別展示室

内容：あらかじめ整理券を配布し、イベント参加者による博物館に関するクイズで○×クイズを行ったり、博物館の展示に関するビンゴゲームを行った。



イベントの様子

IV 情報発信及び経営

1 情報発信

県内外の方々が、本館に興味を持ち気軽に訪問していただくとともに、本館を訪れる際に十分に満足してもらうため、施設の運営状況や活動状況等に関する情報発信を様々な方法で行っている。

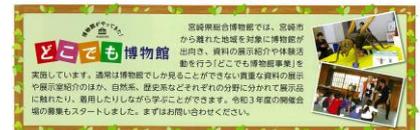
(1) 広報推進委員会

「宮崎県総合博物館広報戦略」に基づく館の広報と集客増に向けた取組みを推進するため、専門主幹（広報委員長）、総務担当リーダー、学芸担当リーダー、普及担当リーダー、普及担当職員（1名）、展示解説員（3名）で「広報推進委員会」を組織している。令和2年度は年12回会議を開催し、協議を行った。

(2) 博物館だより「森の通信」の発行（年2回）

① 第68号 発行：2020年6月15日

- SNSの広報・どこでも博物館紹介
- 講座紹介「西都原古墳群の終末期古墳を中から観察しよう」 【考古部門】
- 宮崎の歴史情報「牛の峠論山」 【歴史部門】
- 自然史展示室紹介「球状炭酸塩コンクリーション」 【地質部門】
- 収蔵資料紹介「薬研」 【民俗部門】
- 博物館への問合せ「堤防で見かけた赤い花は何ですか？」 【植物部門】
- 「博物館講座」案内
- 展示解説員の声「サンゴの海」



② 第69号 発行：2020年9月7日

- 特別展「みやぎきの神楽—神々への感謝と祈り—」案内 【民俗部門】
- 講座紹介「丹助岳に登って環状岩脈を観察しよう」 【地質部門】
- 宮崎の歴史情報「小丸川下流域の焼失住居は考古情報の宝庫」 【考古部門】
- 自然史展示紹介「ミツバツツジ類」 【植物部門】
- 収蔵資料紹介「オオサンショウウオ」 【動物部門】
- 博物館への問い合わせ「昔、本当に鬼はいたんですか」 【民俗部門】
- 「博物館講座」案内
- 展示解説員の声「むーちゃん広場」



③「博物館わくわく通信」の発行

総合博物館の資料や活動などを紹介する「博物館わくわく通信」（年2回発行）は、展示解説員が作成を担当しており、4月と10月に発行した。幅広い方々に楽しめるように分かりやすい表記を心がけている。また、館内での掲示も行い、周知に努めている。

(3) ホームページ等による情報発信運用

本館のホームページでは、施設や利用案内などの基本情報のほか、展覧会や講座などの行事案内、広報紙「森の通信」を掲載するなど、本館の様々な情報を伝える手段として多くの方々に利用していただいている。

令和2年度は、新着情報の掲載を中心に平均月37.6回（年451回）の更新を行うとともに、SNSでは、Facebookが145件、Twitterが139件、Instagramが114件の投稿を行った。令和2年度のホームページのアクセス数は年間1,132,039件となった。

また、令和元年度には、エントランスホール及び情報室にフリーWi-Fiを整備し、利用者の利便性向上や情報発信機能の強化を図った。

(4) 博物館カレンダーの作成

本館では、年度当初に「はくぶつかんカレンダー」という名称で、常設展示室及び民家園の施設概要と各種イベント、年間の行事等を取りまとめたパンフレットを作成し、学校や関係機関等に配布している。

【表】



【裏】



(5) 県広報紙等への掲載

本館が実施する特別展や講座、その他の催しなどについて、県の広報媒体を利用した広報を行ったほか、報道機関に情報を提供する報道処理や報道機関からの求めに応じて情報提供を行い、新聞やテレビ・ラジオ、情報誌等を通じた広報活動を行った。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、以前から広報していた特別展や講座、その他催しなどが中止となり、広報内容の変更を行った。

令和2年度の報道処理件数は、66件であり、報道処理等によりマスコミが報道した件数は、262件であった。

① 県広報媒体による広報

ア 県政けいじばん（毎月第2第4終末）

掲載日	内 容
令和2年4月第2週	展示「出陣！よろい武者（戦国武将）の世界」
5月第2週	特別展「第40回SSP展」
6月第2週	みやざきの昔話公演
6月第4週	みやざきの昔話公演
10月第2週	特別展「みやざきの神楽～神々への感謝と祈り～」
12月第4週	講座「大淀川下流域の考古学～弥生時代のムラと墓～」
令和3年2月第2週	「みやはく 開館50周年感謝祭」
2月第4週	民家園の催し「火入れ」
3月第2週	展示「みやはく 開館50周年」
3月第4週	講座「春の野の花観察会」

イ 県広報紙「県広報みやざき」

掲載日	内 容
令和2年 6月号	特別展「第40回SSP展」
8月号	みやざきの昔話講演
10月号	講座「自然の色で染めてみよう」
12月号	紙芝居のご案内
令和3年 2月号	みやざきの昔話公演
4月号	講座「見つけよう！海のお宝がら」、講座「よろい・かぶと着用体験」

ウ 県広報番組

- 県広報番組（広報戦略室）：MRTラジオ「おはよう県庁です」
- 県教育委員会広報番組（教育庁総務課）：MRTテレビ「みらい みやざき まなび隊」
UMKテレビ「のびよ！みやざきっ子」

② 新聞への掲載

ア 展示に関する掲載

- 「第40回SSP展」（日本自然科学写真協会写真展）5/21～6/28
 - <告知> 宮崎日日新聞
 - <記事> カラフトワシ飛来も活写 毎日新聞
自然の美しさ切り取る 読売新聞
動植物や自然の魅力写す 読売新聞

自然を楽しむ写真 150 点展示 朝日新聞
自然を撮影した写真展 夕刊デイリー
写真愛好家ら撮影こつ学ぶ 宮崎日日新聞

- 「モンスター水族館」 7/23～8/30
＜告知＞ 開催中止決定 宮崎日日新聞
- 「記念物 100 年～守り引き継ぐために～」 10/19～12/8
＜告知＞ 夕刊デイリー、宮崎日日新聞
＜記事＞ ミサキウマなど「記念物百年展」 毎日新聞
史跡や名勝記念物展 読売新聞
- 「みやぎきの神楽～神々への感謝と祈り」 10/17～11/29
＜告知＞ 宮崎日日新聞、夕刊デイリー
＜記事＞ さきがけプログラム始動 宮崎日日新聞
特別支援プログラム 面や衣装一堂 宮崎日日新聞
県内に 200 伝統の神楽紹介 朝日新聞
舞い場再現 毎日新聞
「みやぎきの神楽」開催中 夕刊デイリー
「神楽展」来場 1 万人超 朝日新聞
神楽面（三方荒神面） 宮崎日日新聞
伝承のために 神新聞報
特別展「みやぎきの神楽」 夕刊デイリー
子ども神楽を披露 夕刊デイリー
- 「絶滅モンスター展 2021～恐竜 VS ほ乳類」 7/10～9/5
＜告知＞ 宮崎日日新聞

イ 講座に関する掲載

- 集めよう！海のお宝貝がら 4/25 <募集> 宮崎日日新聞
- 無人島お掃除大作戦！ 5/16 <募集> 夕刊デイリー
- 宮崎の歴史を学ぶ 1 6/13 <募集> 宮崎日日新聞
＜記事＞中世の日向国を宮大教授が解説 読売新聞
- 青島の光るきのご観察会 7/25 <募集> 宮崎日日新聞
- 夏休みの自由研究 押し葉標本をつくろう①8/1 <募集> 宮崎日日新聞、読売新聞
- 化石レプリカをつくろう！ 8/2 <募集> 宮崎日日新聞
- チリメンモンスターを探そう！ 8/3 <募集> 宮崎日日新聞
- 化石から知る生物の栄枯盛衰 10/11 <募集> 読売新聞、宮崎日日新聞
- 大地のつくりを観察しよう 10/18 <募集> 宮崎日日新聞、夕刊デイリー
＜記事＞地球変動でできた素晴らしい自然 夕刊デイリー
- 自然の色で染めてみよう 10/25 <募集> 夕刊デイリー
- みやぎきの神楽を学ぼう 11/7 <募集> 読売新聞
- 見立溪谷の秋の紅葉観察会 11/15 <募集> 宮崎日日新聞
- 火山灰の地層を観察しよう 11/29 <募集> 宮崎日日新聞、夕刊デイリー
- 調べよう！鳥の飛ぶしくみ 12/6 <募集> 夕刊デイリー
- 火山灰の粒を観察しよう 12/12 <募集> 宮崎日日新聞
- 大淀川下流域の考古学 1/17 <募集> 宮崎日日新聞
＜中止＞ 夕刊デイリー

- 森を守る「ササラダニ」を観察しよう 2/13 <募集>宮崎日日新聞、朝日新聞
<記事>森を守るダニ 毎日新聞
- 球状コンクリーションの謎にせまる 3/6 <募集> 夕刊デイリー

ウ その他のイベントに関する掲載（コラム等）

- 美術館だより 宮崎日日新聞（通年）
- Art Information 宮崎日日新聞（通年）
- よろいかぶと間近に一宮崎城主・権藤種盛や信玄、信長― 宮崎日日新聞
- くろしお 戦国武将4人のよろい、かぶと展示 宮崎日日新聞
- 「戦国武将の世界」展 夕刊デイリー
- 春の佐土原人形力強く 宮崎日日新聞
- 休館施設の動画で楽しく 読売新聞
- 精緻で華麗な文様 夕刊デイリー
- 動画や塗り絵楽しんで「おうちでみやはく」解説 夕刊デイリー
- 光るキノコ 写真や標本 読売新聞
- 発光キノコ9種展示 毎日新聞
- 歩廊 一見の価値あり（光るキノコ） 宮崎日日新聞
- 伝統工芸の佐土原人形展示 毎日新聞
- 名工の技光る 剣の鐔を展示 朝日新聞
- 歩廊 夏休みに学んでー。 宮崎日日新聞
- 上野小中学校で出張イベント 宮崎日日新聞
- 肉食恐竜の頭大きい 読売新聞
- 歩廊 外国人に茶道体験講座 宮崎日日新聞
- 歩廊 驚きの声が続々ー。 宮崎日日新聞
- 希少な「雌雄モザイク」 読売新聞
- 突然変異のクワガタ展示 朝日新聞
- 海のマイクロプラ生物への影響知って 朝日新聞
- 歩廊 植物の不思議な生態を学ぶ講座 宮崎日日新聞
- 佐々木恒春さん手がけた鐔紹介 読売新聞
- 宮崎県が国勢調査PR番組ロケ 毎日新聞
- 古民家使ってみませんか 朝日新聞
- 民家園でレコードコンサート 夕刊デイリー、宮崎日日新聞
- 歩廊 博物館入り口に村所神楽、本注連が登場 宮崎日日新聞
- 歩廊 神話や伝統に親しんでー。 宮崎日日新聞
- 卓上蓄音機5日から展示 夕刊デイリー
- 「音の日」思い蓄音機 朝日新聞
- 歩廊 不思議な生物ー。 宮崎日日新聞
- ウミユリの化石標本 読売新聞
- 魅力をつなぐ神楽の特別展 宮崎日日新聞
- 歩廊 どのキャラクターがお気に入り？ 宮崎日日新聞
- ウミユリの化石を展示中 夕刊デイリー
- 1930年代の蓄音機展示 読売新聞
- 希少なタイプの卓上蓄音機展示 毎日新聞
- 歩廊 神宮の森の住人 宮崎日日新聞
- ツリー装飾 博物館彩る 読売新聞

- 歩廊 宮崎に詳しくなりますー。 宮崎日日新聞
- 歩廊 貴重な品ですー。 宮崎日日新聞
- クリスマス告げる調べ 読売新聞
- ウシづくし展 標本など 35 点 毎日新聞
- 歩廊 主演の登場 宮崎日日新聞
- 歩廊 本県に初めて登場した白黒テレビ 宮崎日日新聞
- 佐土原人形のおひな様 春告げる 朝日新聞
- 宮崎で初使用の白黒テレビ展示 毎日新聞
- 歩廊 異文化を楽しんでー。 宮崎日日新聞
- ひな人形 124 体ずらり 読売新聞
- 県総合博物館「みやはく開館 50 周年感謝祭」 宮崎日日新聞
- 華やかなひな人形 ずらり 9 点 朝日新聞
- 歩廊 名付けて「動物たちのぺあ事情」 宮崎日日新聞
- おぼこびなど展示中 夕刊デイリー
- 県内初使用の白黒テレビ 読売新聞
- 県総合博物館 50 周年感謝祭 宮崎日日新聞
- 社説 県総合博物館 50 周年 豊かな文化再発見する機に 宮崎日日新聞
- 県総合博物館 50 周年感謝祭 昔の生活体験や館内ツアー人気 宮崎日日新聞
- 50 周年記念し神楽 読売新聞
- 県総合博物館 50 周年で催し 神楽や昔のくらしを体験 朝日新聞
- 収蔵庫など「体験ツアー」宮崎県総合博物館親子ら 20 人参加 毎日新聞
- 文化財を守ろう 民家園で消防訓練 毎日新聞

③ テレビ・ラジオによる放送

○ MRTテレビ「ニュースNext」	○ MRTラジオ「GOGOワイド」
○ MRTラジオ「おはよう県庁です」	○ MRTラジオ「エ・コ・コロ カフェ」
○ MRTラジオ「スクーパー」	○ UMKテレビ「スーパーニュース」
○ MCNケーブルテレビ「週刊マックン情報局」	

④ 定期刊行物・情報誌への掲載

- 日本博物館協会 機関誌「博物館研究」（毎月掲載）
- 全国科学博物館協議会「全科協NEWS」
- 令和元年度宮崎県総合博物館年報 第 49 号
- 宮崎市教育委員会 情報誌「わくわくランド」（夏、冬発行）
- 宮崎日日新聞社「きゅんと」 ○ 鉦脈社「タウンみやざき」
- パームス企画「パームス」
- 宮崎の子育て応援フリーマガジン「Withplus」
- 鉦脈社「じゅぴあ」

⑤ Web メディアによる広報

- BIGLOBE 旅行
- Walkerplus (KADOKAWA)
- J:COM ZAQ おでかけガイド
- CableGate (アプリ)
- Yahoo!ロコ (地域情報)
- ドコモ i コンシェル
- J:COM インタラク TV
- 大東建託 進化する暮らし
- 日本旅行
- ニコンすぽっとサーチ
- ダイワロイネットホテルズ
- お出かけお天気

- goo 地図
- おでかけ情報サイト「いこーよ」
- Jolte (ジオルテ)
- Japan Travel Guide
- 旬ナビ
- じゃらん net
- AMIPLE (アミプル)
- シュミカツ!
- BIG X COONNECT (アルパイン)
- Trip Advisor
- トリップアドバイザー
- 宮崎市観光サイト
- トラベルバリュー
- ゆこゆこネット
- SmartNews
- ディスカバー宮崎
- まいぷれ宮崎

⑥ 本館の刊行物

- 宮崎県総合博物館研究紀要 第 41 輯
- 博物館だより「森の通信」 第 68、69 号
- 2020 年 みやはくカレンダー

(6) その他の広報及びイベント

① 4 館見学ツアー

平成 25 年度から実施している県立美術館、県立図書館及び県総合博物館による「3 館見学ツアー」に、平成 28 年度から新たに県立芸術劇場を加えた 4 館が連携して、「4 館見学ツアー」をスタートさせた。この見学ツアーは、見学者が本館に申込を行うことにより 4 館を一度に見学することが可能で、本県の芸術・文化・歴史等の魅力を総合的に観覧することができ、令和 2 年度は、次の 2 団体 181 人の利用があった。

実施日	団体名	参加人員 (人)	内訳 (人)			
			美術館	図書館	博物館	芸術劇場
7 月 26 日(日)	宮崎大学教育学部	30	30		30	30
10 月 23 日(金)	宮崎市立東大宮小学校	151	151	151	151	151
計 (2 団体)		181	181	151	181	181

② 県庁職員の情報ネットワークを活用したイベント情報等の発信

県庁職員の情報ネットワークに「全庁掲示板」があり、ネットワークに繋がっている知事部局及び教育委員会等の各職員に一斉に情報を発信することが可能である。

この「全庁掲示板」を活用して、前月末に月毎の「イベント情報」や「特別展や講座情報」等を発信した。

③ 観光関係機関等への P R

新型コロナウイルスの感染拡大により、国内や海外からの旅行客の来館が厳しい状況の、特別展「SSP展」や秋の特別展「みやざきの神楽展」、「開館 50 周年記念事業」などの広報において、宮崎市内のホテルや観光案内所などの観光関係機関、国際交流関係機関、文化団体、館周辺の飲食店などを訪問し、ポスター・チラシなどを配布・説明を行った。また、今後の外国人向けサービスの向上策として、館内にある「照葉樹林ジオラマシアター」「地球シアター」「神楽シアター」に英語字幕を導入した。

④ 博物館こどもDAY

令和2年11月3日（火）の文化の日実施した。展示は1階エントランスホールにおいて、クジラの骨格標本など大型資料の展示を行った。イベントとしては特別展「宮崎の神楽」の子ども向けガイドツアー、本館周辺の植物やきのこを観察する「植物・きのこ探検!」「マイクロプラスチックでストラップをつくろう!」のほか、「文化の日クイズラリー」、解説員による「自然史展示室ガイドツアー」「紙芝居」などを実施した。なお、この日は埋蔵文化財センター施設公開も開催されたことから、総合博物館・埋蔵文化財センターの共同開催イベントとして広報し、多くの来場者が両館でのイベントを楽しむ機会となった。



博物館こどもDAY

⑤ クリスマスツリー設置

入館者数の少ない12月にクリスマスツリーを設置し、博物館ならではのオーナメント（飾り物）を装飾することで、少しでも賑わいを醸成し、入館者数に結び付けるために、今年度から本館1階エントランスホールに高さ約2.4mのクリスマスツリーを設置した。

設置期間 令和2年12月2日（水）～12月27日（日）



クリスマスツリー

⑥ クリスマスコンサート

本館1階のエントランスホールを利用して、入館者の少ない冬場にコンサートを開催することにより、普段博物館になじみのない方々にも足を運んでもらい、宮崎の自然や歴史に関心を持ってもらうために、今年度からクリスマスコンサートを開催した。

実施日：令和2年12月19日（土）

午後2時30分～午後3時

会場：1階 エントランスホール（北側）

内容：宮崎市内で活躍されているフルート奏者2人と電子ピアノ1人によるクリスマスにちなんだ曲を中心とした演奏会であった。



クリスマスコンサートの様子

2 経営

魅力のある総合博物館として適正な管理運営を行うため、来館者へのアンケート調査を行うとともに来館者の安全・安心を確保するため、職員研修や危機管理に対応する訓練等を行っている。

(1) 来館者のアンケート調査

入館者の実態や館の運営状況に対する意見を把握し、その集計結果を今後の館の運営に適正に反映させるため、平成 14 年度から入館者個人及び団体に対してアンケート調査を実施している。個人アンケートでは、1 階と 2 階でそれぞれに記入場所を設けて任意で回答をお願いし、団体アンケートでは、代表者に記入をお願いして回収するようにしている。また、個人アンケート回収数を増やすために、アンケート回収強化期間を年 4 回設定したが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により年 3 回の実施になった。

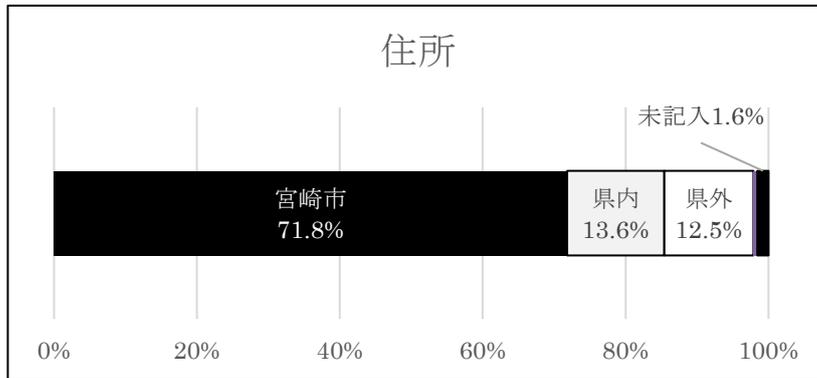
① 個人アンケート(有効回答件数 708 件)

ア 年齢・居住地について

年齢別割合は、10 代以下が 40.5%であった。昨年度より約 13%減少した。また、回答者の居住地については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により県外居住者が減少した。一方、県内居住者については、宮崎市内の居住者が 71.8%で昨年より約 14%増加した。

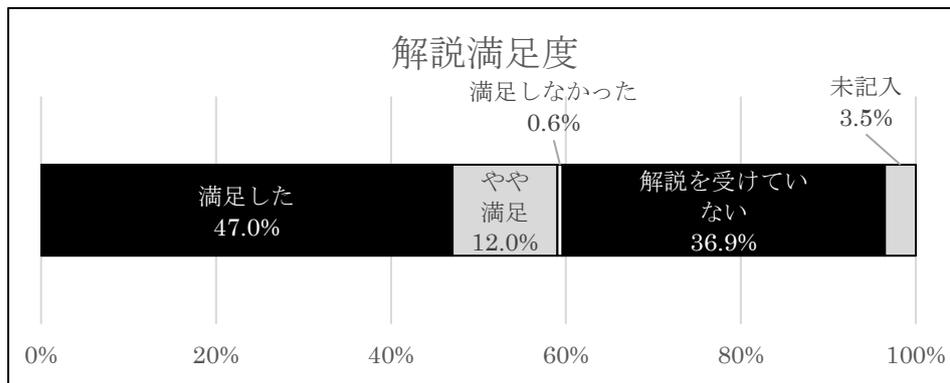
年代の内訳

9 歳以下	18.6%
10 代	21.9%
20 代	8.9%
30 代	14.4%
40 代	14.3%
50 代	6.9%
60 代以上	14.0%
未記入	1.0%



イ 展示解説員の解説について

回答者の約 63%が展示解説員の解説を受けており、ほとんどの方が「満足した」、「やや満足した」と回答している。今後も、引き続き解説サービスの周知を図り、解説を受ける方を増やすとともに、質の高い解説を目指していきたい。

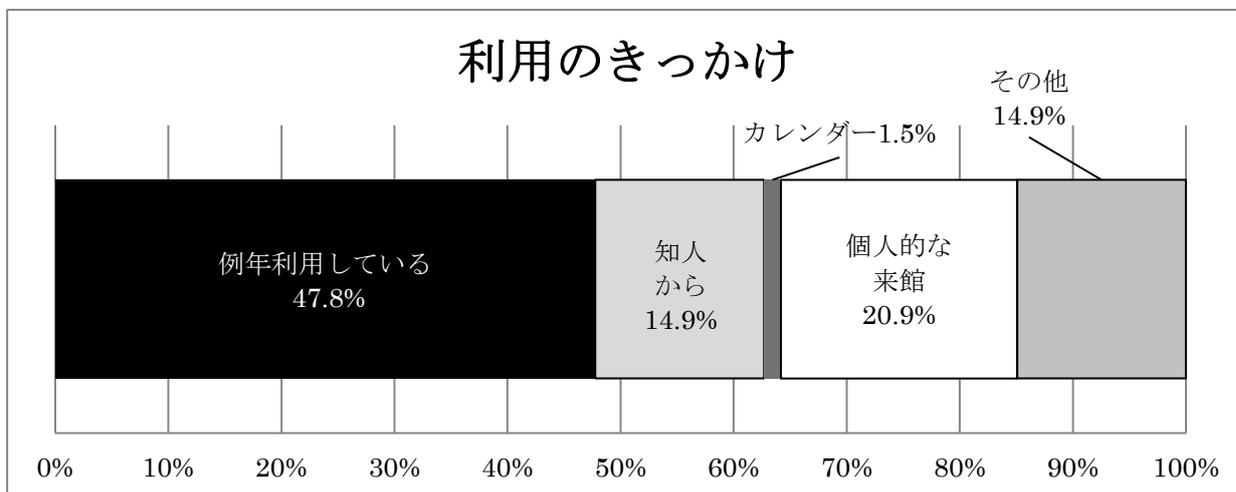


ウ 本館サービスに対する満足度について

サービス(展示資料、設備、職員の対応など)に「満足した」、「やや満足した」という回答は約 94%となり、昨年度よりも約 3%増えた。今後も、資料・設備のメンテナンス、展示解説等をしっかり行いたい。さらなる細かなニーズの把握のために、さらに満足度を高められるよう努めたい。

② 学校団体アンケート（有効回答数 64 件）

来館のきっかけは、今年度「例年利用している」が 47.8%で 1 位であり、昨年度は、58.4%で、約 11%低くなっている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年利用している学校の利用が少なかったのではないかと考える。今後も、教育活動に利用したいと思わせるように様々なサービスを提供することにより、例年利用している割合を増やしていきたい。



③ 一般団体アンケート（有効回答数 46 件）

博物館の情報の取得手段については、右表の通りで、「ホームページ」や「ポスター・チラシ」が多い。「ホームページ」に関しては、年間 451 回の更新や、SNS (Instagram, Facebook, Twitter) を利用することにより、特別展や講座の様子、季節ごとの自然や歴史に関する情報などを適宜発信して、当館の魅力を伝えている。今後も様々なツールを使って、情報を発信することで、各年代に対応していきたい。「ポスター・チラシ」は企画の趣旨に合わせて、配布場所や配布数に変化をもたせ、計画的に、県内外に配布している。

ホームページ	20.3%
ポスター・チラシ	15.2%
知人の紹介	13.9%
博物館カレンダー	10.1%
看板	10.1%
テレビ・ラジオ	5.1%
情報誌・フリーペーパー	3.8%
SNS	2.5%
新聞	2.5%
その他	16.5%

④ 特別展アンケート（有効回答数 354 件）

主催事業の 2 回の特別展では、すべてアンケートを実施した。満足度調査では、「大変良かった」「良かった」を合わせると約 94%となり、来場者には概ね好評であった。今後も意工夫を重ね、魅力ある特別展の開催に努め、満足度を高めていきたい。

特別展の満足度	
大変良かった	73.2%
良かった	21.1%
普通	3.4%
良くなかった	0%
未記入	2.3%

(2) 職員の資質向上

① 基本研修

本館は、広く県民が利用する施設であることから、来館者への適切な対応や危機などの事象管理など、博物館職員として基本的な資質が求められている。このため、全職員を対象にコンプライアンスや危機管理対応など基礎的な項目についての研修を年3回実施した。

実施日	場所	研修内容
令和2年4月14日	研修室1等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修 ・危機管理マニュアルに関する研修 ・資料保存研修（IPMウォッチングの重要性） ・消火活動体験研修
令和3年1月23日	研修室1等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修 ・人権研修 ・環境研修
令和3年3月16日	研修室1	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸課による調査研究報告会

② 県外研修等

研修会・視察等の名称	研修期間	会場	参加者
特別展に係る資料調査	令和2年 10月25日～27日	国立科学博物館筑波実験植物園、 日本冬虫夏草事務局 ほか	黒木 (秀)
九州博物館協議会 学芸員・事務職員研修会	令和2年 11月5日～6日	沖縄県立博物館・美術館、 首里城	永田
特別展に係る資料調査	令和2年 11月10日～11日	茨城県自然博物館、 千葉県立中央博物館	黒木 (秀)
資料及び展示調査	令和2年 12月17日～19日	筑波実験植物園・国立科学博物館 ・上野動物園	中山
特別展に係る調査	令和3年 2月9日～10日	中津市歴史博物館、中津城、福澤 論吉旧居、福澤記念館	平松 長津
特別展に係る調査	令和3年 2月23日～27日	新潟市立歴史博物館、和倉昭和博 物館、おもちゃ館、東映九州支社	平松 永田
宮崎県博物館等協議会 研修会	令和2年10月9日	えびの市歴史民俗資料館	黒木 野添 中山 長津
宮崎県立美術館学芸担当職 員研修	令和2年12月4日	宮崎県立美術館	中山

2020 年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」学芸員技術研修会	令和2年 8月28日	宮崎 KITEN ビル	中山
------------------------------------	------------	-------------	----

③ 展示解説員への研修

館外研修では、学芸課職員の案内で展示解説員全員が日向市を訪れ、植物、地質、民俗などの実地見学を行い、知識の習得に努めた。

また、経験年数に応じた研修として、今年度展示解説員になった職員に対しては、学芸課の職員から展示の説明を受けた後、自然史・歴史・民俗の各展示室と「昔の道具」について、マニュアルに沿った発表研修を行った。3年を経過した展示解説員は、昔の暮らしや地質、照葉樹林や湿原に関して自己学習した内容を発表する研修を行い、資質の維持向上に努めた。また、全員の取り組みとして、50周年記念事業で実施した「みやはく検定」の問題や解説集の作成を行った。



日向岬での現地研修

(3) 危機管理

本館は、広く県民が利用する施設であり、毎日多くの来館者が訪れ、また、県民の財産である貴重な資料の収蔵や民家4棟【国重要文化財(2)・県有形文化財(2)】を移築復元していることなどから、各種の危機事象に適切に対応するための「危機管理マニュアル」や「防火管理規程」を作成して、職員への防災・防火訓練を実施している。

① 防災・防火研修

年度当初の4月14日に、全職員を対象に危機管理マニュアルに基づく様々な危機事象に応じた対処方法等や放水銃の取扱に関する研修を実施した。

② 避難訓練

7月3日に日向灘南部を震源とする震度5の地震を想定した避難訓練を全職員で実施した。さらに、9月1日の「防災の日」に合わせて、同月9日に日向灘南部を震源とする震度5の地震及びそれに伴う出火を想定した避難訓練を全職員で実施した。

③ 防火訓練

3月20日に民家園の民家から火災が発生したとの想定で防災訓練を実施し、通報・消火・避難誘導等の訓練を宮崎北消防署の立会いのもと、埋蔵文化財センター分館職員・民家園ボランティアと合同で実施した。



消火器による消火活動



放水銃による消火活動



消火ホースによる消火活動



訓練終了後の講評・講話

(4) 外部運営資金の獲得

夏の特別展「モンスター水族館」での外部資金として公益財団法人日本海事科学財団の「海の学びミュージアムサポート」へ申請を行い、「海の企画展サポート」として支援を受けた。また、秋の特別展「みやざきの神楽」では独立行政法人日本芸術文化振興会に助成金申請を行い、支援を受けた。

(4) 県内にある博物館等との連携

【宮崎県博物館等協議会】

① 設立趣旨

宮崎県博物館等協議会は、県内の博物館、美術館、歴史資料館、動物園等が、共同して広報活動を行うとともに、研修会や視察等を通じて、運営上の課題やその対策の情報共有や意見交換を行うことで、会員館の機能の充実や県民の施設利用の促進を図り、本県の学術文化の進展に寄与することを目的に設立された。平成元年1月に設立された宮崎県博物館等連絡協議会を前身とし、平成13年度に会費制導入など組織体制の見直しを行った際、現在の名称に変更している。

② 会員数

令和3年3月31日現在 県内の36施設

③ 令和2年度の活動状況

ア 役員会 総会を兼ねる（新型コロナウイルスの感染拡大防止のため）

期日：令和2年6月5日（金）

会場：宮崎県総合博物館

a 議事

令和元年度の事業報告、決算報告等及び、令和2年度の事業計画、収支予算を協議し、承認を得た。また、役員の変更や会員館の入退館、ミュージアムマップの製作についても承認を得た。

イ 研修会

期日：令和2年10月9日（金）

会場：えびの市歴史民俗資料館

a 巡検・視察

- ・巡検『えびの市の遺跡・史跡』
島内地下式横穴墓群、木崎原古戦場跡、めがね橋及び享保水路太鼓橋など
- ・視察『えびの市歴史民俗資料館』
島内139号地下式横穴墓出土品展、常設展
巡検及び視察説明：中野和浩氏（同館主任技師）

b 研修・情報交換

- ・災害時の文化財保護活動の実際（他県の事例紹介）
- ・災害時相互協力の実施に向けた検討事項の説明と協議
- ・自治体との連携について（県文化財課主幹 小山博氏）



巡検の様子<島内地下式横穴墓群>

ウ 役員館の担当者会

期日：令和3年2月19日（金）

会場：宮崎県総合博物館

内容：役員（理事）館の担当者で、令和3年度の事業及び予算案の検討等を行った。

エ 機関誌の発行

『宮博協だより 日向路の博物館25号』を令和3年3月に発行した。

オ ホームページ及びSNSの運営

会員館・園の情報を掲載したホームページ (<http://miyahakukyo.starfree.jp/>) の運営、及びSNS(Facebook)により情報発信を行っている。情報は随時、更新を行った。

カ 災害時相互協力

「災害時相互協力等に関する規約」及び「災害時相互協力基金」を基に、被災文化財の緊急のレスキューに備えている。

キ ミュージアムマップの製作

2020年度版のミュージアムマップを製作し、会員館・園及び、県内各所で配布を開始した。

ク 新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応についてのアンケート実施と情報提供

会員館・園の新型コロナウイルスの感染拡大防止への取組についてアンケートを実施し、取りまとめた結果を会員館・園に情報提供した。

V 宮崎県博物館協議会

1 設置根拠

宮崎県博物館協議会条例（平成 15 年条例第 43 号）、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 20 条

2 目的

総合博物館及び西都原考古博物館の運営に関し、県民の様々な意見を幅広く活かすため、各館長の諮問に応ずるとともに、当該各館長に対して意見を述べる。

3 委員数 16 人

4 令和 2 年度の開催状況

○令和 2 年 10 月 30 日（金） 総合博物館研修室 1 において開催

- 議 題
- (1) 令和元年度総合博物館の事業報告及び評価について
 - (2) 令和元年度西都原考古博物館の事業報告及び評価について
 - (3) 令和 2 年度総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について
 - (4) その他

【委員名簿】

（任期：令和 2 年 7 月 30 日～令和 4 年 7 月 29 日）

区 分	氏 名	役 職 名 等	専 門	備 考
学校教育関係者	永 山 新 一	えびの市教育長	教育行政	
	大 重 美 貴	野の花幼稚園長	幼稚園	
	満 園 真由美	都城市立木之川内小学校長	小中学校	
	堀 田 由美子	尚学館小学校長	私立学校	
	矢 野 恭 子	県立日南くろしお支援学校長	県立学校	
社会教育関係者	山 口 和 代	県地域婦人連絡協議会 幹事	婦人団体	
家庭教育関係者	中 嶋 由 香	県 P T A 連合会 副会長	P T A	
学識経験者	川野 美奈子	県社会福祉協議会 会長	社会福祉	
	片 寄 元 道	県観光協会 専務理事	観光	
	出 口 智 久	宮崎市フェニックス自然動物園長	動物	
	山 下 裕 亮	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター 宮崎観測所 助教	地質	
	柴 田 博 子	宮崎産業経営大学法学部 教授	歴史	
	那 賀 教 史	宮崎民俗学会 副会長	民俗	
	八ツ橋 寛 子	宮崎大学教育学部 教授	植物	会 長
	柳 澤 一 男	宮崎大学 名誉教授	考古	副会長
公募委員	谷 山 敦 子	フリーライター	公募	

参考資料

1	令和2年度 日誌(抄)	85
2	博物館の沿革	87
3	第2期中期運営ビジョン評価表(令和元年度分)	93
4	県総合博物館関係法規	100
	(1) 宮崎県総合博物館条例	100
	(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例(抄)	100
	(3) 宮崎県博物館協議会条例	101
	(4) 宮崎県総合博物館管理運営規則	102
	(5) 宮崎県総合博物館処務規程	111
	(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱	111

令和2年度 日誌(抄)

年月日	事 項
令和2年04月04日	展示解説(自然史・歴史・民俗) ※毎週土・日曜日・祝日・・・以下記載省略
(2020)04月04日	「むかしのあそび」 ※第1・3・5土曜日・・・以下記載省略
04月04日	民家園ボランティアによる「囲炉裏の火入れ」(民家園) ※毎週土曜日・・・以下記載省略
04月05日	「紙芝居」 ※毎週日曜日・祝日・・・以下記載省略
04月11日	「クイズラリー(常設展示室)」 ※第2・4・土曜日・・・以下記載省略
04月14日	第1回職員研修
04月21日	緊急事態宣言 コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館 (4/21～5/10)
04月25日	博物館講座「集めよう!海のお宝貝がら」 ※中止
04月26日	博物館講座「球状コンクリーションの謎にせまる」 ※延期
04月29日	常設展示イベント「水モンを探せ!」(～5/6) ※中止
04月29日	ワクワクおさんぽツアー ※中止
05月02日	学芸員によるガイドツアー(植物編) ※中止
05月03日	GW特別企画 自然史ガイドツアー ※中止
05月03日	SSP展プレ講座「こども生きもの写真教室」 ※中止
05月04日	GW特別企画 自然史ガイドツアー ※中止
05月04日	GW特別企画 みどりの日クイズラリー ※中止
05月04日	ワクワクおさんぽツアー ※中止
05月05日	GW特別企画 昔の遊び拡大版 ※中止
05月05日	博物館講座「よろいかぶと着用体験!」 ※中止
05月05日	手づくりかぶとでいざ出陣! ※中止
05月06日	学芸員によるガイドツアー(民俗編) ※中止
05月11日	エントランス展示「宮崎の光るきのこ」展(～5/31)
05月17日	エントランス展示「県内のSSP会員の作品展示」(～6/28)
05月21日	特別展「第40回SSP展」開幕(～6/28)
05月23日	「SSP展」ガイドツアー
05月24日	「SSP展」ガイドツアー
05月31日	「SSP展」ガイドツアー
06月05日	宮崎県博物館等協議会 役員会
06月06日	民家園火入れ ※毎週土曜日・・・以下記載省略
06月13日	博物館講座「宮崎の歴史を学ぶ1」
06月14日	SSP展関連講座「プロに学ぶ写真講座」 講師:東木場昭裕氏
06月20日	「SSP展」4,000人目セレモニー
06月20日	みやざきの昔話公演
06月21日	SSP展関連講座「プロに学ぶ写真講座」 講師:東木場昭裕氏
06月27日	友の会行事 講座「きのこ観察会」
06月28日	「SSP展」ガイドツアー
06月29日	特別整理期間(～7/3)
07月04日	エントランス展示「楽しく学ぼう!海の自由研究」(～9/6)
07月04日	ロビー展示「恐竜博士になろう」①(～7/31)
07月06日	エントランスホール展「愛鳥作品展」(～7/31)
07月09日	どこでも博物館(高千穂町立上野小・中学校) 事業日
07月18日	みやざきの昔話公演
07月23日	特別展「モンスター水族館」(～8/30) ※中止
07月23日	特別展示室「記念物100年展～守り受け継ぐために～」展(～8/23)
07月25日	民家園利用事業(県国際交流協会)
07月26日	博物館講座「青島の光るきのこ観察会」 ※中止
07月27日	体験講座「メガロドン観察会」
07月27日	イベント「学芸員によるガイドツアー ～流域の考古学～」
07月29日	イベント「マイクロプラでストラップづくり」
07月31日	イベント「手作りかぶとでいざ出陣!」
08月01日	ロビー展「宮崎地域資源ブランドフォトコンテスト」(～8/17)
08月01日	エントランスホール展「宮崎の伝統工芸品」展(～8/31)
08月07日	イベント「マイクロプラでストラップづくり」
08月17日	ロビー展示「恐竜博士になろう」②(～8/30)
08月17日	イベント「マイクロプラでストラップづくり」
08月19日	イベント「種の模型を飛ばそう!」
08月21日	博物館実習(～8/31)
09月07日	燻蒸休館(～9/18)
09月19日	みやざきの昔話公演
10月11日	化石の日関連特別講座「化石から知る生物の栄枯盛衰」
10月11日	民家園利用事業(遍歴文学会)
10月16日	特別展「みやざきの神楽展」開会式・内覧会
10月17日	特別展「みやざきの神楽展」開幕(～11/29)
年月日	事 項

10月17日	みやぎきの昔話公演
10月17日	神楽展ギャラリートーク特別版（監修：小川教授）
10月18日	博物館講座「大地のつくりを観察しよう！」
10月18日	「神楽展」ギャラリートーク（野添）
10月18日	民家園レコードコンサート
10月24日	民家園利用事業（公立大茶道部）
10月24日	神楽面制作見学会（県伝統工芸士：工藤浩章氏）
10月25日	博物館講座「自然の色で染めてみよう！」
10月25日	「神楽展」ギャラリートーク（宮崎民俗学会：清水氏）
10月30日	宮崎県博物館協議会
10月31日	博物館講座「宮崎の歴史を学ぶ2」
10月31日	椎葉（嶽之枝尾）神楽公演
11月01日	「神楽展」ギャラリートーク（宮崎民俗学会：那賀氏）
11月03日	博物館子どもDAY
11月03日	クイズラリー子どもDAY
11月05日	みやぎきシェイクアウト訓練
11月07日	特別展開連講座「みやぎきの神楽を学ぼう」
11月07日	スタンプカードスタート（～3/7）
11月08日	「神楽展」ギャラリートーク（野添）
11月12日	特別展「みやぎきの神楽」展 入場1万人目セレモニー
11月14日	どこでも博物館（日南市立まなびピア図書館）事業日
11月14日	神楽面制作見学会（県伝統工芸士：古川三鶴亀氏）
11月15日	博物館講座「見立溪谷の秋の紅葉観察会」
11月15日	「神楽展」ギャラリートーク（宮崎民俗学会：清水氏）
11月21日	民家園ボランティア連絡会及び研修会（神楽展解説）
11月21日	子ども神楽大会（記紀編さん室主催・総合博物館共催）
11月22日	博物館講座「西都原古墳群の終末期古墳を中から観察しよう」
11月22日	「神楽展」ギャラリートーク（宮崎民俗学会：那賀氏）
11月29日	博物館講座「火山灰の地層を観察しよう」（梅ヶ久保・高原町）
11月29日	「神楽展」ギャラリートーク（野添）
12月05日	博物館講座「佐土原人形絵付け体験」
12月06日	博物館講座「調べよう！鳥の飛ぶしくみ」
12月10日	どこでも博物館（宮崎県立都城さくら聴覚支援学校）事業日
12月12日	博物館講座「火山灰の粒を観察しよう」
12月17日	民家園利用事業（親子向け野菜講座）
12月19日	クリスマスコンサート
01月06日	ロビー展示「牛展」（～1/17）
01月18日	特別整理メンテナンス期間（～1/26）
01月27日	エントランス展示「宮崎県文化賞パネル展示」（～2/14）
02月05日	ひな人形展示（～3/3）
02月13日	博物館講座「森を守る「ササラダニ」を観察しよう」
02月15日	アンケート強化月間（～3/15）
03月06日	開館50周年感謝祭
03月07日	開館50周年感謝祭記念式典
03月20日	防災訓練
03月27日	民家園利用事業（宮崎茶会）
03月28日	民家園利用事業「レコードコンサート」 ※中止
03月29日	民家園利用事業（秘書広報課広報戦略室）

※博物館講座に関する記録は48～50頁を参照

2 博物館の沿革

西暦	年 月 日	事 項
	昭和	
1951	26年 4月 1日	宮崎県立博物館設置 教育関係使用料及び手数料徴収条例入館料施行 〔大人 10 円、小人 5 円、団体 3 割引 (20 人以上) 〕 県立博物館規則を制定
	6月 1日	宮崎神宮徴古館において開館
	12月 1日	博物館法公布 (法律第 285 号)
1952	27年 4月 1日	県立博物館条例制定 博物館法による登録博物館として県教育委員会登録原簿に登録 (登録番号 1 号)
1953	28年 4月 1日	日高重孝が初代専任館長として就任
1957	32年 4月 1日	県立博物館協議会規則を制定
	11月 1日	博物館協議会委員任命 (初・10 人)
1958	33年 4月 1日	入館料改訂 〔大人 20 円、小人 10 円、団体 3 割引〕
1962	37年 5月 2日	皇太子殿下ご夫妻ご視察
1967	42年 8月 1日	西都原資料館 (分館) 設置 西都市大字三宅 5670 (908.06 m ² 、古代住居 27 m ²)
	11月 21日	明治百年記念事業準備委員会が「宮崎県総合文化施設建設」を答申
1968	43年 7月 1日	西都原資料館開館
1969	44年 11月 3日	宮崎県総合文化施設 (仮称) の起工式
1970	45年 4月 1日	宮崎県総合文化施設開設準備事務局を設置 事務局長 柳宏吉外職員 11 人を発令
	10月 11日	閉館記念特別展「宮崎県立博物館館蔵品展」 (前期 10/1~11/8 後期 11/14~12/9)
	12月 10日	新設博物館移転準備のため休館
1971	46年 3月 2日	宮崎県総合博物館設置 館長 柳宏吉外職員 19 人を発令 宮崎県総合博物館条例施行 宮崎市神宮町 458 番の 2 7,384.06 m ² (博物館・美術館・県民文化ホール)
	3月 2日	入館料改訂 〔大人 30 円(25 円)、中高生 20 円(15 円)、小学生 15 円(10 円)、() は団体〕
	3月 7日	開館式典挙行 「宮中雅楽」特別鑑賞会、記念特別展、記念美術講演会(3.10)等を開催
	4月 1日	総合博物館協議会規則施行
	7月 26日	宮崎県総合博物館協議会委員会 (初・20 人)
1972	47年 10月 3日	本館・メキシコ文化博物館姉妹館盟約締結式挙行 盟約記念展、記念講演会等を開催
1973	48年 3月 30日	「米良の民家」移築復元工事完了
	4月 7日	天皇・皇后両陛下ご視察
1974	49年 9月 1日	住所表示変更 宮崎市神宮 2 丁目 4 番 4 号となる
1975	50年 8月 1日	入館料改訂 〔大人 50 円(40 円)、高大学生 30 円(20 円)、小中学生 20 円(10 円)、() は団体〕
	8月 31日	「旧黒木家住宅」(昭 48.2.23 国指定重要文化財) 移築復元工事完了
1977	52年 3月 25日	「椎葉の民家」移築復元工事完了
	52年 9月 14日	皇太子殿下ご夫妻ご視察
1978	53年 9月 30日	「旧藤田家住宅」(昭 48.2.23 国指定重要文化財指定) 移築復元工事完了
1979	54年 9月 7日	仮収蔵庫増設 (199 m ²)
	9月 23日	宮崎国体開催記念展を開催 (日向の古墳展・ふるさと美術展 10/21 まで)
	10月 13日	身障者施設増設 (トイレ 7.40 m ²)
	10月 16日	天皇陛下西都原資料館ご視察

西暦	年 月 日	事 項
	昭和	
1981	56年 3月	博物館設置 30 周年、総合博物館 10 周年 昭和 56 年度に記念特別展等を開催
	12月 17日	民家園監視詰所新築 (13.25 m ²)
1982	57年 2月 25日	工作室増設 (43.72 m ²)
	10月 1日	埋蔵文化財センターを総合博物館の構成施設として設置(1,516.68 m ²)
	10月 2日	埋蔵文化財センター開館記念特別展及び記念公演を開催
1983	58年 4月 1日	入館料改訂 〔大人 100 円(80 円)、高大生 60 円(40 円)、小中学生 40 円(20 円) 、 () は団体〕
		置県 100 年、昭和 58 年度に記念特別展等を開催
1986	61年 12月 22日	民家園「椎葉の民家」屋根葺替工事完了
1987	62年 4月 1日	徳仁親王殿下西都原資料館ご視察
1988	63年 4月 1日	入館料改訂 〔大人 150 円(120 円)、高大生 90 円(60 円)、小中学生 60 円(30 円) 、 () は団体〕
		ポンプ室新築(8.75 m ²)、屋内消火栓改修工事完了
	平成	
1989	元年 4月 1日	入館料改訂 〔大人 155 円(125 円)、高大生 90 円(60 円)、小中学生 60 円(30 円) 、 () は団体〕
	11月 14日	総合博物館本館屋根防水工事完了(第 1 期分美術棟ほか)
1990	2年 5月 19日	'90 ひむかの祭典参加特別展を開催 ブリヂストン美術館名作展 5/19~6/17 ベルリン国立美術館展 10/26~12/16
	10月 20日	総合博物館本館屋根防水工事完了(第 2 期分管理棟)
1991	3年 3月	博物館設置 40 周年、総合博物館 20 周年 平成 3 年度に記念特別展等を開催
	4月 1日	入館料改訂 〔大人 200 円(150 円)、高大生 120 円(80 円)、小中学生 80 円(50 円) 、 () は団体〕
1992	4年 1月 31日	総合博物館本館屋根防水工事完了(特展室)
	3月 9日	民家園「旧黒木家住宅」屋根葺替工事完了
	10月 1日	埋蔵文化財センター開設 10 周年
	10月 3日	埋蔵文化財センター開設 10 周年記念講演会を開催
1993	5年 3月 1日	博物館本館屋根防水工事完了(第 4 期常設展示室)
	4月 15日	「日向の山村生産用具」重要有形民俗文化財に指定
1994	6年 8月 12日	民家園ポンプ扉取替工事完了
1995	7年 3月 4日	本館考査室冷暖器取付工事完了
	3月 27日	本館宿直室等改装工事完了
	10月 1日	美術部門を県立美術館に移管(10/17 県立美術館開館)
1996	8年 3月 20日	公共下水道接続工事完了
	3月 29日	県民文化ホールエントランス等改修工事完了
	4月 1日	埋蔵文化財センターが博物館から分離
	8年 10月 29日	建設工事安全祈願祭
	11月 6日	博物館職員海外研修(11/6~11/13)「中国 雲南省」
1997	9年 7月 13日	西都原古代生活体験館が総合博物館の構成施設として開館
	11月 8日	清子内親王殿下西都原古代生活体験館ご視察
	11月 20日	本館増改築建築主体工事完成
	12月 10日	本館増改築管工事完成
	12月 20日	本館増改築電気工事完成
	〃	本館昇降機設置工事完成
1998	10年 2月 10日	本館タイルカーペット工事完成
	3月 20日	本館屋外トイレ改築工事完成

西暦	年 月 日	事 項
	平成	
1998	10年 3月 25日	本館植栽工事完成
	〃	本館舗装工事完成
	〃	本館屋外電気工事完成
	〃	本館管理棟部分改修工事完成
	4月 1日	入館料改訂 〔大人 300 円(200 円)、高大生 200 円(100 円)、小中学生 100 円(50 円)、() は団体〕
	4月 30日	総合博物館リニューアルオープン記念式典
	5月 1日	総合博物館リニューアル開館
1999	11年 4月 14日	秋篠宮同妃殿下西都原古代生活体験館ご視察
	10月 22日	清子内親王殿下ご視察
	11月 12日	天皇在位 10 周年記念無料公開
	12月 10日	シンガポール リム国務大臣ご視察
2000	12年 4月 1日	展示解説員制度の導入(非常勤職員 11 人)
	〃	学芸課に学芸班と普及班を設置
	9月 21日	全国風土記の丘協議会開催(～22)
2001	13年 6月 1日	開館 50 周年記念事業実施(記念講演、雅楽の演奏と舞)
	10月 30日	椎葉の民家補修及び補強工事着工
2002	14年 11月 13日	全国博物館大会開催(宮崎市)(～15)
2003	15年 3月 14日	特別展示室シャッター・荷物用昇降機取替え工事着工
	11月 1日	西都原資料館閉館 西都原古代生活体験館が西都原考古博物館へ移管
2004	16年 4月 1日	火曜日休館の試行開始
	4月 17日	西都原考古博物館開館
	4月 25日	原田義昭文部科学副大臣ご視察(全国植樹祭：西都市)
	8月 1日	大韓民国蔚山広域市より感謝牌贈られる (当館所蔵コククジラ頭骨の標本作製のお礼)
	8月 29日	台風 16 号により民家園等被災(米良の民家、旧黒木家等)
2005	17年 3月 14日	民家園災害復旧工事完成
	3月 31日	来客者用自転車置き場設置
	4月 1日	火曜日休館制度化(総合博物館運営規則の改正)
	〃	常設展の観覧料を無料化(教育関係使用料及び手数料徴収条例の改正)
	6月 17日	韓国長生浦鯨博物館より開館記念招待を受ける
	10月 15日	九州国立博物館(太宰府市)開館記念式典出席
	11月 16日	学芸課が教育功労者表彰を受ける
2006	18年 4月 1日	総務課、学芸課に担当制導入(総務担当、学芸担当、普及担当)
	18年 8月 6日	高円宮妃殿下常設展及び企画展(「化石展」)ご視察
	10月 1日	老朽化による諸問題のため平成 19 年 4 月 1 日付け県民文化ホール用途廃止決定 (宮崎県総合博物館条例等の改正)
2007	19年 3月 31日	「民家園利活用構想」作成
	〃	県民文化ホール用途廃止
	19年 9月 22日	特別展「吉村作治の早大エジプト発掘 40 年展」 9/22～11/18 (入館者数 74,951 人)
2008	20年 3月 10日	民家園「椎葉の民家」復元工事完成
	3月 27日	県民文化ホール解体工事終了
	〃	博物館(屋上)改修工事完成
	4月 28日	第 1 駐車場(県民文化ホール跡地)使用開始(70 台)
	12月 25日	民家園フェンス整備工事完了
2009	21年 3月 26日	民家園監視カメラ設置
	7月 17日	特別展「恐竜ワールド 2009」 7/17～9/6 (入館者数 108,966 人)

西暦	年 月 日	事 項
	平成	
2009	21年 9月	宮崎県総合博物館中期運営ビジョン策定
2010	22年 2月	民家園入園者数年間5万人を記録
	3月	民家園便所新築工事完成
	6月 12日	口蹄疫拡大防止のための臨時休館 6/12～7/26
	7月 31日	特別展「古代カルタゴとローマ」 7/31～9/26 ※口蹄疫の影響により会期を変更して開催
	8月 5日	「賀来飛霞標本」国の登録記念物に指定
2011	23年 5月	第1駐車場舗装工事完成
	7月 16日	特別展「ふしぎ！昆虫パワー」 7/16～9/4（入館者数 46,434人）
	7月 19日	台風6号接近に伴う臨時休館
	11月	中央監視装置更新
2012	24年 4月	突風により旧藤田家住宅、米良の民家の茅葺き屋根の一部損壊
	7月 14日	特別展「吉村作治の古代七つの文明展」 7/14～9/2（入館者数 28,946人）
2013	25年 7月	3館（美術館、図書館、博物館）見学ツアー開始 7/12～3/23（16団体）
	7月 13日	特別展「よみがえる恐竜時代」 7/13～9/1（入館者数 59,632人）
	12月 8日	博物館南側の通路を一般公募により「杜の小道」に決定
2014	26年 7月 10日	台風接近による臨時休館（他 8/9, 10/13）
	7月 19日	特別展「ほねほね大集合！」7/19～8/31（入館者数 26,802人）
	7月 31日	「教員のための博物館の日 in 宮崎」開催
2015	27年 1月	管理棟改修（窓枠）工事
	3月	宮崎県総合博物館第2期中期運営ビジョン策定
	3月 18日	民家園（旧黒木家、旧藤田家住宅）保存修理工事（工期 H27. 3. 18-28. 2. 29）
	5月 21日	九州博物館協議会理事会・総会・懇親会 5. 22 現地視察
	8月 18日	特別展「今昔、日本の妖怪」7/18～8/31（入館者数 29,781人）
2016	28年 3月 6日	民家園（旧黒木家、旧藤田家住宅）保存修理完成披露
	5月	熊本地震発生（被災文化財レスキュー事業で職員派遣：10月、11月各1名）
	6月 22日	4館（美術館、図書館、芸術劇場、博物館）見学ツアー開始 6/22～（11団体）
	7月	本館情報発信を職員ブログから SNS（Facebook・ツイッター）へ変更
	7月 16日	特別展「ワクワ！ふしぎ生物ワンダーワールド」7/16～9/4（入館者数 20,787人）
	9月 4日	台風接近による臨時休館
2017	29年 1月	累計入館者 300万人達成
	3月 16日	民家園（米良の民家、椎葉の民家）保存修理工事（工期 H29. 3. 16-30. 1. 18）
	7月 15日	特別展「日本南極観測 60周年記念 南極展」7/15～9/3（入館者数 20,730人）
	8月 5日	台風接近による臨時休館
	30年 3月 24日	民家園（米良の民家、椎葉の民家）保存修理完成披露
	3月	民家園消火設備改修工事完了
2018	30年 7月 14日	特別展「むしむし虫展」 7/14～9/2（入場者数 49,411人）
	8月 22日	機器故障による臨時休館
	9月 30日	台風接近による臨時休館
	11月 8日	九州博物館協議会学芸員・事務職員研修会 11/9 現時視察
2019	令和元年	
	8月 14日～15日	台風による臨時休館（8月14日正午から8月15日）
	9月	音声ガイドシステム「音えんぴつ」及びFree Wi-Fiの導入
	12月 12日	「名古屋大学博物館との相互協力に関する協定書」調印式
2020	令和2年	
	1月	空調設備改修工事（I期）完了
	2月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベント中止
	3月	宮崎県総合博物館第3期中期運営ビジョン策定
	3月 5日～26日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

西暦	年 月 日	事 項
2020	令和2年	
	4月21日～	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
	5月10日	
	7月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため特別展「モンスター水族館」中止
	10月	常設展示室のシアター映像について、英語字幕を追加
2021	令和3年	
	12月	「むーちゃん広場」の利用日拡大
	2月	空調設備改修工事（Ⅱ期）完了
	3月6日	総合博物館開館50周年記念事業（～7日）
	3月7日	総合博物館開館50周年記念式典開催
4月1日	博物館公式ホームページのリニューアル （多言語化・モバイル化・ユニバーサルデザイン化）	

【歴代館長名】

歴代	氏 名	在 職 期 間	在職年数	備 考
初代	野 村 憲一郎	昭和 26 年 4 月 17 日 ~ 昭和 28 年 3 月 31 日	2 年	県教育長兼
2	日 高 重 孝	昭和 28 年 4 月 1 日 ~ 昭和 32 年 6 月 30 日	4 年 3 か月	専 任
3	伊集院 竜 雄	昭和 32 年 7 月 1 日 ~ 昭和 32 年 9 月 30 日	3 か月	県教育長兼
4	隈 江 信 光	昭和 32 年 10 月 1 日 ~ 昭和 35 年 12 月 20 日	3 年 3 か月	専 任
5	野 瀬 良 胤	昭和 35 年 12 月 21 日 ~ 昭和 36 年 7 月 15 日	7 か月	社会教育課長兼
6	柳 宏 吉	昭和 36 年 7 月 16 日 ~ 昭和 51 年 3 月 31 日	14 年 9 か月	専 任
7	園 田 穂 積	昭和 51 年 4 月 1 日 ~ 昭和 53 年 3 月 31 日	2 年	〃
8	日 高 千 文	昭和 53 年 4 月 1 日 ~ 昭和 55 年 3 月 31 日	2 年	〃
9	黒 木 淳 吉	昭和 55 年 4 月 1 日 ~ 平成 元年 3 月 31 日	9 年	〃
10	山 本 一 磨	平成 元年 4 月 1 日 ~ 平成 5 年 3 月 31 日	4 年	〃
11	児 玉 純 一	平成 5 年 4 月 1 日 ~ 平成 7 年 3 月 31 日	2 年	〃
12	安 田 天 祥	平成 7 年 4 月 1 日 ~ 平成 9 年 3 月 31 日	2 年	〃
13	原 田 重 行	平成 9 年 4 月 1 日 ~ 平成 10 年 3 月 31 日	1 年	〃
14	間瀬田 達	平成 10 年 4 月 1 日 ~ 平成 11 年 3 月 31 日	1 年	〃
15	黒 木 泰 邦	平成 11 年 4 月 1 日 ~ 平成 13 年 3 月 31 日	2 年	〃
16	肱 岡 理 孝	平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日	1 年	〃
17	福 永 孝 義	平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 3 月 31 日	1 年	〃
18	仲 田 俊 彦	平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 8 月 27 日	5 か月	〃
19	甲 斐 景早文	平成 15 年 8 月 28 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日	1 年 7 か月	〃
20	藤 原 壽太郎	平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日	1 年	〃
21	高 柳 憲 一	平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日	1 年	〃
22	河 野 喜 和	平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日	2 年	〃
23	後 藤 厚 一	平成 21 年 4 月 1 日 ~ 平成 22 年 3 月 31 日	1 年	〃
24	宮 脇 和 寛	平成 22 年 4 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日	2 年	〃

歴代	氏 名	在 職 期 間	在職年数	備 考
25	長 嶺 泰 弘	平成 24 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 3 月 31 日	2 年	専 任
26	富 高 敏 明	平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日	2 年	〃
27	長 友 重 俊	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日	2 年	〃
28	黒 木 義 博	平成 30 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日	3 年	〃

宮崎県総合博物館 第2期中期運営ビジョン評価表（令和元年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

内部評価 4…指標を大きく上回った 3…指標を達成できた 2…指標をやや下回った 1…指標を大きく下回った

外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

※外部評価は、宮崎県博物館協議会委員による評価

(1) 調査研究

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①調査研究方針・計画	達成率	100%	61%	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸課職員が個別に研究テーマを設定して行う個別(テーマ)研究と、全部門合同で行う総合調査研究(小丸川水系)とがある。総合調査では、今年度は、小丸川水系の報告書を作成し、一方で五ヶ瀬川水系の予備調査を行った。他の業務と調整しながら、進めている関係で十分な予備調査ができていない。報告書については館外の研究者との共同調査報告や調査研究報告等によって発行できた。 ・次年度は、これまで個別研究と水系別総合調査研究(五ヶ瀬川・北川)を別に設定し、調査研究を行ってきたが、次年度以降は部門内でテーマ統合しながら、調査研究の効率化を図る。さらに、各部門で毎月1回以上の調査研究日を設定し、業務の調整を行いながら、調査研究に取り組み、学芸課内会などで実施状況を確認する。 	2		<ul style="list-style-type: none"> ①小丸川流域調査の報告書が作成され、貴重なデータを見ることができた。また、次期テーマの予備調査が行われた。今年度も新型コロナウイルス感染症対策の影響を受けるであろうが、業務のバランスを取りながら取り組んでいただきたい。 ②調査研究方針・計画において、小丸川水系の総合調査の報告書を作成し、五ヶ瀬水系の予備調査を実施した。報告書の作成については、館外研究者との共同調査が実施できたこと、そのノウハウは高く評価したい。 ③調査研究成果公表は、研究の紀要の発刊、調査研究報告会は継続している点、特に小丸川水系調査報告書は自然史、歴史等の解明に大きな貢献を期待しているなど、地域の調査研究の発展には、中心的役割を示すものと評価したい。 ④研究紀要をしっかりと刊行されたこと、報告会を実施されたことは良かった。 ⑤今後は各部門で調査研究の日程確保を図られるとのこと、また課内会などで実施状況を核にされることで、今後の着実な調査研究の進捗を期待する。 ⑥研究紀要第40輯及び小丸川水系調査報告書には各研究分野の成果が多く盛り込まれており、有益な内容となっている。多忙な館内業務との調整を図りながら、一層の研究の深化を期待します。 ⑦博物館研究報告、小丸川水系調査報告を読ませていただいておりますが、よくやっているとします。 ⑧ビジョン4項目に共通する調査研究が研究紀要に良く反映されている。3月の調査研究報告会では「限られた時間の中で研究をすすめている。是非その姿勢を支援していきたい…」といった趣旨の黒木館長の挨拶された思いにできるかのような内容であった。いつもこの会では思うが、もったいないような短い時間、他の機関(学校、研究会等々)でも是非発表もしてもらいたい。 ⑨学芸課による調査研究報告会の目的は学芸課職員のプレゼン能力の向上のためと聞くが、参加してみると、短い報告のなかにも展示や講座、イベントのアイデアへのヒントが詰まっているように感じる。せっかく展示解説員も視聴しているのだから、彼らと意見交換する機会にしてはどうだろう。 	
②調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	年1回	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に7論文・研究ノートからなる「研究紀要第40輯」を発行できた。また11論文からなる小丸川水系調査報告書を紀要と合本で発行できた。本県の自然史、歴史等の解明に大きな貢献が期待できるものであった。 ・次年度の研究紀要では、水系別総合調査研究(五ヶ瀬川・北川水系)の成果の一部の報告も掲載する予定である。 	4	3		
	調査研究報告会	年1回	年1回	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に職員11名が調査研究の結果や収蔵資料に関する内容、アウトリーチ活動に関する内容についての報告を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため館内の職員研修として実施し、職員のほか博物館協議会委員にも参加いただき、所期の目的を十分に達成できた。 	3			

(2) 収集・保存

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①収集・管理	資料の収集	2,500点 (年平均500点)	2,101点	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集、図書・文献の収集、デジタルデータ、収集資料の整理・登録、デジタルミュージアム登録数については、年平均の目標値を上回ったが、資料の登録数は収集数を下回った。 内容については、動物部門ではハナバチ類の乾燥標本やオオサンショウウオの剥製・骨格標本、植物部門ではヒラタケのレプリカ、地質部門では五ヶ瀬町祇園山産床板サンゴ類化石及び、川南町伊倉浜海棲古生物化石、歴史部門では黒木親慶が身に付けていた軍服や使用していた旅行鞆、講演記録、飯野村役場事務引継書や多数の写真、民俗部門では宮崎県オールみやざき営業課から移管された大漁旗、都城弓など、今後活用できる価値の高い資料を収集することができた。 収集・登録した資料は適切な環境下で保存し、展示や体験用に活用する予定である。今後も引き続き資料の所在情報の収集や館外調査を実施し、重要な資料の収集に取り組むとともに、未登録資料の整理・登録を行う。 5年間の収集では、52,574点となり、すべての項目で目標値を上回った。非常に貴重な資料を収集できた。 	3	3	<p>①資料、文献、データ等の収集は目標値を大きく超えており、また質的にも成果を高く評価できる。登録・整理に関しては、多忙な業務の中で十分な時間を割けないものと推測するが、資料の利用の点から重要であるので、引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>②1)の収集・管理ならびに2)保存は、十分に機能し保存ができていると思われる。月に一度のチェックも十分に確保されている。等々を考慮して内部評価と同等との評価をしたい。</p> <p>③保存のための燻蒸等の取組が着実に実施できていることは良かった。</p> <p>④収集される点数は良いが、登録数が収集数より下回ると、未登録資料が累積するばかりであり、この傾向は昨年度に限ったことではないように感じている。十分な体制がとられることを期待する。</p> <p>⑤資料の収集・保存ができるのは、博物館に対する信頼度の高さでもある。今後さらに連携と情報発信を願いたい。</p>	3
	図書・文献の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,045点					
	デジタルデータ(写真・映像等)の収集	5,000点 (年平均1,000点)	2,218点					
	収集資料の整理・登録	4,000点 (年平均800点)	3,947点					
	デジタル・ミュージアム登録数	1,000点 (年平均200点)	208点					
	(合計)	(年平均3,500点)	9,519点					
②保存	燻蒸	年1回	2回	<ul style="list-style-type: none"> 本館では平成23年度からIPM(総合的虫菌害管理)の考えを取り入れた資料保存に取り組んでいる。令和元年度も全職員によるIPMウォッチング、学芸課担当職員によるモニタリング調査を計画どおり実施することができ、日常の点検も丹念に実施し、虫菌害の発生を抑制した。 月に一度、適切な環境を維持するために学芸課職員による収蔵庫の目視・清掃を確実に実施することができた。 9月の燻蒸期間には、収蔵庫内の燻蒸及び展示室内の簡易燻蒸(殺虫等処理)を計画どおり実施した。その際、常設展示室内の虫菌害発生のおそれがある資料については、収蔵庫に移動して燻蒸し、殺虫・殺カビ処理を行った。なお、燻蒸期間中は立ち入り禁止区域を設定し、館外でのガス漏れ計測を行うなどの万全の安全対策を行った。 10月以降に大型資料を収集したため、3月に専用トラックによる包み込み燻蒸を実施した。 	3			
	簡易燻蒸(殺虫等処理)	年1回	1回					
	トラップ調査	年12回	12回					
	IPMウォッチング	年12回	12回					

(3) 展示

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①入館者数	本館入館者数	80万人 (年平均16万人)	83,603人	・本館の入館者数については、例年10万人程度で推移している。令和元年度においては、空調設備改修工事と新型コロナウイルス感染症拡大により、夏の特別展、博物館講座やイベントなどが中止となり、例年と比べ、大幅に入館者数が減少し、目標値である16万人を超えることはできなかった。 現在、常設展示室における資料入替え、1階エントランスホールや2階ロビーを活用したロビー展の開催、展示解説員による展示解説や団体案内などのサービスの向上やSNSを活用した情報発信を行っている。今後も引き続き、特別展をはじめ魅力ある企画を展開していく。 ・さらに、外国人観光客に対応するため、常設展示室への多言語音声ガイドシステムの導入や本館1階にフリーWi-Fiを整備するなど、インバウンド対応を行った。 ・5年間で年平均16万人にはいずれの年も及ばず、5年間の入館者は56万8千人であった。	1	①改修工事による特別展未開催やコロナ禍による休館の中ではよく取り組まれていたと思う。SNS等で手軽に情報が得られる現在(“本物”に接する機会とは限らないのですが…)必ずしも目標値数との対比だけが評価とは思っていない。「空調設備改修工事で、夏の特別展が開催できなかった事で、例年のこの期の入館者数(平均)と今回はどれ位減っているか。」「3月はじめからの小・中・高校の全国一斉臨時休校をも含めて、この時期、例年の入館者数(平均)と今回はどれ位違うか。」については、分析・検討は必要である。 ②今後、感染症の拡大や「新しい生活様式」がさげられる中、特別展等が開催できなくなった場合、また、入館者制限を考えなければならぬ場合にどう展示(常設展も含め)を生かしていくかを考えてみる必要があると思う。 ③アンケートによる満足度は評価すべきである。また、アンケート記入者は関心も高い。そして足を運んだ人は何か新しい発見、感じるものや思う事があると思う。その事の為に準備や環境づくりに敬意を表すると共に、今後共引き続き、よろしく取り組んでいただきますようお願いいたします。 ④常設展示をリニューアルして10年以上経過してからも入館者数が減少傾向を示さず、一定水準を保っているのはさまざまな努力の賜物、と高く評価できる。新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は今後も続く予想されるが、その対応策として令和二年度に打ち出された「おうちでみやはく」のベースとなるSNS広報を開始したのは不幸中の幸いであった。今後は、有事に備え「来館者」に代わる「ネット訪問者」の獲得を視野に、博物館機能である蓄積を生かしたネットコンテンツの充実が望まれる。 ⑤令和元年度は、空調設備の工事や新型コロナウイルス感染拡大防止への対応で、入館者数が目標を大きく下回ったが、令和2年度は、新型コロナの影響により更なる入館者数の減少が見込まれる。 当分の間は、新型コロナへの対応としての新しい生活様式を取り入れた厳しい状況下での博物館運営を行っていくことになると思うが、本県の教育・文化の向上を図るという博物館の目的を達成するため、事業のあり方・進め方について工夫をし、安全を確保しつつ、少しでも多くの県民に利用してもらおうための取り組みを進めて欲しい。 ⑥新型コロナウイルス感染拡大の為、中止になったのは残念ですが、仕方のない事だと思う。実は3月に団体で見学に入ったが、コロナの為、ガイドが中止になり残念でした。初めて入館する人にはやはりガイドが必要と感じました。又、民家園には数回行きましたが、1回もガイドの説明は聞いた事がありません。ガイドは実施してないのでしょうか。詳しく知りたい気がします。	2	2
	民家園入園者数	25万人 (年平均5万人)	48,372人	・国重要文化財・県指定有形文化財の民家を活用した伝統文化体験講座をはじめ、神楽公演、レコードコンサートなどの各種事業が好評であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による3月のイベント中止等のため、目標値の5万人は下回った。 ・令和元年度より民間主体による民家園利用事業制度を本格的にスタートさせ、多くの利用があった。今後も文化財の保護に留意しながら利活用を一層進めていく必要がある。 ・5年間の入園者は23万2千人であり、目標値には届かなかったが、H29・H30は年平均値を上回った。	2		2	

②常設展	展示替等回数	年5回	19回	・自然史展示室では地質部門が鉱物(孔雀石・クリード石等)の展示替えを、歴史展示室では考古部門が弥生土器等、歴史部門が小村寿太郎に関する資料の展示替えを、民俗展示室では佐土原人形の展示替えを行うなど、幅広い年代の要求に対応しながら収蔵資料の活用に努めた。	4	<p>⑦特別展示は、主催事業「第39回SSP展」、「特選！蔵出し展」の2回、貸館「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」1回、都合3回であったので目標に達したが、「空調設備改修工事と新型コロナウイルス感染症拡大により、夏の特別展、博物館講座やイベントなどが中止」となり、入館者数は目標に及ばなかったとあり、内部評価は個別は1、総合は2とある。まず夏の特別展中に改修工事が行われることは当初からおろみ済みでは、また、コロナ禍による行事中止はやむを得ないこと、それらが入館者減の理由としているが、真実は企画力の問題ではないだろうか。</p> <p>⑧貸館「ネコ展」は平成27年度(4.3万人)、同30年(3.2万人)に開催、館活用にある程度貢献しているといえるが、何故か令和元年度は記載がなく期待したほどの入館がなかったのか。</p> <p>⑨「特選！蔵出し展」(1.2万人)は平成27年(5.7千人)にも開催し、観覧者が倍になっているからそれなり有意義と言えるが、単に収蔵資料を紹介しただけという印象はぬぐえない。収蔵資料紹介であれば自然史、歴史、民俗など部門毎のエントランス展示でもよいのではないだろうか。また、「SSP展」は日本自然科学写真協会の写真展示が主で、純然たる主催事業と言えないのではないかと。要は当初あげた開催回数の達成如何ではなく、展示内容つまり研究発表であろう。「むしむし虫展」「日本刀の美と歴史」「賀来飛霞のみた自然と歴史」などのような「県民が見たい」「県民にアピール」する企画を期待する。</p> <p>⑩「第39回SSP展」では、写真作品と関連づけて置かれた当館資料が意外な効果を生んでいた。資料により被写体の実際の大きさや質感を知ること、接写や決定的瞬間の把握といった撮り手の技術や視点が明確になり、まさに「科学の眼」への気づきを促す展示が実現した。「蔵出し展」は職員選りすぐりの資料で展開する博物館らしい展示。自分の知らないことばかりで、改めて「博物館とは、学びの多様性を体験する空間」と実感した。なお、求められる「学びの多様性」は時代とともに変化する。今後は、「災害」などもキーワードになりそうだ。</p>
③特別展	実施回数	年3回	主催事業 2回 貸館事業 1回	・主催事業として、巡回展「第39回SSP展」、本館が独自に企画した「特選！蔵出し展」の2回、貸館事業として、「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」(主催:宮崎日日新聞社、UMKテレビ宮崎)の1回を実施し、年3回の目標に達したが、空調設備改修工事のための夏の特別展は開催できなかった。 ・本館内で実施した主催事業に係る来場者の満足度は、アンケートによると「良かった」以上が「第39回SSP展」では91%、「特選！蔵出し展」では92%であり、高い評価をいただいた。	3	
④ロビー展	実施回数	年12回	16回	・エントランス・ロビー展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら全16回実施した。内訳は各部門の企画展示12件、博物館友の会の企画展示1件、県その他機関・学校の展示3件であった。各部門の展示に際しては、関係機関3箇所より協力を得て実施した。	4	
						⑪事情により特別展が開けないとき、「高校野球展」や「新みやざき化石展」などをフットワーク軽く開催したのはよかった。

(4) 教育普及

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見
①学校教育支援	学校受入校数	年200校	203校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校受け入れ校数は203校と前年度の229校を下回ったが、今年度の目標値は達成できた。資料貸出し校数、授業支援については、目標値を達成できなかったが、職場体験受入れ、職員研修受入れ数は目標値を達成できた。 ・授業支援は昨年より1校増え、7校で実施した。宮崎北高等学校の支援など県外研修を含め、複数日数実施した学校もあり、支援回数は13回であった。 ・個々の分野では、達成できなかったところも見られたが、全体的には概ね達成できた。 ・今後も計画的に学校教育支援に取り組むとともに、校長会や館で実施される職員研修会などの機会を通じて、博物館の学校支援のメニューや有効性、資料貸し出しの説明を行い、周知を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育支援など目標に向かっての試みは、よく努力されていると思います。展示解説・・・興味を持って自分から声をかけて聞くことがむずかしいので積極的に声をかけられてもよいのではと思います。 コロナのことなどあり、むずかしい面もあり、御苦労もあったことでしょう。 ②全体的に様々な課題に対し、新たな取組を実施し、形にしている。また、現状に対し、さらなる取組をしめしているため評価がしやすかった。コロナに対しての課題(実施できなかったetc.)は、やむを得ないと考える。だからこそ、これから何ができるか、新たに模索していくことこそが、課題解決につながると思います。 ③学校教育支援、展示解説、博物館講座等、それぞれ目標値が達成された項目と達成されなかった項目があるが、職員の皆さんの内容の工夫や広報活動の工夫がうかがわれる。 ④コロナウイルスの感染拡大防止として、様々な催しが中止されたため、仕方がないことだと受け止めた上で、2の評価と致しました。新しい生活様式下における教育普及のあり方を新たな視点でくみなおしていく必要があると思いました。博物館に足を運ばなくても行えるリモートによる校外学習や博物館のイベントのリモート観覧、ライブイベントの視聴等新たな楽しみ方、学び方を提案していくとよいのではないのでしょうか。 ⑤各委員が、関係する機関で、博物館の効用を語ってもらうこと(これまでもそれぞれやっておられると思いますが)にも大切な役割だと考えています。とにかく関心を持ってもらう、目を向けてもらうことだと思います。 	3
	資料貸出し	年10校	2校				
	授業支援	年10校	7校				
	職場体験受入れ	年5校	6校				
	職員研修受入れ	年5校	5校				
②展示解説	実施人数	年10,000人	8,698人	<ul style="list-style-type: none"> ・展示解説を受けた人数は目標人数を達成することができなかった。展示解説を受けた方々の個人アンケートによると「満足した」「やや満足した」の合計が96.4%で、満足度が高かった。今後も来館者への声かけや事前広報に取り組み、利用者の興味や関心を高めるような解説を工夫し、多くの来館者に展示解説を実施していく。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ⑥当館の展示解説員の活躍には目を見張るものがある。職員が現場を一番よく知る彼らの意見に耳を傾け、その企画や運営を後押しする協力体制を築いていることがうかがえる。 	
③博物館講座等	主催講座(地域講座含む)	年30回	37回	<ul style="list-style-type: none"> ・主催講座は、普及講座(23回)(荒天により2講座中止)と特別展開連講座(6回)、民家園伝統文化体験講座(5回)(新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため2講座中止)どこでも博物館(3回)であり、地域講座数ともに目標をクリアすることができた。受講者数も目標値を大きく上回ることができた。 ・今後も興味ある充実した内容の講座を企画すると共に広報活動の工夫に力を入れながら継続していきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ⑦どこでも博物館を実際に体験した小学校の職員の話ですが、「台風接近のため悪天候になりましたが、準備や片付けを予定通り行っていたありがたかった。」「地区の方もとても喜ばれていました。」とのことでした。 	
	地域講座	年10回	11回				
	受講者数	年1,500人	3,169人				
④民家園の活用	民家園まつり	年1回	0回	<ul style="list-style-type: none"> ・神楽公演は10月延岡の三川内、2月日南の山宮の2回実施し、多くの来場者があり好評であった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月に予定していた民家園春まつりと宮崎の大塚神楽公演は中止となった。 ・毎週第3土曜日に開催している昔話公演は7・8月に怖い話特集し、60名を超える幅広い年齢層の参加があった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月は中止し9回の開催であった。 ・その他の催事として、レコード愛好会と共催でのレコードコンサート(10月)の他、民家園ボランティアによる昔のくらし体験や正月準備体験を実施することができた。 ・今年度から本格的に民家園利用事業制度をスタートさせた。また、新たな媒体を使ってボランティア募集を行ったことに加え、ボランティアとの意見交換会を通じて意識の向上を図るとともに、運用面の改善に取り組むことができた。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ⑧民家園を活用した神楽公演は前年度に続いて良い企画だった。招いた保存団体も手抜きすることなくしっかり演舞していたし、若い舞手がやる気を起こしてきたなどと年配舞手から聞く。観覧者も予想外に多く最後まで熱心に見ていたし、近年県民の神楽に対する関心が高まっている証と思われる。 ⑨3月に企画・計画・準備されていたであろう活動について、中止しなければならなかった事、大変残念に思います。御苦労に感謝します。今後は、withコロナを考慮し、目標値の達成よりも、内容の充実、講座や他との連携の在り方を再考するチャンスかと思っています。 	3
	伝統芸能公演	年1回	2回				
	宮崎の昔話公演	年10回	9回				
	その他の催事	年6回	6回				

⑤関係機関との連携	職員の派遣・招聘	年20件	101件	・職員の派遣は自然史系を中心に植物分野と地質分野が中心で学校教育機関に講師や委員として職員を10件15回派遣し、関係機関等の職員の招聘では20件、22名であった。館外資料の貸出しは10機関、その他、資料の貸し出しは31件であった。研究機関との連携については30件であった。	4	⑩宮崎県博物館等協議会の幹事館として、新型コロナウイルス感染拡大防止対応において参加園館の情報収集やその後の情報提供等を積極的に実施したことは、大いに宮崎県の博物館のリーダーとしての役割を果たした。
	資料の貸し借り					
	研究会への参画					
	共催事業等					
⑥博物館と福祉施設の連携	施設受入件数	年200件	140件	・福祉施設の来館は、展示解説員が主体となって高齢者を対象に実施している「博物館で思い出を語ろう！」事業を多団体期(5・8・10・11月)の月曜日のみ実施した。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から3月は休館したため、目標を下回った。 ・今後は、福祉施設におけるテーマ回想法だけでなく、福祉施設や高齢者団体におけるコース回想法での活用を広く広報し、様々な施設や団体のニーズをふまえた事業展開を図っていく。	2	
⑦レファレンス対応	相談件数	年1,000件	622件	・一般(397件)、マスコミ(109件)、公共機関(38件)、学校(26件)等からの相談が計622件あった。相談件数は昨年度より249件減り、目標値に届かなかった。 ・今年度は夏の特別展が無かった事やホームページ等による積極的な情報発信により、問合せが減ったためと考えられる。	2	
⑧研究発表会の開催	研究発表会	年1回	0回	・自然科学系の9団体で構成される県内研究団体の発表会を3月に計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止した。	1	⑪「宮崎の自然」研究報告会が、コロナウイルス感染防止のため中止になり残念だったが、県内自然系研究団体が一堂に会する貴重な機会なので是非今後も続けてほしい。また、生物系の学会の九州支部(日本動物学会、日本生態学会)や九州沖縄植物学会などとの連携の検討もお願いしたい。
⑨博物館友の会との連携	講師派遣 (博物館→友の会)	年5回	講師派遣2回 講座支援4回 計 6回	・学芸課職員(植物・民俗)の講師派遣を2回実施した。 ・また、友の会会員による博物館講座支援は、植物観察、干潟観察など4回あった。(植物2回、動物1回、考古1回) ・友の会の会員による写真展「はくとも写真展」に館職員の写真も提供し、友の会会員と連携して展示作りを行った。	3	
	講座支援 (友の会→博物館)					

(5) 情報発信

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①情報発信の充実	広報紙発行	年2回	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「森の通信」を6月と9月の2回(66号・67号)発行し、県内の学校や博物館、図書館、公民館等の公共施設などに配布するとともに、ホームページにも掲載した。 ・博物館の情報を報道機関に提供する報道処理件数は69件であり、4年連続増加したものの目標を下回った。その報道処理等によりマスコミが報道した件数は、203件であった。 ・今後も館内の広報推進会議で、新たな広報手段に取り組み、情報発信に努めていく。 	2	3	<p>①情報発信については、広報推進委員会の設置をはじめきめ細かく対応し、多方面に地道なアプローチを展開しており、非の打ちどころがない。県内のおもな文化施設にはどこでも、当館の特別展のチラシと「みやはくカレンダー」が置いてあるという印象さえ受ける。「はくぶつかん」の呼称に替えて愛称のニュアンスのある「みやはく」を採用するなど、細やかな工夫がうかがえる。</p> <p>②情報発信については、SNSの活用にシフトしており、博物館としては、非常にうまく対応していると思う。しかし、まだ、従来の新聞やテレビなどに対する情報提供も重要なツールであり、今後、より積極的に活用して欲しい。</p> <p>③ホームページは大変充実していたと思います。今後も上手くSNSを活用して頂けたらと思います。</p> <p>④ホームページのきめ細やかな更新やSNSなどインターネットを活用したりリアルタイムでの情報発信に積極的に取り組んでおり、結果、ホームページのアクセス数の大幅な増加に繋がったことは、大いに評価できる。今後は、動画(You tube等)による情報発信等、その手法の裾野を広げる工夫を行い、インターネット活用による情報発信の充実強化に取り組んで欲しい。</p> <p>また、来館者へのアンケート調査結果にもあるように、博物館情報の取得手段として、ホームページに次いで、ポスター・チラシも多いので、年代ごとに人が多く集まる場所等を検討するなど、効果的な配布先の選定にも努めて欲しい。</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症拡大により、イベント中止のため入館者数は減少しているが、博物館ホームページへのアクセス数が大幅に増えたことは努力がうかがえる。特にSNSにより、さまざまな講座の様子や情報がとてもよく分かり、博物館が非常に身近に感じられる。今後も積極的に行ってほしい。</p>	3
	報道処理・情報提供件数	年120件	69件					
②ホームページの充実	更新回数	月5回	月32.2回	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館ホームページへのアクセス数は、年1,097,717件となり、前年度より5割以上大幅に増え、目標値を達成できた。これは、更新回数が昨年度より増えたこと、さらに今年度より開始したSNS(Instagram)において、特別展や講座の様子、季節ごとの情報などを発信でき、情報発信手段として定着してきたことが要因と思われる。 ・SNSではタイムリーで博物館の身近な話題提供などを積極的に行い、Instagramでは年間92件、Facebookでは年間205件、Twitterでは年間1212件の投稿を行う事ができた。今後も効果的に活用していきたい。 	4	3	3	
	アクセス件数	年500,000件	1,097,717件					

(6) 経営

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	1,487件	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート収集件数については、空調設備改修工事のため、夏の特別展が開催できなかったことにより、収集件数が減少した。また、本館サービスに対する満足度は91%となり、目標を達成できた。 ・今後もアンケートの積極的な回収に努め、利用者の意見を館の運営に活かしていく。 	2	3	<p>①夏の特別展が開催できなかったこと、コロナの影響で閉館期間があったことで、大変な御苦労があったと思うが、職員研修や防災訓練などの経営の基礎となる部分をしっかりと実施できている。また、アンケートの満足度も91%となっており、職員の方々には自信と誇りを持って、業務に従事していただきたい。</p> <p>②職員の資質向上のための研修の充実・向上にしっかりと取り組んでおり、この取組が、来館者アンケートにおける「本館サービスに対する満足度」の91.2%にも繋がったと思われる。全世代にとつての魅力的な博物館となるためには展示内容や設備の充実と併せて、職員サービスの向上を図ることが大変重要であり、研修内容の充実等により職員の育成に一層取り組んで欲しい。</p> <p>③学芸員をはじめ展示解説員すべての職員の魅力が入館者の満足度につながっているので、今後も研修を深めてほしい。</p> <p>④避難訓練や防火訓練、職員の研修が実施され危機管理体制が強化し、職員の意識やスキルが向上してきていることがうかがえる。今後も継続してほしい。</p>	3
	満足度	70%	91.0%					
②職員の資質の向上	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ①基本研修 ②県外研修等 ③展示解説員研修 	3	3	3		
③危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	3回	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に、全職員を対象とした危機管理マニュアル及びAEDの操作方法に関する研修を実施、6月、9月には地震や火災を想定したシナリオの無い避難訓練を実施、1月は宮崎北消防署・消防団及び埋蔵文化財センター分館職員と合同で民家園において「文化財防災デー」に合わせた防火訓練を実施するなど、職員の危機管理意識やスキルの大きな向上が図られた。 ・今後も、利用者の「安全」「安心」の確保のため、危機管理体制の強化に努める。 	4	3	3	

(7) 全体を通じての意見

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
全体							<p>①新型コロナウイルス感染症が懸念される時代に、入館者数やイベント開催回数などを求めることは適当でなかろう。治療薬等が開発された後に、多くの県民に貢献できる博物館であるための底力を蓄える必要があると考える。この際、これまで日々の業務が多忙であったために十分に進捗していなかった業務(たとえば未登録資料の整理登録や修復など)はどうかを進められること、そして調査のまとめや研究を腰を落ち着けて進められることを期待する。</p> <p>②コロナが終息した時期に博物館を楽しんでいただくためにも、本体の立て替えを検討されることを提案したい。貴館には建設当初である昭和46年の設備のままのところがあちこちにあり、またリニューアル20年以上が経過し、資料の保存管理にも支障が生じることを懸念している。自治体の財政は厳しいであろうが、県の大切な文化資源を将来に継承するため、施設・設備の必要性を主張していただきたい。</p> <p>③火曜日の休館を原則月曜日休館に戻す。 ある知事が月曜休館を火曜にかえたと聞く。県立図書館、西都原考古博、市町村の資料館など月曜休館が殆ど。火曜休館を知らない県民、来県した観光客など博物館にきて初めて休館を知ることになる。館運営に支障がなければ月曜休館に戻した方がよいと思う。</p> <p>④平野部の農家家屋の移築 昭和47年から県内を代表する歴史的、建築学的に価値のある民家4棟が移築され、県民の誇れる屋外展示物となっている。しかし恐らく最も多く、最もポピュラーな平野部民家(農家)、俗に田の字型といわれる民家の移築がなされていない。移築に際して県内外の建築研究者が協議し、今ある4棟に決定したのであろうが、どこにもある、いつでも見られる田の字型は、あまりに普通で特徴がなく話題にならなかったのか。南側にオモテザ(トコノマ)、シモザ、北側にナンド、シモザの4部屋の間取り、それに穀櫃などを置く土間と母屋に作り出しのカマヤ(台所)を配置する、この農家こそ宮崎を代表する民家と思う。</p> <p>⑤世界を席卷した新型コロナウイルス感染症の拡大は、人の集まる文化施設である博物館にも大きな課題を投げかけている。これまでの評価基準では当館の価値が測れない、さらにいえば、評価そのものが不可能となるような、困難な時代の到来を感じる。</p> <p>⑥4年間、皆様の取組にかかわらせていただき心から感謝いたします。県民として今後の皆様の御活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。</p>	

4 県総合博物館関係法規

(1) 宮崎県総合博物館条例

昭和 45 年 12 月 23 日

宮崎県条例第 41 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、宮崎県総合博物館（以下「総合博物館」という。）の設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条第 1 項の規定に基づき、総合博物館を設置する。

2 総合博物館の位置は、宮崎市神宮 2 丁目 4 番 4 号とする。

(使用料の徴収)

第 3 条 総合博物館の資料を観覧し、又は施設を利用しようとする者は、別に条例で定めるところにより使用料を納付しなければならない。

(委任)

第 4 条 この条例に定めるもののほか、総合博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、県教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和 46 年 3 月 2 日から施行する。

附 則（平成 18 年 10 月 1 日条例第 62 号）

この条例は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例(抄)

平成 13 年 3 月 29 日

宮崎県条例第 23 号

(趣旨)

第 1 条 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 225 条の規定に基づく使用料及び同法第 227 条の規定に基づく手数料で宮崎県教育委員会の所管に属するものの徴収については、他の条例に特別の定めがある場合を除くほか、この条例の定めるところによる。

(使用料)

第 2 条 次の各号に掲げる公の施設を利用する者は、それぞれ当該各号に掲げる名称の使用料を納めなければならない。ただし、教育関係の公の施設に関する条例（昭和 39 年宮崎県条例第 36 号）第 6 条第 1 項の規定により、教育関係の公の施設を管理する指定管理者が、当該教育関係の公の施設の利用料金を収受している場合は、この限りでない。

(1)～(4) 省略

(5) 宮崎県総合博物館 総合博物館観覧料及び総合博物館使用料

(6)～(8) 省略

2 前項各号に掲げる使用料の金額その他その徴収に関する事項については、それぞれ別表第 1 に定めるところとする。

別表第 1 (第 2 条関係)

使用料	区分		単位	金額	納期	備考
5 総合博物館観覧料及び総合博物館使用料	総合博物館観覧料	特別展示	宮崎県教育委員会がその都度定める単位	宮崎県教育委員会がその都度定める額	宮崎県教育委員会がその都度定める時期	
	総合博物館使用料	博物館特別展示室	入場料等を徴収する場合	1日につき	24,660 円	使用許可の時
入場料等を徴収しない場合			同	18,500 円		

(3) 宮崎県博物館協議会条例

平成 15 年 9 月 26 日

宮崎県条例第 43 号

(設置)

第 1 条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 20 条第 1 項の規定に基づき、宮崎県総合博物館に宮崎県博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、宮崎県総合博物館及び県立西都原考古博物館の運営に関し、宮崎県総合博物館及び県立西都原考古博物館の各館長の諮問に応ずるとともに、当該各館長に対して意見を述べる機関とする。

(組織)

第 2 条 協議会は、委員 20 人以内で組織する。

(委員)

第 3 条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、県教育委員会が任命し、又は委嘱する。

2 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

4 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(会長及び副会長)

第 4 条 協議会に会長及び副会長各 1 人を置く。

2 会長及び副会長は、それぞれ委員の互選によってこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第 6 条 協議会の庶務は、宮崎県総合博物館において処理する。

(委任)

第 7 条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則（抄）

(施行期日)

1 この条例は、平成 15 年 11 月 1 日から施行する。

(協議会の委員に関する経過措置)

3 この条例の施行の際現に前項の規定による改正前の宮崎県総合博物館条例第 6 条に規定する委員に任命され、又は委嘱されている者は、第 3 条第 1 項の規定により任命され、又は委嘱されたものとみなす。この場合において、当該委員の任期は、第 3 条第 2 項の規定にかかわらず、平成 16 年 7 月 25 日までとする。

附 則（平成 24 年 3 月 29 日条例第 32 号）

この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(4)宮崎県総合博物館管理運営規則

昭和 46 年 3 月 2 日

教育委員会規則第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県総合博物館（以下「総合博物館」という。）の管理運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第 2 条 総合博物館は、その目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史・民俗・自然科学及びその他の資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 歴史・民俗・自然科学の展覧会、講習会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (3) 歴史・民俗・自然科学の資料の専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (4) 特別展示室を、県民の文化活動に使用させること。

(組織)

第 3 条 総合博物館に、次の課を置く。

総務課

学芸課

(分掌事務)

第 4 条 前条の各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- (1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
- (2) 予算の執行及び決算に関すること。
- (3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
- (4) 公印の管守に関すること。
- (5) 施設、設備の管理運営に関すること。
- (6) 宮崎県博物館協議会に関すること（宮崎県博物館協議会条例（平成 15 年宮崎県条例第 43 号）第 6 条に規定する協議会の庶務及び総合博物館の運営に関することに限る。ただし、委員の任免を除く。）。
- (7) その他館務に関し、他課の所管に属さない事項に関すること。

学芸課

- (1) 資料の収集、整理、保管、修理及び展示に関すること。
- (2) 資料に関する標本、模写、模型、写真、文献、図表、フィルム及びレコード等の作成に関すること。
- (3) 資料の利用及び展示品の解説並びに指導に関すること。
- (4) 展覧会、講習会、研究会を主催し、及びその開催を援助すること。
- (5) 展示及び保管の専門的、技術的な調査、研究に関すること。
- (6) その他学芸又は文化に関する他の博物館との連携及び情報交換に関すること。

(職の設置)

第5条 総合博物館に、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
館長	館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副館長 (2人)	館長を補佐し、館長に事故があるとき、又は館長が欠けたときは、その職務を代行する。
課長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
学芸員	上司の命を受けて、資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主事	上司の命を受けて、事務に従事する。
専門技師	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする技術に従事する。
主任技師	上司の命を受けて、複雑な技術に従事する。
技師	上司の命を受けて、技術に従事する。

2 前項に規定する副館長の職務の担当区分は、一人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副館長が館長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副館長

第2順位 業務担当の副館長

4 第1項に規定する職のほか、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
参事	上司の命を受けて、総合博物館の特定の事務を掌理する。
主幹	上司の命を受けて、総合博物館の特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする総合博物館の特定の事務を掌理する。
副主幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は総合博物館の特定の事務を掌理する。
主査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

5 第1項に規定する館長の職は、非常勤とすることができる。

第6条 前条に規定する職のほか、必要に応じ、会計年度任用職員を置く。

2 会計年度任用職員は、上司の命を受けて、事務又は技術に従事する。

(開館時間)

第7条 総合博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。

2 館長は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

(休館日)

第8条 総合博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。)
- (3) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで
- (4) 特別整理期間(あらかじめ、館長が定めて公示する期間)

2 館長は、必要があると認めるときは、臨時に前項各号に掲げる休館日に開館し、又は開館日に休館することができる。

(施設の使用申込み)

第9条 特別展示室を利用しようとするものは、使用期日の30日前までに、特別展示室使用申請書(別記様式第1号)を提出して、使用許可を受けなければならない。

(使用許可)

第10条 前条の規定による使用許可は、特別展示室使用許可書(別記様式第2号)を当該申請者に交付して行うものとする。

2 次の各号のいずれかに該当するときは、使用を許可しない。

- (1) 使用申請書の内容に偽りがあるとき。
- (2) 公の秩序又は風俗を乱すおそれがあるとき。
- (3) 館内の施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (4) 集団的又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれのある組織の利益になると認められるとき。
- (5) その他管理運営上支障があると認められるとき。

(使用者の遵守事項)

第11条 使用を許可されたものは、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 許可された使用の目的又は条件に違反しないこと。
- (2) 公の秩序又は善良の風俗を乱さないこと。
- (3) 館内の施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
- (4) 他人の迷惑となるような行為をしないこと。
- (5) その他条例、規則及び館長の指示に従うこと。

(許可の取消し等)

第12条 使用者が第10条第2項各号のいずれかに該当するに至ったとき、又は前条の規定に反する行為があるものについては、特別展示室の使用許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

2 前項の取消し等によって使用者に損害が生じて、県は、その損害の賠償の責を負わないものとする。

(使用後の検査)

第13条 特別展示室の使用を終えて原状に回復したものは、直ちに、館長に報告して検査を受けなければならない。

(入館制限等)

第14条 館長は、総合博物館の管理運営上支障があるとき、その他入館しようとする者が次に掲げる行為をするおそれがあると認められるときは、入館を制限し、又は拒絶することができる。

- (1) 総合博物館における秩序又は風紀を乱す行為
- (2) めいてい等により公衆に迷惑をかける行為

- 2 入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。
 - (1) 前項第1号及び第2号に掲げる行為をしないこと。
 - (2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
 - (3) 許可なく展示品に触れたり、写真撮影、模写等をしないこと。
 - (4) 指定する場所以外において喫煙又は飲食をしないこと。
 - (5) その他関係条例、規則及び総合博物館の係員の指示に従うこと。

3 館長は、入館者が前項の規定に違反したときは、退場を命ずることができる。

(資料の館内利用)

第15条 資料を学術上の研究のため特に利用しようとするものは、館長の承認を受けなければならない。

(図書資料の複写)

第16条 図書資料の複写は、著作権法（昭和45年法律第48号）第31条の規定に基づき、利用者の調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分について行うものとする。

2 図書資料の複写を依頼しようとする者は、図書資料複写申込書（別記様式第3号）を館長に提出しなければならない。

3 次に掲げる図書資料は、複写しないものとする。

- (1) 技術的に複写が困難な図書資料
- (2) 複写することによって損傷のおそれのある図書資料
- (3) 前2号に掲げるもののほか、館長が複写することを不相当と認めた図書資料

4 複写物の利用による著作権法上の責任は、当該複写物の提供を受けた者が負うものとする。

第17条 前条の規定により、図書資料の複写を依頼しようとする者は、当該図書資料の複写に要する費用を負担しなければならない。

2 前項の図書資料の複写に要する経費は、次の表に定める額とし、同費用は前納しなければならない。

区 分	単 位	金 額
電子複写（単色のもの）	複写1面につき	10円

(資料の館外利用)

第18条 資料の館外貸出しを受けようとするものは、資料館外貸出承認申請書（別記様式第4号）を提出し、館長の承認を受けなければならない。

2 前項の資料の館外貸出しを受けることのできるものは、次のとおりとする。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣又は県教育委員会が指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校
- (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定めるもの
- (6) その他教育長が適当と認めるもの

3 前項の貸出期間は、30日以内とする。ただし、館長が特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

4 前項の規定にかかわらず、館務の都合により必要があるときは、資料の貸出期間中であっても、当該資料の返還を求めることができる。

(弁償)

第 19 条 入館者、使用者又は利用者が、資料、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、館長の指示に従い、現品又は相当の代価をもって弁償しなければならない。

(資料の選定及び評価)

第 20 条 資料の選定及び評価に当たっては、埋蔵文化財価格評価員に関する規程（昭和 44 年 3 月 15 日文化庁長官裁定）に準じ学識経験者の意見を徴することを原則とする。

(資料の寄贈又は寄託)

第 21 条 資料を寄贈又は寄託しようとする者は、資料寄贈、寄託申込書（別記様式第 5 号）により申請しなければならない。

2 前項の寄贈又は寄託が決定したときは、寄贈者又は寄託者に資料受領・預書（別記様式第 6 号）を交付するものとする。

3 寄贈資料は、寄贈者の氏名、寄贈年月日を記録し、永くその厚志を伝えるものとする。

4 寄託資料は、総合博物館所蔵の資料と同一の取扱いをするものとする。ただし、天災その他不可抗力によって生ずる損害については、補償の責を負わないものとする。

5 寄託資料は、寄託者の申請又は総合博物館の都合により返却することができる。

(委任)

第 22 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則 (抄)

(施行期日)

1 この規則は、昭和 46 年 3 月 2 日から施行する。

：

附 則 (令和 2 年 3 月 30 日教育委員会規則第 7 号)

この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

特 別 展 示 室 使 用 申 請 書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住 所

電 話

フリガナ

申請者 氏 名

性別（男・女）

生年月日 年 月 日

〔 法人にあつては、主たる事務所の所在地
及び名称並びに代表者の氏名 〕

関係条例規則を遵守しますので、下記のとおり使用を許可されるよう申請します。

記

行 事 の 名 称					
使 用 の 日 時					
使 用 の 区 分					
使 用 の 目 的					
共 催 者					
入 場 料 等	関係者	整理券	無料	有料（	円）
内 容					
※ 許 可	第	号	年	月	日
※ 使 用 条 件	宮崎県総合博物館特別展示室利用の手引きによる				
館 長	副 館 長	課 長	担当リーダー	※使用料	特 別 展 示 室

（注）申請者が法人にあつては、別紙「役員名簿」を提出してください。

図書資料複写申込書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

申請者 住所
氏名

〔 法人にあつては、主たる事務所の所在地
及び名称並びに代表者の氏名 〕

下記注意事項を遵守し、図書の複写を申請します。

複写目的	調査・研究（ ）	
図 書 資 料 名	複 写 箇 所	
※ 合 計	枚 数	金 額

- (注) 1 図書資料の複写は、著作権法（昭和 45 年法律第 48 号）の規定に抵触しない限りにおいて行います。
2 ※印のある欄は、記入しないでください。

様式第 4 号 (第 18 条関係)

資料館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

申請者 住所
氏名

印

品 名	数 量	形 状	許 可 条 件	備 考

上記申請のあった館外貸出について承認します。

年 月 日

宮崎県総合博物館長



様式 5 号 (第 21 条関係)

資 料 寄 贈 申 込 書
寄 託

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住 所

氏 名

印

次の目録に記載の資料を貴館に寄贈
寄託 したいので、申込みいたします。

目 録

品 名	数 量	形 状	解 説

(5) 宮崎県総合博物館処務規程

昭和 55 年 3 月 31 日
教育委員会教育長訓令第 4 号

(報告)

第 1 条 館長は、遅滞なく、次に掲げる事項を教育長に報告しなければならない。ただし、第 2 号に掲げる事項については、翌月の 10 日までに報告しなければならない。

- (1) 総合博物館の臨時の開館日又は休館日及び開館時間の臨時の変更に関する事。
- (2) 毎月の博物館資料の利用状況及び事業概要に関する事。
- (3) 博物館資料の受託及び返還状況に関する事。

(防災計画)

第 2 条 館長は、年度始めに防災計画を作成し、その概要を計画書（別記様式）により、4 月末日までに教育長に提出しなければならない。

附 則

この訓令は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 19 年 10 月 1 日教育委員会教育長訓令甲第 3 号抄）

(施行期日)

- 1 この訓令は、公表の日から施行する。

(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱

平成 3 年 3 月
館長 裁定

(趣 旨)

第 1 条 この要綱は、宮崎県総合博物館管理運営規則（昭和 46 年宮崎県教育委員会規則第 4 号、以下「規則」という。）第 22 条の規定により宮崎県総合博物館（以下「博物館」という。）所蔵の資料（以下「資料」という。）の取り扱い等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第 2 条 この要綱において規則第 15 条に規定する「資料の館内利用」とは、博物館内における資料の調査又は複製（図書の複写、写真撮影を含む。以下、同じ。）並びに文化財としての民家資料の利用（民家園全体も含む）をいい、規則第 18 条に規定する「資料の館外利用」とは、博物館外における資料の展示、調査又は複製をいう。

(館内利用承認)

第 3 条 館長は、次に掲げるものに、必要な条件を付して規則第 15 条の規定による館内利用を承認するものとする。なお、図書資料については、承認を要しない。

- (1) 教育、学術又は文化に関する事業の用に供することを目的とする国、地方公共団体及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 30 条に規定する教育機関
- (2) その他館長が特に必要があると認めるもの

- 2 資料の館内利用をしようとする者は、「資料館内利用承認申請書」（様式第 1 号）を提出しなければな

らない。この場合において、寄託資料又は著作権のある資料の館内利用をしようとする者は、寄託者又は著作権者の承諾書を添えて提出しなければならない。

- 3 民家資料の利用は、利用期日の 10 日前までに「民家資料利用承認申請書」（様式第 2 号）に利用計画書を添付し提出しなければならない。ただし、写真撮影等軽微なものについてはこの限りでない。
- 4 民家資料の利用承認は、「民家資料利用承認書」（様式第 3 号）を交付し、「民家資料利用受付台帳」（様式第 4 号）に記録する。

（館内利用時間）

第 4 条 利用時間は、午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分までとする。ただし、規則第 8 条の規定による休館日は除く。

（館内利用の制限）

第 5 条 館長は、規則第 15 条の承認を行うにあたり、次の各号の一に該当しないと認める場合に承認するものとする。

- (1) 申請書の内容に偽りがあると認められるもの
- (2) 展示又は保存上支障があると認められるもの
- (3) 寄託者又は著作権者の承諾が得られていないもの
- (4) 公の秩序又は風俗を乱すおそれがあると認められるもの
- (5) 火気の使用（但し、館長の許可を受けた場合を除く）及び営利活動に該当すると認められるもの
- (6) その他館内利用が適当でないとして認められるもの

（館内利用者の遵守事項）

第 6 条 利用を承認された者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 承認された利用の目的又は条件に違反しないこと
 - (2) その他館長の指示に従うこと
- 2 前項の規定に反する行為がある者については利用を取り消し、又は中止させることができる。
 - 3 取り消し等によって利用者に損害が生じても、県はその損害の賠償責任を負わないものとする。

（館内利用の場所）

第 7 条 資料の館内利用は、館長が指定した場所で原則として博物館職員立会の下に行うものとする。

（館内利用資料の返還）

第 8 条 資料の館内利用をしたものは、博物館職員による検査を受けた上で、当該資料を返還しなければならない。

（館内利用に要する費用）

第 9 条 資料の館内利用に要する費用は、利用した者が負担するものとする。

（館外利用承認）

第 10 条 館長は、規則第 18 条の規定により資料の館外貸し出しを承認するときは、必要な条件を付するものとする。

- 2 規則第 18 条で規定する学校が、資料の貸出しを受けようとするとき、館長が事前に決裁したリストにある資料については、学芸課長の決裁で貸出しできるものとする。
- 3 寄託資料又は著作権のある資料（複製をする場合に限り）の館外貸出しを受けようとする者は、「資料館外貸出承認申請書」（宮崎県総合博物館管理運営規則様式第 6 号）に寄託者又は著作権者の承諾書を添えて提出しなければならない。
- 4 第 5 条、第 6 条、第 8 条及び第 9 条の規定は、資料の館外貸出しについて準用する。

この場合において、これらの規程中「館内利用」とあるのは「館外貸出し」と読み替えるものとする。
(複製物の掲載等の許可)

第 11 条 館長は、資料の利用者が、資料の複製物を展示し、又は出版物等に掲載しようとするときは、次に掲げる条件を付して許可するものとする。

- (1) 複製物の著作権は、博物館に帰属させること
- (2) 複製物を展示し、又は出版物等に掲載するときは、「所蔵者名」を明記すること
- (3) 出版物等に掲載したときは、その状況を館長に報告すること

(資料受入委員会の設置)

第 12 条 寄贈及び寄託による資料の受入れの事務を円滑かつ適正に行うために、博物館内に「資料受入委員会」(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、館長及び副館長のほか、館長が指名した博物館職員をもって構成する。

(資料受入れの決定)

第 13 条 館長は、規則第 21 条第 1 項の規定による資料の寄贈又は寄託の申請があったときは、「資料受入委員会審議資料」(様式第 5 号)を作成させるものとする。

2 委員会は、「資料受入委員会審議資料」に基づき、当該資料の受入れについて協議するものとする。

3 館長は、前項の協議に基づき、当該資料を受入れるかどうかの決定をするものとする。

(寄贈資料等の管理)

第 14 条 館長は、寄贈資料又は寄託資料を受入れたときは、台帳に登録し、管理するものとする。

2 館長は、寄贈者に対し礼状等を贈り、感謝の意を表するものとする。

3 寄託資料の寄託期間等必要な事項は、寄託者と協議の上、定めるものとする。

(資料の廃棄)

第 15 条 館長は、次に掲げる場合に限り、資料を廃棄できる。

- (1) 破損等により資料価値を失ったもの
- (2) その他廃棄が相当と認められるもの

(その他)

第 16 条 この要綱に定めるもののほか、事務処理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 3 年 4 月 1 日から適用する。

:

附 則

この要綱は、令和元年 7 月 18 日から適用する。

(7) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱の運用

宮崎県総合博物館資料取扱要綱第16条に基づく資料の館内利用の取扱いについては、以下のとおりとする。

1 第3条（館内利用承認）について

民家資料利用事業としての民家資料の利用については、次のとおりとする。

(1) 対象者

個人又は団体（法人格の有無を問わない）

(2) 申請内容

民家園を利用する事業内容であるものとする。ただし、同要綱第5条に掲げる制限事項に該当するものを除く。

(3) 利用期間

民家園は、広く一般県民の利用に供することを目的としていることから、原則として3日以内とする。ただし、展示を事業内容とするものについては、個別に協議を行うものとする。

(4) 利用人数

(3)と同様の理由により、原則として5人以上の利用が見込まれる事業とする。なお、事業への一般来園者の参加の可否を問わない。

(5) 対象施設

文化財保護及び一般来園者の見学先の確保の観点から、原則として県指定文化財の2棟のいずれかとする。また、利用人員や事業内容から判断して、必要最小限の棟又は間の利用を認めるものとする。

(6) 飲食

申請書の利用承認条件「建物内での飲食は事前に許可を受けること」については、次のとおりとする。

- ・ 飲食物については、事業内容に伴い必然性のあるものに限る。
- ・ 火気による調理は不可（料理の持ち込み及び電気調理器による加温は可）。また、飲食物をこぼして畳を汚した場合は、利用者において直ちに拭き取ることとし、利用によって原状に回復し得ない損害が生じた場合は、利用者が賠償責任を負うものとする。

(7) その他

- ・ 民家園の適切な利用と利用方法の周知のため、事業を公開するものとする。

2 第5条（館内利用の制限）について

第5号中「営利活動に該当すると認められるもの」について、事業実施に当たり実費程度の徴収を行うものは、営利活動には該当しない。

民家資料利用承認申請書

令和 年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

申請者	住 所
	団 体 名
	(代表者) 氏名 印
	電 話 ()

下記のとおり利用を承認されるよう申請します。

行事の名称	
利用目的	(事業計画書等添付)
利用期間	令和 年 月 日 時 分 から 令和 年 月 日 時 分 まで
利用区分	A・旧黒木家 B・旧藤田家 C・米良の民家 D・椎葉の民家 E・建物を除く敷地
利用予定者数	主催者数 () 人 参加者数 () 人 合計 () 人
チラシ配布・看板設置	する しない (図案、計画書等添付)
利用承認条件	<ol style="list-style-type: none"> 1 利用の目的、条件に違反しないこと。 2 館長の指示に従うこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・開始前及び終了後は博物館へ必ず報告し、終了後は検査を受け、原状に回復すること。 ・展示、建物の保存に影響を及ぼす行為をしないこと。 ・公の秩序又は風俗を乱す行為をしないこと。 ・火気の使用及び営利活動をしないこと。 ・建物内での飲食は事前に許可を受けること。 ・監視員を必要とする場合は利用者が手配し配置すること。 ・看板、チラシ、照明器具を設置するときは博物館の許可を得て設置すること。 ・大声をあげたり、大きな音を出したりしないこと。 3 規定に反する行為があるものは利用を取消し又は中止させることができる。 4 取消し等によって利用者に損害が生じても県はその損害の賠償責任を負わない。 5 不測の事態が生じたときは直ちに博物館へ報告すること。また盗難、事故等には博物館は一切責任を負わない。 6 その他 ()

<令和元年度 利用案内>

開 館 時 間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 ○毎週火曜日（ただし8月13日は開館）
○国民の祝日の翌日
（土曜日、日曜日又は休日と重なるときを除く、ただし3月22日は開館）
○年末年始（12月28日～1月5日）
○特別整理期間（6月29日～7月3日）
○燻蒸による臨時休館（9月7日～18日）
※民家園は9月10日～15日休園
○館内メンテナンス期間（1月18日～1月26日）

入 館 料 無料（平成17年4月1日より）
※なお、特別展示会の観覧料はその都度定めます。

宮 崎 県 総 合 博 物 館 年 報 No.50

発行 令和3年4月1日

編集・発行者 **宮崎県総合博物館**

〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号

TEL 0985(24)2071

FAX 0985(24)2199

<http://www.miyazaki-archive.jp/museum/>

印刷 ワークステーション やじろべえ

〒880-0951 宮崎市大塚町権現前 874 番地 1

TEL 0985-48-2720